

316

861



始





陸軍主計監木村重行著

作戰給養論
(戰時食料問題)

卷四

大正
7.7.26
内交

故乃木大將閣下
井口大將閣下
松崎法學博士閣下

隈主計總監閣下
井出主計總監閣下

辻村主計總監閣下
田中主計監閣下

細評

作戰給養論

總目次

第一卷

第一編 總論

第二編 平時ニ於ケル給養準備

第三編 給養機關

第四編 給養裝備

第二卷

第五編 給養法

第六編 給養實施

第七編 給養品ノ補充

第八編 給養計畫及給養命令

總目次

第三卷

第九編 歐洲過去戰役ニ於ケル給養

第十編 現歐洲戰役ニ於ケル食料問題

第四卷

第十一編 東洋ノ過去戰役ニ於ケル給養

第十二編 戰費

第十三編 將來ノ給養法

第十四編 演習ニ於ケル給養

作戰給養論

本村重行著

第十一編 東洋ノ過去戰役ニ於ケル給養

第一章 要旨

東洋ノ過去戰役ニ於ケル給養ハ現今ノ歐洲戰役ニ比スレハ技術上ノ進歩ヨリ生シタル各種ノ利器ヲ戰爭ノ目的ニ遺憾ナク利用シタルコト少ナシト雖モ東洋ニ於ケル地形ハ歐洲ト異ナリ此等ノ利器殊ニ鐵道及自動車等ノ効力ヲ十分ニ發揮セシムルコト能ハサルモノアリテ將來ニ於テモ亦其ノ事跡ノ基準ト爲シ得ヘキモノ少ナカラス殊ニ日露戰役ノ結果ハ歐洲諸強國殊ニ露國ニ於ケル經理部ノ編制及軍隊給養ノ大改革ヲ促カスノ原因ト爲リ其ノ研究ノ價值多大ナルヲ以テ予カ從軍シテ實驗シタル第二軍ノ概略ニ基キ所見ヲ記述セントセシモ其ノ自由ヲ得サリシヲ以テ皇國ニ關スルモノハ單ニ過去ノ歴史及日露戰史日獨戰史其ノ他偕行社記事等ニ於テ一般ニ公表セラレタル範圍ニ止ルノ已ヲ得サルニ至レリ

建國以來ノ
給養法

第二章 皇國ニ於ケル給養法ノ沿革

二

皇國建國以來ニ於ケル戰時ノ給養法ハ現地調辨ヲ主トシ漸次個人ノ自給ヨリ將帥ノ手ニ移リシモノノ如シト雖モ其ノ詳細ニ就テハ竹帛ノ傳フル所ナシ元龜天正ノ頃ニ在リテハ各自ニ糧秣ヲ携帶セシムルノ外小荷駄ヲ編成シテ隊屬輜重ト爲シ又糧秣ノ準備集積及追送ノ方法ヲ整ヘ之カ機關トシテ小荷駄奉行、兵糧奉行ヲ臨時任命シ現地調辨ニ關シテモ農事ノ荒廢及掠奪ヲ防止スル爲メ屢々嚴肅ナル軍令ヲ發セシモノ少カラス。

明治六年ノ
給養法

明治維新ニ至リ戰時ノ給養法ヲ規定セシハ明治六年ノ在外會計部大綱條例ヲ以テ始メトス之ニ依レハ當時ノ給養法ハ左ノ三種トス。

- 一、請負法 各師團ノ糧食課軍吏提理ヲシテ出征地中便宜ノ地ニ就キ請負人ヲ選定シ之ヲシテ糧食ヲ各部隊ノ占領スル陣地ニ輸送シテ補給セシム
- 前項輸送地點、献立及分配ノ方法等ニ就テハ糧食課軍吏之ヲ指揮監督スルモノトス
- 二、買上法 出征地ニ於テ市場ヲ開カシメ必需品ヲ買上ケテ支給ス變則トシテ現金ヲ各自ニ給シ各個ニ調辨セシムルコトアリトス

三、前二法

ヲ

ヲ行ヒ難キトキハ小荷駄ノ組立ト馬匹ノ多少ヲ定メ糧食其方法ニ關シテハ出師ノ際臨時陸軍卿地方ノ狀況ニ基

糧ニ其地ニ據ルヲ原則トセシモノトス

規定ト稍其ノ趣ヲ異ニシ左ノ如ク金錢給養ヲ本

トシ各兵隊ハ現金ノ配與及支給ヲ受ケテ各

穀、薪炭、油、醬油、草秣等ノ總テヲ現品支給

囊ニ收藏セシム

養ニ關シ規定セシ概要ハ左ノ如

則ニ基キ精密ニ地方ノ物資

勞ヲ省キ且輸送ノ費用ヲ

三

一、部隊長ニ於ケル給養ノ責任明確ナラス從テ上陸當初牙山ノ戰鬪ノ如キハ臨時給養隊ヲ編成シテ之ヨリ炊爨品ヲ受領シ部隊長ハ全ク給養ニ關係セザリシカ如シ

二、監督部ニ於ケル給養ニ關スル注意不十分ナリ殊ニ開戰當初ニ於テ然リトス

三、高等司令部ニ於ケル物資調辨適切ヲ缺キシコト少カラス例セハ左ノ如シ
1、仁川上陸當時即チ六月十三日ニハ精米約三萬五千石現在シ其ノ價格ハ内地ニ比スレハ一石ニ付二、三圓低廉ナリシモ將來ノ豫備ニ充ツル目的ヲ以テ之カ購買ヲ行ハス又之ニ對シ何等ノ處置ヲ施サザリシニ因リ其ノ大部ハ仁川市場ヨリ影ヲ沒シテ輸出セラレ七月十三日ニハ僅ニ八千石ニ減少セリ

2、第五師團殘餘部隊ノ上陸地タル釜山ニ於テモ六月中旬ニ於ケル現在物資ハ該地先發員ノ報告ニ依レハ多量ニシテ朝鮮白米ノ如キハ約六千七百石現在セリ然ルニ六月二十七日此ノ地ニ倉庫ヲ設置シタルニ拘ラス該先發員ハ將來大兵團ノ其ノ地ニ上陸スヘキコト及其ノ調辨ニ關シ何等ノ指示ヲ受ケザリシヲ以テ唯物資調査ノミニ從事セリ七月八日ニ至リ白米及玄

研究事項

米ヲ悉皆購入スヘキノ命ヲ受ケ倉皇買收ニ從事セシ際ニハ既ニ續々皇國ニ輸出セラレタル後ナリシニ因リ大ナル困難ヲ以テ精米二千石、大麥三百石ヲ買收シ得タルニ過キサリシト云フ
然レトモ給養品追送ノ不完全ニ基キ給養ニ困難ヲ告クルヤ軍隊自ラ現地ノ物資ヲ調辨シ雜穀等ヲ主食ノ代用トシ能ク困苦缺乏ニ堪ヘテ作戰ノ目的ヲ達シタルコトハ將來ニ於テ大ニ參考トスヘキコトトス

第二節 上陸地給養ノ狀況

上陸ノ狀況

明治二十七年五月初朝鮮ニ東學黨ノ亂起リ韓廷之ヲ鎮壓スルコト能ハス援ヲ清國ニ請ヒ清國ハ將ニ其ノ兵ヲ朝鮮ニ出サントスルヤ皇國ハ公使館及居留民保護ノ爲メ混成第九旅團ヲ派遣シテ仁川ニ上陸セシメ次ニ第五師團ノ殘部ヲ京城ニ集合セシメント欲セシモ朝鮮西海岸ニ於ケル航海ハ危險ノ虞多キヲ以テ仁川ニ輸送スルヲ得ス元山ハ之ニ反スト雖モ進路險惡ナルヲ以テ一部ヲ元山ニ其ノ他ヲ釜山ニ上陸セシムルコトト爲セリ

混成旅團ハ動員ノ完結ヲ待タス先ツ步兵一大隊ヲ先發セシメ他ハ第一、第二次輸送隊ニ區分シ其ノ第一次輸送隊ハ六月十五日仁川ニ上陸ス此ノ旅團給養ノ爲ニ

混成旅團ノ給養

ハ大本營ヨリ別ニ仁川ニ監督一、軍吏一ヲ派遣シテ之カ準備ニ任セシメ左ノ如ク種々ノ給養法ヲ爲セリ

八

一、給養品ハ請負人ヲ定テ之ヲ供給セシメ仁川領事館内ニ炊爨所ヲ設ケ居留民總代ヲシテ炊爨ヲ請負ハシム

二、後各部隊ハ飲料水ノ供給ヲ受ケ部隊自炊ヲ爲サントヲ希望セシヲ以テ居留地西方山麓ニ在ル井戸ヲ買収シテ其ノ使用ニ供シ各部隊ノ便宜ニ依リ舍主炊爨又ハ部隊自炊ヲ爲サシメタリ

三、第二次輸送部隊ノ爲ニハ兵站監督部ニ於テ炊爨品ヲ給スルコトト爲シ主食ハ居留地内ニ在ル搗精場ノ蒸汽機關ヲ利用シテ炊爨セシメ炊爨力一時間ニ二石トス副食物ハ領事館内ニ於テ調理シ主食ト共ニ四斗樽ニ入レテ分配セシモ後倉庫給養ニ移シ部隊自炊ト爲セリ

飲用水ノ缺乏

飲用水ハ各上陸地共ニ不足ニシテ大ニ困難セリ其ノ概況ハ左ノ如シ
釜山居留地ハ當時人口約四千四百ニシテ一萬人ヲ含營セシメ得ルモ井戸數甚々僅少ナリシノミナラス數月以來ノ旱魃ノ爲メ涸渴シ軍隊ノ飲料水ハ我海軍省石炭庫内ノ井水及大水谷ノ溪水ニ依ルノ外ナク此ノ溪水モ亦平常ノ五分ノ

一ヲ存スルニ過キサリシヲ以テ居留民ニ命シテ大ニ水ヲ節用セシメ人夫ヲ雇役シテ晝夜ヲ分タス水ノ運搬ニ從事セシメ漸ク炊爨用ヲ充タスヲ得タリ
元山居留地ニ於テハ飲料水ノ缺乏ヲ補フ爲メ各戸ヨリ四斗樽ヲ供出セシメ之ヲ領事館前ニ排置シテ貯水シ之ヲ分配スル等ノ處置ヲ爲セリ

第二節 混成旅團ノ前進ニ係ル給養

混成旅團第一次輸送隊ノ龍山ニ前進スルヤ其ノ給養ハ徵發若クハ倉庫ニ依ルコト爲シ糧秣及貯水船ヲ水路ヲ以テ同地ニ輸送セント爲シモ漢江ハ水淺ク流レ急ニシテ汽船ノ交通意ノ如クナラス只潮勢ヲ利用シテ航行シ得ルニ過キス之ニ加フルニ出發當日漢江ノ水漲溢シテ曳船ノ便ヲ失シ陸路輸送モ亦當時浮説百出シ土人ノ戰々競々タルニ乘シ在仁川官吏カ皇國軍ノ動作ヲ妨害スル爲メ之ヲ威嚇セシヲ以テ韓人夫ハ後難ヲ恐レ出發ニ際シ悉ク逃走シ隻影ヲ止メサリシニ因リ僅ニ居留民ヲ雇役シテ輸送スルノ狀況ナリシヲ以テ糧秣輸送ニ非常ナル困難ヲ極メシモ全力ヲ擧ケテ輸送ニ從事セシ結果幸ニ給養ニ支障ナキヲ得タリ
第二次輸送部隊ノ前進ハ行程約十里ニシテ炎熱ナリシト飲料水ノ缺乏並ニ晝食ノ腐敗セシ等トノ爲メ僅ニ携帶罐肉ヲ使用シテ一時ノ飢餓ヲ凌ク等非常ナル困

龍山へノ前進ノ給養

輸送ノ困難

難ヲ冒シテ行進ヲ續行セシ結果中隊ニ依リ三分ノ一若クハ二分ノ一ノ落伍兵ヲ出シタルノ狀況トス

第四節 牙山攻撃ノ給養

六月末ニ至リ牙山ニ集合セル清兵ハ二千五百ニ達シ其ノ主力ハ續々平壤ニ集合セシヲ以テ混成旅團長ハ先ツ牙山ニ在ル清兵ヲ擊破セントセシモ事情アリテ未ダ決行スルコト能ハス七月二十三日ニ至リ日韓攻守同盟ヲ締結セシニ依リ二十五日ヲ期シ京城ヲ出發スルコトト爲セリ當時旅團ニハ監督部員等ヲ別ニ附屬セラレタルコトナキヲ以テ臨時給養隊ヲ編成シ(長歩兵中尉副官二等軍吏各大隊及獨立隊ヨリ軍吏若クハ書記ヲ出シ之ニ各部隊ノ給養掛炊事卒傳騎及炊具ヲ附屬ス)糧食ノ炊爨及分配ニ任セシメ行進間ハ調辨及輸送ヲ容易ナラシムル爲メ前衛ト本隊トノ間ニ在リテ行進セシムル如ク計畫セリ然ルニ旅團出發ノ際ニ當リ行李及縦列用ノ運搬具トシテ數日前ヨリ契約シ置キシ韓人及馱馬ハ悉ク離散シテ全ク隻影ヲ止メス幸ニ領事等ノ盡力ニ依リ若干ノ運搬具ヲ得テ午後ニ至リ出發スルヲ得タルノ狀況ニシテ給養隊ノ携行糧秣延著セシヲ以テ二十六日ノ宿營地タル果川ニ米麥一日分、水原ニ同日分ノ徵發ヲ課シ當日ノ給養ニ充テントセシ

牙山攻撃ノ給養

給養隊ノ編成

糧秣ノ現地調辨

モ該地方官吏物資現在セルニ拘ラス言ヲ左右ニ托シテ之カ供給ヲ躊躇セシニ因リ先ツ各自携帶精米ノ一半ヲ集メ給養隊ニ交付シテ炊爨セシメ其ノ徵集シ得タル糧秣ノ大部ハ運搬力不足ノ爲メ該地ニ殘置シテ倉庫充實ノ用ニ供セリ

二十七日モ亦振威ニ於テ米麥一日分ノ徵發ヲ爲セリ然レトモ此ノ戰役間副食物ヲ徵發シタルハ水原府ニ於テ食鹽一石六斗ヲ徵發シタルノミニシテ他ハ悉ク携行品若クハ追送品ヲ使用セリ

七月二十八日以後ハ現地調辨ノ見込ナキヲ以テ總テ追送品ヲ以テ給養シ二十九日成歡ノ敵ヲ攻撃スル際ニハ一萬二千食分ヲ炊爨シ之ヲ四千食宛三回ニ輸送スル如ク計畫シ二十九日午前一時ヨリ炊爨ヲ開始シ第一回分ヲ發送セリ然ルニ旅團ハ敵ヲ擊退シ牙山ニ向ヒ前進セシヲ以テ八千食ノ糧食ヲ本隊ニ追及セシメ給養隊ハ午後四時ヲ以テ宿營地ヲ出發セリ然ルニ軍勿里ノ渡場ト道路泥濘トノ爲メ時間ヲ徒費シ平澤ニ達セシハ日没後ニシテ夜暗ト道路ノ險惡トノ爲メ人馬疲勞シ炊具、糧秣ヲ泥中ニ委棄セシモノ少カラス午後十一時屯浦ニ達セリ然ルニ先キニ發送シタル糧食ハ旅團宿營地ニ到着前日没トナリ同様ノ困難ト渡河スルノ方法ナキトヲ以テ遂ニ空シク歸來セリ而シテ此ノ糧食ハ翌朝ニ至レハ腐敗スヘ

炊爨食ノ分配

キニ因リ更ニ炊爨セサルヘカラス然ルニ宿營地ニハ僅ニ一箇ノ井水アルニ過キ
 ス而モ汚濁ニシテ利用スル能ハス河水モ亦同様トス故ニ夜ヲ徹シ蒸飯四千食分
 ヲ作り之ヲ三十日未明牙山ニ向ヒ送致セシメタリ
 以上ノ如キ狀況ナリシヲ以テ旅團ハ此ノ日携帶糧秣ヲ以テ給養セリ給養隊ノ糧
 食ハ白石浦ヲ經テ前進セシニ因リ旅團ニ先チテ牙山ニ到着シテ晝食ニ供スルヲ
 得タリ然ルニ給養隊ハ昨夜多數ノ糧秣ヲ委棄シタルヲ以テ其ノ殘餘ハ僅ニ糧食
 二食分ニシテ馬糧ハ皆無トナリシモ幸ニ戰利糧秣及玄米ヲ以テ給養ニ充ツルコ
 トヲ得タリ

第五節 釜山上陸部隊ノ給養

釜山上陸

七月二十九日ニ於ケル豐島海戰ノ結果清軍増兵ノ確證ヲ得ルヤ大本營ハ第五師
 團殘部ノ派遣ヲ決定シ七月三十一日先ツ兵站監部ヲ釜山ニ派遣シテ該地ノ設備
 ヲ爲サシメ續テ此ノ地ニ上陸セシム其ノ先發大隊ハ八月三日上陸四日行進ヲ開
 始シ師團ノ殘部ハ八月七日ヨリ四梯團ニ區分シテ逐次前進セリ
 是ヨリ先キ七月六日大本營ハ監督一ヲ先發セシメ釜山京城間ノ物資調査及精米
 ノ購買ニ任セシメ且成ルヘク多量ノ精米ヲ水路大邱及尙州ニ輸送シ置クコトヲ

給養準備

努メシメシモ河船ノ僅少ト地方官民ノ我行動ヲ妨碍スルトニ因リ意ノ如クナラ
 スシテ其ノ實行遲緩シ八月二日精米一千石ヲ大邱へ同五日一千石ヲ尙州ニ向ケ
 水路發送シ地方人夫ヲシテ曳船セシムル等急航ヲ企テシモ前者ハ四日ニ至ルモ
 容易ニ達スルノ見込ナク後者ハ沙門以北ノ遡流困難ニシテ洛東ニ到着セシハ八
 月二十七日トナリ全ク行進部隊ノ爲メ利用スルコトヲ得サリシトス

前進間ノ給養

釜山出發部隊ニ於ケル前進間給養ニ關シテハ釜山ニ現在スル軍役夫及臨時雇役
 ノ韓人夫ヲ以テ大邱迄ノ需要品ヲ携行セシメ該地ニ於テ更ニ前送ニ關スル裝備
 ヲ爲スノ豫定ナリシモ既ニ述ヘタル如ク大邱へノ糧秣前送未タ緒ニ就カサリシ
 ヲ以テ京城ニ到ル迄ニ於ケル給養ノ準備トシテ韓人夫及馱牛ヲ以テ各部隊ニ十
 五日乃至十六日分ノ糧秣ヲ携行セシムル如ク計畫シ一方ニハ京城方面ニ於ケル
 糧秣準備良好トナリシトノ情報ニ接セシヲ以テ龍山ヨリ漢江ノ水路ヲ利用シテ
 差向キ精米五百石及之ニ應スル副食物ヲ河潭ニ送附セラレタキコトヲ要求シテ
 不時ノ準備ニ供セリ(此ノ準備品ハ十九日忠州ニ達セリ)
 以上ノ如ク給養ノ準備ヲ爲セシト雖モ道路ノ險惡ナルト炎暑ノ酷烈ナルトニ因
 リ馱牛ノ斃死韓人夫ノ逃走等相續テ起リ糧秣ノ跟隨意ノ如クナラスシテ一時滯

輸送ノ困難
 爲メ前進
 運滯

在シテ之ヲ整理スルノ已ヲ得サルニ至リシノミナラス各部隊ハ現地調辨ヲ勵行セシモ僅ニ馬糧ノ不足ト若干ノ副食物ヲ得タルニ過キスシテ行進遲滯シ京城ニ達スル爲ニハ携帶糧秣ノ全部ヲ費消スルモ尙三四日分ノ不足ヲ生スルノ狀況トナリシモ幸ニ龍山ヨリ水路輸送セシ糧秣忠州ニ到着シタルヲ以テ之ヨリ補給ヲ受ケ餓餓ヲ免カルルヲ得タリ

當時此ノ前進遲滯ニ際シ給養當局者ノ處置ハ大ニ將來ノ研究トナルコトナラン師團監督部長ハ第一次行進部隊ト共ニ旅次行軍ヲ爲シ兵站監督部長モ亦此ノ困難ヲ救済スル爲メ特ニ處置シタル事跡ノ微スヘキモノナキヲ遺憾トス

第六節 平壤ニ向フ前進間給養

第一 行軍及給養ノ計畫

混成第九旅團長ハ京城ニ凱旋後釜山及元山上陸部隊ノ陸路京城ニ向テ前進スルヲ知リ此等部隊ノ集合前ニ於テ若シ平壤ニ集中シツ、アル敵カ前進シ來ルトキハ臨津江附近ニ於テ之ヲ迎撃センコトヲ企圖シ臨津鎮支隊及朔寧支隊ヲ編成シ十一日及十二日ヲ以テ運動ヲ起サシメタリ十九日第五師團長ハ京城ニ着シ敵ヲ

平壤ニ向フ前進

朝鮮國外ニ驅逐セント欲シ左ノ前進計畫ヲ爲セリ

混成第九旅團(歩兵約五箇大隊ヲ基幹トス) 義州街道ヲ前進シ専ラ敵ノ正面ニ動作セシム

朔寧支隊歩兵約一箇大隊半ヲ基幹トス) 朔寧ヨリ新溪、遂安、江東ヲ經テ敵ノ左側ニ逼ラシム

師團ノ主力 敵ノ背後ニ逼リ其ノ退路ヲ奪ヒ海岸ニ驅逐セシム

以上ノ計畫ニ基キ混成第九旅團ハ南川店ニ朔寧支隊ハ新溪ニ、本隊ノ第一梯團歩兵二箇大隊、砲兵一箇大隊ハ開城ニ進出シ九月一日ヲ期シテ北進運動ヲ開始セントス

次テ師團長ハ元山支隊ヲ平壤攻撃ニ參與セシムルニ決シ九月九日迄ニ元山支隊ヲ成川ニ、朔寧支隊ヲ三登ニ、混成第九旅團ヲ中和ニ、師團ノ主力ヲ黃州ニ前進セシメ爾後元山支隊ハ慈山、順安ヲ經テ、朔寧支隊ハ江東ヲ經テ平壤ニ進マシメ師團ノ主力ハ黃州附近ニ於テ大同江ヲ渡リ此ノ間大ナル故障ニ遭遇セサレハ十五日ヲ期シ一齊ニ平壤ヲ攻撃セントス

此ノ前進ニ對スル給養ノ爲メ處置セシ概要ハ左ノ如シ

平壤ノ包圍攻撃

前進ノ給養處置

- 一、龍山ヨリ平山、瑞興ニ至ル兵站路ヲ設置シ混成旅團ノ臨津鎮ニ集合スルヤ八月九日人一萬馬五百ニ對スル十日分ノ糧秣ヲ水路龍山ヨリ此地ニ輸送シ高陽ニハ陸路ヲ以テ師團一日分ノ糧秣ヲ集積セシム
- 二、臨津鎮ヨリ前方ハ軍隊ノ前進前ニ於テ兵站ヲ延伸シ地方ノ人馬ヲ徵發シテ糧秣ヲ輸送セシム
- 三、地方ニ於ケル糧秣及人馬ノ徵集ハ各隊ヲシテ努力セシメ以テ後方勤務ヲ容易ナラシム
- 四、混成旅團及朔寧支隊ハ自ラ地方物資ヲ徵發シテ給養シ兵站部ノ不足ヲ補ハシム但シ混成旅團ハ輕裝ヲ主トシ大行李ニハ炊具ノミヲ携行シ且該兵額ニ應スル一日分ノ糧食縱列ヲ附屬セシム

第二 混成旅團及朔寧支隊ノ給養

混成旅團ハ前進ニ先チ先ツ金川及平山ニ倉庫ヲ設置スル爲メ步兵第十一聯隊ノ一箇大隊ニ騎兵一小隊ヲ附シ二十六日開城ヲ發シ金川、平山、葱秀等ニ於ケル糧秣及運搬材料等ノ徵發ニ任セシメ翌二十七日同聯隊ノ殘部ヲ出發セシメ二十八日旅團ノ主力ヲ出發セシメントス

倉庫設置ノ先遣隊

徵發隊ノ徵

步兵第十一聯隊ハ豫定ノ如ク糧秣及運搬具ヲ徵發シツ、二十九日葱秀ニ達セリ然ルニ金川河増水ノ爲メ糧秣ノ追送不能トナリシヲ以テ三十日士官ノ指揮スル徵發隊三箇ヲ編成シ糧秣ノ徵發ニ從事セシメ其ノ效果少ク精米ノ定量ヲ五合ニ減少セシカ幸ニ三十一日ハ平山ヨリ糧秣ヲ追送シ來リシヲ以テ定量ニ復スルヲ得タリ

兵站ノ準備

兵站ハ混成旅團ノ一部二十六日ヨリ金川ニ向ヒ前進セシヲ以テ兵站監ハ直ニ仁川ニ準備シアリシ精米三百俵ヲ助邑浦ニ輸送スヘキコトヲ命令シ次テ第二次輸送ヲ命セリ然ルニ水路輸送ハ當初只陸路ノ補助トシテ使用セシ爲メ其ノ數量ハ僅少ニ且全ク馬糧ヲ缺ケリ

陸路輸送ノ困難

旅團ノ主力ハ二十八日開城ヲ發シ金川ニ至ル此ノ日助邑浦、平山間ノ輸送ヲ開始セシモ副食物及馬糧ヲ全ク缺キ開城、金川間ニ於テモ亦大麥ノ需要量ヲ追送スルコト困難ニシテ先發第十一聯隊ノ給養危險トナリ旅團ヲ南川店ニ進ムルコト能ハサリシヲ以テ兵站監ニ馬糧及副食物ノ水路追送ヲ要求セリ此ノ夜暴雨アリ河水漲リ旅團ノ前進ヲ阻止セシニ由リ給養上ニハ却テ便益ヲ得タリシモ馬糧ノ不足ハ如何トモスルコト能ハス途ニ携帶馬糧ヲ消費シ僅ニ此ノ日平山ニ到ルヘキ

糧食縦列ノ積載品中ニ有セシ大麥五十俵ヲ利用シテ馬糧ノ不足ヲ補フヲ得タリシ狀況ナリシヲ以テ再ヒ兵站監ヘ馬糧及副食物ノ急送ヲ督促セリ當時給養ノ責任者タル師團監督部長以下ハ八月二十八日ニ至リ初メテ京城ニ來着シ師團長ハ十九日到着ス茲ニ初メテ同部長ノ處置ヲ見ルコト、ナレリ其ノ概要左ノ如シ

一、混成旅團及朔寧支隊ノ自活ヲ助クル爲メ徵發團軍吏ヲ長トシ書記、警部、巡查朝鮮士官等ヲ附屬ス二箇ヲ編成シ八月三十一日出發旅團及支隊ニ追及セシム

二、監督部ハ師團司令部ニ在リテ行進シ專ラ本隊ノ給養ヲ處理ス

以上ノ處置ハ混成旅團及朔寧支隊ノ給養ヲ擔保スルモノニアラスシテ單ニ之ヲ補助スルニ過キス而モ其ノ出發ハ三十一日ナルヲ以テ先發部隊ノ所在地ニ到着スルハ約三日後ナラサルヘカラス之ニ加フルニ行進線上ニ於ケル附近村落ノ徵發ハ既ニ各隊ノ任スル所ナリシヲ以テ此ノ徵發團力大ナル効果アルヘシトハ期待シ能ハサリシ所トス

又當時第五師團長ハ平山ニ兵站監督部長ノ來着ヲ望ミタリシモ龍山ノ位置ヲ難

ルルコト能ハストノ理由ヲ以テ軍吏ヲ派遣セリ

兵站監ハ混成旅團ヨリ追送糧秣ノ品種及數量増加ノ要求ニ基キ新ニ仁川ニ於テ船舶ヲ徵集シ大ニ輸送力ヲ増加セシト雖モ助邑浦ニ於ケル揚陸糧秣ノ前送ハ輸送力缺乏セシノミナラス九月一日夜ニ至リ其ノ徵發馬ハ全部(六十頭)逃走セシヲ以テ更ニ前送ニ一頓挫ヲ生セリ

兵站監ハ前陳ノ如キ狀況ニ基キ金川以北ニ於ケル陸路輸送ノ恃ムヘカラサルヲ悟リ成ルヘク水路ヲ利用シテ陸路ヲ短縮セントシ左ノ如キ計畫ヲ爲セリ

一、南川店ヨリ前進スルニ際シテハ糧秣ヲ海路海州ニ送り之ヨリ陸路載運ニ輸送スルコト

二、平壤占領後ハ海路直ニ大同江ヲ遡リテ輸送スルコト

然ルニ第一ノ輸送ハ利用シ得ヘキ船舶ノ不足ト海州灣水淺クシテ大船ヲ航行セシムル能ハサリシトヲ以テ九月三日漢口通ノ小蒸汽船二隻ニ糧秣ヲ搭載シテ仁川ヲ出發セシメタルニ過キス第二ノ航路ハ當時海軍ハ全力ヲ擧テ第三師團ノ輸送護衛ニ任シ糧秣船ニ護衛ヲ附スルノ全力ヲ有セサルヲ以テ實行ヲ望ミ難キ狀況トス

給養狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ混成旅團長ハ三月三十一日平山ニ至ルヤ左ノ
處置ヲ爲セリ

- 一、一箇中隊ハ南川店ニ派遣シ成ルヘク多數ノ糧秣及駄馬ヲ徵集シテ葱秀ニ在
ル軍隊倉庫ニ送付セシム
- 二、瑞典ニ歩兵一箇大隊ヲ派遣シ兵站倉庫ヲ設クル目的ヲ以テ成ルヘク多數ノ
糧秣及駄馬ヲ集積セシム但シ此ノ大隊ニハ該地ニ於テ糧秣ヲ徵集シ得サル
場合ノ豫備トシテ糧食約一萬人分ヲ積載スル糧食縦列ヲ附屬ス
- 三、軍隊直接ノ徵發ハ成ルヘク之ヲ避ケ地方官吏又ハ名望家ヲ使用シテ購買セ
シム

九月二日混成旅團長ハ師團長ヨリ運搬用駄獸ノ徵發困難ナル場合ニハ任意ニ兵
卒ヲ使役スルモ妨ケナシトノ訓令ヲ受ケタルト到底追送ヲ期待シ得ヘカラサル
ノ狀況ナリシトニ因リ左ノ處置ヲ爲セリ

- 一、各隊ノ駄牛馬ハ成ルヘク生草飼養ヲ爲シ馬糧ノ不足ヲ補ハシム
- 二、兵站部ノ輸送力ヲ増加スル爲メ各部隊ノ大小行李ヨリ駄馬ヲ割キテ之ヲ平
山兵站部ニ交付シ九月三日ヲ以テ葱秀附近ニ旅團一日分ノ糧食ヲ前送シ爾

後爲シ得ル限り追送ヲ繼續セシム

- 三、各人馬ニ一日分ノ米麥ヲ携帶セシム
- 以上ノ如クシテ九月三日旅團ハ前進ヲ起セシモ南川店ニ派遣セシ徵發中隊ハ得
ルモノ無ク瑞典ニ於ケル大隊モ亦僅ニ米二十五俵麥八十一俵豆八十俵ヲ得タル
ニ過キサリシヲ以テ旅團ハ葱秀ニ於テ携帶米麥ヲ使用シテ給養セシモ幸ニ平山
兵站部ヨリノ前送品到着シタルニ因リ之ヲ補充シ爾後先行大隊ノ殘置セシ糧秣
ト現地調辨品ニ依リ給養シ黃州ニ於テハ約混成旅團ニ要スル精米五日分、馬糧四
日分ヲ鹵獲セシヲ以テ粟食ノ混用ヲ廢シ且規定外ニ人ハ精米二日分、馬ハ雜穀一
日分ヲ携帶セシメテ十日中和ニ到着セリ

朔寧支隊ハ新溪出發後ハ南川店ヨリモ元山ヨリモ糧秣ヲ追送スルノ望ナキヲ以
テ爾後ノ給養ハ一ニ携帶口糧ノミニ依ルヘキノ命令ヲ受ケシモ該隊ハ到着以來
成ルヘク徵發ニ依リ生活スルノ方針ヲ採リ追送品ヲ節約シテ七日分ノ糧食ヲ有
セシヲ以テ之ヲ各隊ノ大行李及遂安、谷山等ニ於テ徵發シタル牛馬ニ依リ前送シ
之ニ現地ニ於テ徵發シ得タル物資ヲ混用シテ給養ヲ維持セリ

第三 師團本隊ノ給養

師團本隊ノ
給養

師團本隊ハ既ニ兵站設備ノ成レル線路ヲ前進セシト雖モ沿道ノ住民ハ殆ント逃
亡シテ徵發ノ効果僅少ナリシノミナラス水路輸送ノ糧秣ハ陸路運搬具不足ノ爲
メ助邑浦ニ滯積シテ平山ニ輸送スル能ハス平山鳳山間ニ於ケル輸送力ノ缺乏モ
亦同一ニシテ其ノ給養ノ粗惡ナリシコトハ先行團隊ニ劣ラス殊ニ副食物ニ缺乏
シ第二梯團諸隊ノ大行李ハ劔水驛ニ於テハ僅ニ食鹽ノ補充ヲ受ケタルノミトス
鳳山ニ到着シタルトキ該地ニハ師團本隊ニ對スル二日分ノ糧秣現在スルニ過キ
ス然ルニ師團ハ此ノ地ニ一日間滞在スルノ計畫ナリシヲ以テ之ヲ使用シ盡セハ
前方ニ在ル軍隊ノ大行李補充用糧秣ヲ欠クニ至ルヲ以テ監督部員等ヲ沙里院銀波
及載寧ニ派遣シテ徵發セシメ鳳山ニ於ケル二日間ノ主食ハ米六分、粟四分ヲ混用
シ副食物ハ鹽ノミヲ給シ馬糧ハ粟及大豆ノミヲ使用スルノ已ヲ得サルニ至レリ

第四 元山支隊ノ給養

元山支隊ノ
給養

給養準備

元山上陸ノ支隊ハ先發隊步兵第十八聯隊ヲ基幹トスル混成支隊(後發隊步兵第六
聯隊ヲ基幹トスル騎兵中隊及彈藥縱列等)ノ二大部ニ分レ上陸後逐次平壤ニ向ヒ
出發ス當時道路險惡ニシテ追送ノ困難ナルヲ顧慮シ左ノ處置ヲ爲セリ
一、副食物ノ定量ヲ減少シ七日分ノ糧食ヲ各兵及牛背ニ携行セシム(牛ハ出發當

行軍ノ困難

現地調辨ノ
狀況

給養ノ狀況

初十五貫匁ヲ負擔セシメシモ後道路ノ險惡ト疲勞トノ爲メ八貫匁ニ減少セ
リ)
二、兵站ノ追送困難ナルヲ顧慮シ先發隊ノ一箇大隊ヲ陽德ニ止メ物資ヲ徵發シ
且糧秣ノ前送ニ關シ兵站部ヲ補助セシム此ノ大隊ハ滯留六日間ニシテ同所
ヲ出發セリ

三、沿道各地ニ於テ物資徵發ヲ努メシム
以上ノ如ク準備ヲ爲セシト雖モ沿道馬息嶺ノ如キハ千百米突以上ノ高山ニシテ
道路險惡ナリシニ因リ駄馬駄牛ノ疲勞甚シク之ニ加フルニ傳染病發生シタルヲ
以テ續々途上ニ斃死シ(平壤着後ノ斃死ヲ合スルトキハ兵站部所屬ノ分ヲ除キ其
ノ數四百二十頭ニ達セリト云フ)現地調辨モ亦長途行軍後夜暗ヲ冒シテ附近ノ村
落ニ至リ徵集シ得ルニ過キサレヲ以テ僅少ナル粟及大豆ヲ得タルノミトス故ニ
此ノ前進間ノ給養ハ左ノ如キ狀況ナリシトス

一、先發諸隊ハ携行糧秣若クハ現地徵發品ニ依リテ給養シ陽德以西ニアリテハ
精米一日四合若クハ三合ニ減食シ粟若クハ大豆ヲ混用セシコト少カラス
二、後續諸隊ハ兵站部所在地ニ集積セシ糧秣アルトキハ之ニ依リ且携行駄牛ニ

平壤攻撃給養

獨立給養ノ責任

餘力アレハ近傍兵站部ニ於テ糧秣ヲ受領携行セシメテ給養セリ

三、副食物ハ元山ヨリ携行セシモノノ外殆ント之ヲ得ルニ途ナク畑地ニ在ル大根及菜葉少量ヲ以テ各隊各個ニ給與セシコトアルモ多クハ罐詰肉ト食鹽ヲ給スルノミ其ノ食鹽ニ於テモ一時缺乏ヲ生セシコトアリトス

四、馬糧ハ多クハ粟、大豆又ハ畑地ニアル生大豆ヲ以テ飼養セリ

以上ノ如キ狀況ヲ以テ成川ニ到着シ平壤攻撃ノ爲メ九月十一日成川ヲ出發セリ當時成川ニハ僅ニ二、三日分ノ糧秣ヲ集積シアリシニ過キス之ニ加フルニ大迫支隊ノ平壤攻撃ニ參與センカ爲メ元山ヨリ急行セルアリ兵站ノ輸送力ハ韓人殆ント逃亡シテ僅ニ少數ノ日本人夫ト馱牛ヲ有スルニ過キスシテ先行部隊ニ糧秣ヲ補給スルノ餘裕ナキヲ以テ支隊長ハ左ノ要旨ノ訓示ヲ與ヘタリ

成川兵站司令部ニ於テ十二日夕ヨリ三日分ノ精米及雜穀等ヲ各隊ニ分配ス故ニ各隊ハ携帶糧秣ヲ合シ五日間ヲ生活シ得ヘシ余ハ十六日ニ於テ平壤ヲ陥ルルニアラサレハ爾後糧秣ハ無キモノト決心セリ因テ今日以後糧秣ノ事ハ各隊適宜ノ手段ニ委ス

第七節 平壤攻撃前後ノ給養

平壤攻撃ノ給養位置

諸隊ハ既ニ述ヘタル如キ行動ヲ以テ九月十四日及十五日ヲ以テ平壤ヲ攻撃セントス師團本隊ハ十一日黃州ニ於テ給養ニ關シ左ノ處置ヲ爲セリ

一、規定外ニ將校以下精米一升二合各馬ハ雜穀一日分ヲ携帶セシム

二、各隊ハ其ノ馱牛馬ヲ悉ク輻重隊ニ交付シ同隊ノ許ス限リ人夫ヲ受領シ此ノ人夫ト從來ノ人夫ヲ合シテ大行李ヲ編成シ一日分ノ糧秣ヲ携行セシメ其ノ補充ハ水路十二浦ヨリ留鶴洞ニ輸送シテ行ハシム

三、師團糧食縦列ハ十一、十二日ノ兩日ニ主力ニ對スル三日分ノ糧秣ヲ十二浦ニ輸送セシム

四、先頭部隊堡山鎮ニ達セハ該地ニ於テ徵發ヲ行ハシム

以上ノ如クニシテ師團本隊ハ黃州ノ西方約四里十二浦ニ於テ大同江ノ右岸ニ移リ平壤ヲ攻撃セントス此ノ間監督部ハ沿道二、三里以外ニ至ル迄徵發ヲ實行セシモ其ノ効果殆ント無ク水路輸送糧秣ノ留鶴洞ニ達セシハ前衛及左側隊ノ此ノ地ヲ通過シタル後ナリシヲ以テ堡山鎮ニ於テ之ヲ補充セリ陸路輸送力ハ黃州中間ハ糧食縦列ニ依リ混成旅團及師團主力ノ爲メ一日分ノ主食ヲ輸送スルヲ得タリシモ中和以北ハ唯師團本隊ニ携帶口糧ヲ補充シ得ルノ力ヲ有スルニ過キス兵

輸送ノ狀況

站ノ輸送力モ亦容易ニ黃州以北ニ延伸スルコト能ハサルノ狀況トス
以上ノ如キ狀況ニシテ平壤攻圍諸隊ハ數日來雜穀ヲ混同シ且殆ント副食物ヲ缺
キ殊ニ現地物資ヲ主トシテ給養セシ馬糧ハ諸隊ノ狭少ナル地區内ニ密集スルニ
從ヒ益々困難ヲ加ヘ平壤ノ陥落一日ヲ猶豫セハ全ク饑餓ニ陥ルノ狀況ナリシト
云フ

九月十六日平壤ノ陥落ト共ニ多數ノ糧秣ヲ鹵獲スルヲ得タルヲ以テ之ニ依リ饑
餓ヲ免カルルヲ得タリト雖モ給養ハ左ノ如ク依然困難ヲ免カレサリシトス
一、鹵獲米ハ品質粗惡ナリシノミナラス多數ノ細砂ヲ混シ咀嚼ニ困難ナルノ狀
況ナリシヲ以テ日本米十分ノ一乃至三ヲ混シテ給與セリ
二、副食物ハ調辦シ得ル數量僅少ニシテ定量ヲ充タスヲ得ス
三、馬糧ハ大麥ナキヲ以テ粟、稗、黍、大豆ヲ代用シ二十四日以後ニ至リ初テ大麥半
定量ヲ給スルヲ得タリ又藁ハ二、三里以外ニ亘リテ調辦スルモ一時ニ多量ヲ
得難キヲ以テ各隊各個ニ調辦セシメタリ

第八節 義州ニ向フ前進間ノ給養

軍ハ左ノ如ク義州ニ向ヒ前進セントス

一、第五師團ハ混成旅團、第一梯團歩兵一聯隊ヲ基幹トス、第二梯團(同上)ニ區分シ
立見旅團ハ九月二十三日、第一梯團ハ十月五日ヲ以テ平壤ヲ發シ安州、宜川、鐵
山府ヲ經テ義州ニ

二、第三師團ハ十月三日先發隊(二箇中隊及騎兵三小隊)雲山支隊、朔州支隊各一箇
中隊ヲ出シ本隊ハ三箇梯團ニ分レ第一梯團ハ安州、龜城、所申館道ヲ、第二梯團
ハ安州、定州、所申館道ヲ義州ニ向ヒ、第三梯團ハ先ツ安州迄前進セントス
以上ノ前進ニ對シ左ノ如ク給養ヲ實行セントス

一、安州及定州ニ倉庫ヲ設ケ軍三日分宛ノ糧秣ヲ集積ス、但シ安州ハ平壤ヨリ輸
送シ定州ハ海路頂麻ニ輸送シタルモノト安州ノ剩餘品トヲ以テ充實ス
旗津浦ヨリ海路糧秣ヲ輸送シ鐵山及龍川ニモ倉庫ヲ設置シ各部隊ニ分配若
クハ送付ス

二、第三師團ノ支隊及立見旅團ハ專ラ部隊徵發ニ依リ給養セシム但シ軍隊ノ前
方ニ在リテ徵發セシムル爲メ監督部員及糧餉部員若干ヲ附屬セシム
三、各部隊ハ規定外ニ人ハ精米二日分、馬ハ玄米若クハ精米一日分ヲ携帶セシム
四、人夫徵集ニ全力ヲ盡シ各縱列ヲ各兵站地ニ配賦シテ前送ヲ努メシム

海路輸送ノ
故障

以上ノ如クシテ順安及肅川ニ於ケル給養ノ爲ニハ携帶精米ヲ使用シ之ヲ安州及定州ニ於テ補充シ大行李及糧食縱列ヲ合シ人ハ六日分ノ糧食ヲ全備シテ義州附近ニ至リ爾後鐵山ノ陸揚糧秣ヲ以テ給養ヲ實行セントセリ
然ルニ出發前日即チ四日夜半ニ至リ海路輸送ノ船舶ハ淺瀬多クシテ目的ヲ達スルコト能ハス根據地ニ歸航セリトノ報ニ接セシモ如何トモスル能ハス五日第五師團第一梯團ハ平壤ヲ出發シ第三師團ノ第一梯團ハ肅川ヲ發シ安州ニ至レリ然ルニ平壤ヨリ發送セシ糧秣ハ順安ニ停滯シ(前進部隊ニ於テ牛馬斃死シタルトノ理由ヲ以テ人夫多數ヲ兵站部ニ請求シタル結果肅川へ前送ヲ停止シタルニ依ル)肅川ノ前送糧秣未タ安州ニ到着セサリシヲ以テ補給ニ差支ヲ生スルニ至レリ

第九節 給養困難ノ爲メ前進中止

狀況前陳ノ如クニ至リシヲ以テ先ツ立見旅團ノミニ續テ前進シテ義州ヲ占領セシメ其他ハ左ノ如ク滞在シ全運搬材料及兵力ヲ擧テ糧秣運搬ニ從事セシメ嘉山ニ十日分ノ糧秣ヲ集積シタル後全軍前進ヲ始ムルコトト爲セリ

前進ノ滯留

第三師團第一梯團安州、同第二梯團肅川、第五師團第三梯團順安、同第四梯團平壤然ルニ當時ニ於ケル兵站ノ輸送力ハ馬糧ノ半定量ヲ現地ノ雜穀ヲ以テ代用スル

兵員ノ糧秣
輸送

トスルモ米麥ノミヲ輸送スル爲ニモ一兵站地ニ於テ人夫三千六百名ヲ要スル計算トナリシモ此ノ如キ人員ハ平壤ノ如キ人民稍安堵シテ募集ニ應スルモノ多キニ至リシ地ニ於テモ之ヲ得ルコトヲ望ムヘカラス況ンヤ其ノ他ノ地ニ於テヲヤ之ニ加フルニ仁川ヨリ海路旗津浦ニ輸送セシ糧秣モ亦舛船僅少ニシテ揚陸進捗セス爲ニ平壤ニ於ケル鹵獲物資及追送糧秣モ殆ント消費シテ一時精米ノ現在高百石内外ニ至リシコトアリシトス其後旗津浦平壤間ノ輸送力ハ日々三四百石ニ増加シタリシト雖モ平壤以北ノ輸送力増加セサリシヲ以テ八月以來各部隊ヨリ日々一千名以上ノ兵員ト駄馬二百乃至三百頭ヲ出シ之ニ人夫及車輛ヲ加ヘ米麥三四百石ト若干ノ副食物ヲ追送スルコトトセリ然レトモ日々各部隊ニ於ケル費消量ヲ控除スルトキハ其ノ剩餘ハ多大ナラサリシトス
故ニ嘉山ニ十日分ノ糧秣ヲ集積スルニハ現今ノ輸送力ニアリテハ副食物及馬糧定量ノ二分ノ一ヲ除クモ十五六日頃ニアラサレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノ狀況ニアリシトス

現地調辨ノ
勤行

狀況前陳ノ如クニ至リシヲ以テ第三師團ハ兵站部ト協議シ倉庫ヲ安州ニ設ケ現地調辨ニ努力セシ外馬糧ハ各隊ヲシテ粟及水田ニ在ル穗付稻ヲ刈取ラシメ且少

クモ一日一食以上ハ必ス地方物資ニ據リ給養シテ追送品ヲ節約スルヲ圖リ又要員ヲ泰川、博川及寧邊ニ派遣シテ物資ヲ調辨セシメタリ
 以上ノ如キ狀況ナリシヲ以テ本前進準備間ニ於ケル副食物及馬糧ハ左ノ如ク粗悪ナリシトス(單位夕)

給養粗悪ノ
狀況

日	肉類	乾物野菜類	漬物類	馬糧
十月五日	肉類 一	切昆布 一〇	梅干 八 <small>日</small>	大麥一升、大豆二升
十月六日	罐詰肉 一〇	同 二〇	梅干 八	粟三升五合
十月七日	同 一〇	同 一〇	味噌漬 八	同
十月八日	牛干肉 一〇五 罐詰肉 一〇五	同 一五	同 一	同
十月九日	同 一五	菜 二〇	同 一	同(稻付菜)
十月十日	同 一五	切昆布 一五	奈良漬 一〇	同
十月十一日	鶏肉 一五	大根 二〇〇	味噌漬 五	同
十月十二日	罐詰肉 一五	切昆布 五	味噌漬 五	同
十月十三日	同 一五	菜 三五	奈良漬 一〇	同

前陳ノ如ク糧秣ヲ節約シテ前送シ集積ニ努力シタル結果漸ク各師團ハ二、三百石

前進開始

ノ精米ヲ集積スルコトヲ得タリシト十月七日海州ニ航路ヲ開キ糧秣ヲ回漕セシト十二日耳湖浦ノ揚陸地ヲ發見シタリシトヲ以テ十四日ニ至リ前進ヲ開始セリ

第二 前進開始後ノ給養

立見旅團ノ
給養

混成立見旅團ハ既ニ述ヘタル如ク糧秣追及困難ナルニ拘ラス部隊徵發ヲ以テ自ラ給養シ前進ヲ繼續スルヲ命セラレタリ然レトモ行進路ハ既ニ清兵ノ苛酷ナル掠奪ヲ受ケタルノミナラス時季收穫前ニシテ殆ント物資皆無ナリシヲ以テ田圃ニアル粃ヲ室内ニ在ル温突ニテ乾燥搗精シ之ニ雜穀ヲ混スルノ等ノ方法ニ依リ僅ニ飢餓ヲ免カレ義州ニ達セリ當時旅團ノ給養補助トシテ先遣セラレシ糧餉部長等ハ各部隊カ部隊徵發ヲ實施セシヲ以テ其ノ得ル所ハ僅少ニシテ十一日所申館ニ至リタルトキ稍多數ノ物資ヲ徵發シ得テ之ヲ補給シタルニ過キス

第三師團ノ
狀況

龜城街道ヲ前進セシ第三師團ハ専ラ現地ノ物資ニ依リ生活スルノ方針ヲ採リ先遣支隊(先發、朔州、雲山ノ三支隊)ニ地方物資ノ徵發及集積ニ係ル任務ヲ授ケ且參謀副官各一、監督部員二名ヲ先遣シテ龜城街道上ニ於ケル徵發ニ又糧餉部ヲシテ博川ニ於ケル徵發ニ從事セシメタリ此ノ朔州、龜城、雲山並ニ博川、泰川等ニ於ケル徵發ハ其ノ結果良好ニシテ所申館ニ至ル迄ハ概ネ徵發品ニ依リ給養スルコトヲ得

タリ

十月二十一日軍司令部ハ龍川ニ達シ龍川所申館及義州ニ軍倉庫ヲ設置シ追送品ノ收容地方物資ノ徵集ニ努力シテ義州前進部隊ノ給養ニ資セリ然レトモ陸路兵站線ハ殆ント糧秣ヲ義州迄前送シ得ルノ力ヲ有セス耳湖浦ノ揚陸ハ全力ヲ盡スモ米麥僅ニ二百石ニ過キス現地物資モ殆ント悉無ニシテ唯若干ノ民家ヨリ一、二升ノ米ヲ買ヒ得タルニ過サルニ因リ副食物ハ鹽、味噌若クハ醬油ノミ、馬糧ハ一馬大麥一升五合ノミヲ以テ満足シ極力前送ヲ努メテ準備糧秣ヲ集積スルヲ圖レリ

第九節 鴨綠江占領及其ノ給養

鴨綠江占領及其後ノ給養

前陳ノ如クニシテ十月五日鴨綠江右岸ノ敵ヲ攻撃スルニ際シテハ各隊共概ネ携帶糧秣ニ依リテ給養シ廿六日九連城占領後ハ義州兵站倉庫ヨリ糧秣ノ分配ヲ受ケシモ其ノ後方ニ於ケル糧秣現在高ハ僅少ニシテ到底定量ヲ給スルコト能ハス故ニ地方物質ヲ以テ補足スル爲メ軍ニハ官憲徵發委員各部隊ニハ購買委員ヲ設ケ附近數里ノ地ヲ搜索シテ生物、馬糧、薪材等ノ調辨ニ努力セシト雖モ該地方ハ寒村ニシテ僅ニ少數土民ノ貯藏セル雜穀及田畑ニ未タ打禾ヲ了ラスシテ堆積シア

軍ノ運動

軍司令官ハ續テ前面ノ敵ヲ牽制シテ第二軍ノ作戰ヲ容易ナラシムル爲メ左ノ處置ヲ爲セリ

- 一、第五師團ノ立見旅團ヲシテ鳳凰城ヲ占領セシム
- 二、第三師團ノ大迫少將ノ指揮スル支隊ヲシテ海路輸送ヲ開ク目的ヲ以テ大孤山ヲ占領セシム

給養ノ粗惡

三、十一月八日歩兵一大隊、騎兵一中隊ヨル成ル支隊ヲ連山關ニ派遣ス此支隊ハ十一日該地ニ至リシモ糧秣ノ追送意ノ如クナラス現地調辨ハ附近貧村ナリシト敵狀ニ依リ遠隔シタル村落ニ至ル能ハナリシトヲ以テ定量ヲ減少シテ給養ヲ維持シ甚シキハ一日一人ニ付僅ニ支那米一合ト玉蜀黍或ハ大、小豆ヲ給シ副食物トシテハ同僅ニ梅干一箇ヲ支給セシニ過キサリシコトアリシト云フ

海城ニ向テ前進

前進ニ對スル給養ノ處置

第十節 第三師團ノ海城占領ニ伴フ給養

十一月十六日第三師團ノ一部タル大迫旅團ハ大孤山ヲ發シ十八日ヲ以テ岫巖ヲ攻落シ其ノ一部隊ヲ止メテ再ヒ大孤山ニ歸還セリ然ルニ第三師團ハ其ノ首力ヲ以テ海城ニ向ヒ前進スルコトトナリ二梯團ニ分チ第一梯團ハ十二月三日、第二梯

團ハ四日安東縣ヲ出發セリ此ノ前進ニ對スル給養ニ關シテハ左ノ處置ヲ爲セリ

- 一、規定外ニ人ハ二日分、馬ハ一日分ノ糧秣ヲ携帶セシム
- 二、土城子迄ハ大孤山ニ於テ雇役セシ牛、馬車ヲ以テ糧秣ヲ輸送セシメ此ノ地ニ於テ糧食縱列、大行李及規定外携帶ノ一日分ノ糧秣ヲ補充ス
- 三、土城子ヨリ前方ハ糧食及彈藥縱列ノ輸送區域トス
- 四、岫巖ニ於テハ該地ニ在ル歩兵第六聯隊ノ各大隊軍吏ヲシテ糧秣ノ購買ニ着手シ大行李及規定外携帶糧秣ノ補充ヲ爲サシム

以上ノ如ク給養ヲ計畫シテ前進シ十二月十三日海城ヲ占領セシモ糧食縱列ハ豫定ノ如ク到着セス一方ニハ作戰計畫上若干ノ豫備糧秣ヲ集積スルノ必要アリシヲ以テ十四日以降ハ市内各戸ニ貯藏セル雜穀約二千石ヲ買收シテ左ノ如ク主食ノ給養ヲ實行セリ

海城ノ給養
現地調辨ノ
狀況

- 一、精米四合ト地方ニ於テ買收セシ粟及小豆三分ノ一即二合ヲ給ス
- 二、十六日以降ハ雜穀ヲ二分ノ一ニ増加ス

之ニ加フルニ追送品ハ少量ノ精米ト調味品ノミニ止マリ馬糧ノ全部及副食物ハ現地物資ニ依ルヲ要セシヲ以テ糧餉部員ヲ市内ノ各戸及附近數里ノ村落ニ派遣

給與量

シテ百方給養品ヲ搜索買收セシメ買收證ヲ與ヘテ現品ト共ニ糧餉部ニ搬出セシムルノ處置ヲ執レリ然レトモ往々期日ヲ違ヘ之ヲ督促スルモ言ヲ左右ニ托シ急送セサリシニ因リ廿三日以後物件ト引換ヘニ即時代金ヲ仕拂ヒ直ニ糧餉部ニ輸送スヘキヲ命シ且品種ト數量ノ多少ヲ問ハス買收ニ着手セシヲ以テ馬糧及副食物ノ全部ヲ支給シ猶十數日分ノ貯藏ヲ爲スニ至リシト云フ然レトモ薪炭ハ皆無ニシテ僅ニ各戸及二三材木商ノ貯材ヲ買收シ得シニ過キサリシヲ以テ附近村落ノ楊樹ヲ伐採シ或ハ黍穀ヲ代用セシモ數十日ヲ支フルノ目途ナキヲ以テ大孤山等ニ於テ之ヲ買收シ追送スルノ已ヲ得サルニ至リシト云フ

當時給養ノ粗惡ナリシコトハ左ノ海城附近屯在部隊給養分量表ニ依リテ知ルヘシ

日	精米	粟	小豆	豚	野菜類	調味品	漬物	馬糧
十二月十七日	三合	一合	三合	二百人分 一頭	黑豆三勺	醬油一勺	梅干三勺	大麥二升 高粱二升 小麥一貫 高粱三升
同 十八日	三	三	一	一	二十勺	各味十勺	一	高粱三升 小麥一貫 高粱三升
同 十九日	三	一	三	一	二十勺	鹽十勺	一	高粱三升 小麥一貫 高粱三升
同 二十日	三	三	一	二百人分 一頭	十勺	醬油五勺 鹽一勺	五勺	高粱三升 小麥一貫 高粱三升

同	二十一日	三	一	三	一	黑豆三勺	鹽	五勺	十勺
同	二十二日	三	一	三	一	生肉四十匁	香油二勺	同	同

以上ノ給養分量ハ漸次増加スルヲ得テ一月二十二日以後一般ニ米食ニ復スルヲ得タリ

三六

二月二十八日第三師團ハ第五師團ニ協力シテ鞍山店及牛莊ノ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ前進ヲ起シ三月二日鞍山店ヲ占領シ續テ牛莊及田庄臺ノ敵ヲ擊退シ三月九日以降高刊附近ニ滞在ス該地附近ハ敵兵ノ爲メ物資利用セラレテ殆ント微集シ得ヘキモノナカリシモ漸次民情我ニ歸シ雜穀及副食物ヲ搬致シ來ルニ至リシト爾後旅順方面ヨリ輸送開始セラレタルトニヨリ給養ノ困難ヲ輕減スルヲ得タリシト雖モ全戰役間ニ於ケル給養ハ既ニ述ヘタル如ク輸送困難ナルヲ以テ現地調辨ヲ勵行シ現地ノ雜穀ヲ利用セシコトハ日露戰役ニ比スレハ多大ナリトス現今鐵道ノ敷設ニ因リ輸送力ヲ増加セシト雖モ兵力ノ増大ハ亦昔日ノ比ニ非サルヲ以テ再ヒ此ノ如キ給養ノ困難ト粗惡トニ堪ユルノ覺悟ヲ要ス

第四章 北清事件ニ於ケル給養

明治三十三年ノ北清事件ニ於ケル給養ハ兵額多大ナラス而モ比較的物資豐富ナ

ル地方ヲ概ネ白河ノ水運ニ沿ヒ前進セシヲ以テ糧秣ノ追送及給養ニ大ナル困難ヲ生セサリシモ本戰役ニ於テ特種ノ困難ヲ生セシハ給水ノ一事トス故ニ主トシテ給水ノ狀況ヲ概説セントス

第一節 上陸地ニ於ケル給水ノ狀況

軍行動地區ニ於ケル水質不良ニシテ飲用ニ適セサルコトハ豫メ知悉スル所ナリシヲ以テ部隊ノ給養裝備ヲ増加シテ濾水器及燒明礬並ニ水桶等ヲ携行セシメ一人一日ノ用水量ヲ約六升ト規定シ上陸ニ際シテハ多量ノ水分ヲ吸收スルカ若クハ渴ヲ促シ易キ副食物ノ携行ヲ避ケタリト雖モ上陸地北砲臺附近ハ全ク井水ヲ有セス白河ノ水ハ混濁且鹹味強クシテ之ヲ濾過スルモ飲用ニ適セサルハ勿論飲馬用ニ供スルコトモ亦適當ナラサルノ狀況トス

故ニ上陸當初ハ白河ノ上流塘沽附近ニシテ鹹濁ノ度稍淡薄ナル河水ヲ濾過又ハ沈澱シテ人馬ノ飲用ニ供セシモ後白河ノ上流天津附近ニハ死屍河中ニ充テ汚穢ナルノミナラス傳染病ノ虞アルヲ知リシヲ以テ河水ハ馬匹ノミニ之ヲ充當シ人員ハ運送船内ノ貯水ヲ給スルコトト爲シ砲臺前ノ河岸ニ貯水所ヲ設ケテ給水セ

以上ノ如キ方法ヲ以テ貯水量ニ應シ日々二回乃至三回分配ス其ノ分配量ハ一日一人一合乃至六合一馬一升乃至三升ニ過キス從テ人馬ノ渴ヲ訴フルコト甚シカリシヲ以テ芝罘ニ於テ水船及飲用水ヲ調達シル等ノ方法ニ依リ僅ニ渴ヲ醫スルノ狀況ナリシヲ以テ第五師團上陸ノ際ニハ特別裝備ニ依リ水ヲ蒸餾シ一人一日ニ對シ二升五合乃至三升ヲ分配セリ

第二節 行動間ニ於ケル給水ノ狀況

前進間ノ給水

師團ハ六月廿九日ヨリ七月中旬ニ亘リ逐次大沽ヨリ天津ニ向テ前進スルニ際シテハ各部隊ヲシテ爲シ得ル限り多量ノ飲用水ヲ携行セシムルコトヲ圖リシト雖モ之ニ要スル適當ノ器具ヲ有セサリシヲ以テ各部隊ハ單ニ各自ニ水筒ヲ携帯セシメシニ過キス從テ大沽ヨリ天津ニ至ル陸路十三里ノ行程間軍糧城守備隊所在地及泥窩附近ヲ除クノ外一滴ノ水ヲモ得ルコト能ハス時恰モ炎暑酷烈ニシテ途中一物ノ蔭影ヲモ有セサリシヲ以テ甚大ナル勞苦ヲ嘗メ落伍者ヲ生スルコト少カラサリシト云フ

天津ノ給水

天津居留地ニハ一ノ水道(河水ヲ機力ニ依リ汲上ケテ濾過スルモノトス)アリシト雖モ我舍營地内ニハ僅ニ三箇ノ給水口ヲ有スルニ過キサリシヲ以テ唯飲用炊爨

用及漱水ノミニ使用セシメ(其ノ他ハ河水ヲ濾過シテ使用セシム)且ツ汲水ノ時間及順序ヲ定メテ之カ亂用ヲ防止セリ然レトモ列國軍ハ總テノ雜用水ヲモ水道ヲ使用セシニ因リ給水源ハ概ネ三時間乃至五時間ニシテ涸渴スルヲ常トセリ故ニ列國軍ニ水道ヲ公平ニ使用スルコトヲ提議セシト雖モ協議纏ラス互ニ相爭テ汲水シ時機ヲ失スルモノハ一滴ノ用水ヲモ得ルコト能ハサルニ至リシヲ以テ多數ノ瓶ヲ徵集シテ用水ヲ貯溜セリ

七月中旬ニ於ケル天津城ノ攻撃ニ際シテ將校以下一般ニ水筒ヲ携帯セシメ爾後ニ要スル飲用水ハ舍營地各炊事場ヨリ送付スル如ク計畫セシモ後各部隊ヲシテ各個ニ處置セシムルトキハ徒ニ混雜スルノ虞レアリシニ因リ監督部ニ於テ之ヲ統一シテ實行スルニ決シ各部隊ノ容器器具ヲ爲シ得ル限り多數ニ供出セシメ且各部隊ノ輸卒及監視人ヲ集メテ第一回ノ送水ヲ爲セリ續テ第二回ノ送水ヲ爲サントセシモ容器器缺乏セシヲ以テ監督部ハ燒殘ノ缸甕ヲ集メ酒味噌醬油ヲ之ニ移シテ其ノ空樽ヲ集メ且各部隊ヲシテ馬匹用水與器ヲ爲シ得ル限り多數ニ供出セシメ前後合計戰鬪員一人ニ對シ約三合ニ相當スル送水ヲ爲セリ然ルニ午後二時ニ至リ水道ノ給水源全ク涸渴シテ一滴ノ水ヲモ得ル能ハサルニ至リシヲ以テ

天津攻撃ニ於ケル給水

白河支流ノ河水ヲ汲取リ大壘數十箇ニ滿水シテ急澄シ一方ニハ歩兵隊ノ炊爨場ニ十餘箇ノ竈ヲ増設シテ熱湯ヲ製セシモ戰線ニ於ケル給水充分ナリトノ報ヲ得テ送水ヲ中止セリ
戰線ニ對スル給水ノ爲ニハ前項ノ如ク努力セシト雖モ前後二回共海光門附近ニ於テ彈雨ニ障碍セラレテ意外ニ遅延シ日没頃辛フシテ部隊ノ所在地ニ達セシニ過キス飲馬用水ハ河及池沼ノ水ヲ利用セシト云フ

第五章 日露戰役ニ於ケル皇國第二軍ノ給養(附圖第三參照)

第一節 戰場ニ於ケル物資ノ狀況

農産物の狀況

滿洲ニ於ケル主要ナル農産物ハ豆、豌豆、粟、玉蜀黍、黍及高粱(製粉シテ食料ト爲シ新鮮ナル莖ハ馬糧トシ乾燥シタルモノハ瓦根葶材料及蓆ニ其ノ根ハ燃料トシテ使用ス)等ニシテ中央及北滿洲ニハ以上ノ外小麥、蕎麥及少量ノ大麥ヲ産シ齊々哈爾地方ニハ少量ノ燕麥ヲ産シ干草ハ地方ニ依リ之ヲ産出スル草野少カラスト雖モ其ノ品質ハ不良ナルヲ多シトシ稗稈、粟稈、豆粕等ヲ以テ之ニ代用ス
野菜類ハ白菜最モ多ク蕪菁、胡蘿蔔、芋、甘藷之ニ次キ各種ノ瓜類モ亦少カラヌ又良

住民の生活

好ナル果實ニ富ム

住民ノ生活ハ其ノ階級ニ依リ大差アリト雖モ農民ノ主食ハ普通高粱若クハ玉蜀黍(高粱ノ成育不良ナル地方ニシテ之ニ粟ヲ混用シ平均一日ニ於ケル食量ハ約高粱六合又ハ粟四合五勺ニ相當シ米ハ富豪ニ非ラサレハ之ヲ常用セスト云フ故ニ住民ノ生活ハ其ノ主食ニ於テ全ク皇國ト習慣ヲ異ニスルヲ以テ糧食トシテハ一部ノ代用トシテ粟、玉蜀黍、豆類等ヲ混用シ得ルニ過キス而モ此等ノ諸品ハ炊爨ニ加工ト手數ヲ要スルコト多キヲ以テ一般ノ主食ニ利用スルコト能ハスト雖モ第二篇第二章第四節第三ノ其ノ一ニ述ヘタル如ク皇國ニ於ケル主食ハ米麥以外ノ雜穀ヲ使用スルモノ約十分ノ一ニ達スルヲ以テ兵員出身地方ノ習慣ニ依リ此等ヲ應用シ得ル軍隊ハ假令零碎ニ過キスト雖モ之ヲ利用スルコトヲ得ヘシ日露戰役ニ於テ食用トシテ利用セシ穀類ノ概況ハ左ノ如シ

粟 約千三百石 豆類 約二萬石 麥粉 約十萬五千貫

以上ニ於ケル農産物ノ主要ナル貿易地ハ吉林、鐵嶺、新民屯及營口ニシテ其ノ集積ハ主トシテ冬期間道路結氷ノ場合ニ於テシ其ノ後四、五月ノ候ニ至リ遼河ニ依リ營口ヲ經テ輸出セラルヲ常トス然レトモ三十七年ノ春ニ於ケル集積ハ多大ナラ

農産物集散

雜穀の利用

ス露軍經理部カ遼河附近ノ軍ニ對シ徵集シ得タリシ糧秣ハ僅ニ二十萬留ニ過キ
サリシト云フ

副食物の状況

副食物トシテハ一般ニ豚、羊、山羊ノ肉ヲ用ヒ殊ニ豚ヲ嗜好スルモ(回々教徒ハ全
ク之ニ反ス)牛肉ハ其ノ需要甚タ稀ナリトス之レ牛ハ人ノ勞働ヲ助クル貴重ノ動
物トシテ中流以上ノ者其ノ肉ヲ食スルヲ恥ルニ依ル又鳥類ハ鷄、家鴨ヲ貴ヒ其ノ
卵モ亦之ヲ賞味セラルルヲ以テ各地ニ現在セサルコト無シトス然レトモ普通農
夫ハ朝夕食ハ鹹菜、晝食ハ油煮物ヲ食スルヲ多シトス
生獸ノ現在高ハ多數ニシテ殊ニ蒙古地方ハ殆ント無盡藏ト稱セラレ戰役中皇國
軍ノ調辨シタル數量ハ左ノ如ク多數ニ達セリ

生獸現在の状況

生牛 約十五萬九千頭 生豚 約五萬七千頭 生羊 約一萬九千頭

調辨量

此ノ戰役間皇國軍カ滿洲ノ物資ヲ利用シタル數量ハ前陳ノ如ク肉類及生野菜以
外ニ於テハ僅少ナリシト雖モ露軍ハ全戰役ニ要スル糧秣ノ約二分ノ一ヲ滿洲ニ
於テ調辨シタリト云フ(本編第六章第八節參照)當時彼我兩軍共ニ戰場ニ於ケル物
資調査及統計完全ナラス唯無計畫ニ徵集セシニ過キスト雖モ而モ其ノ利用シ得
タル物資ハ多大ニシテ殊ニ肉類ノ如キハ彼我兩軍カ盛ニ之ヲ徵集シタルモ其ノ

飲料品

盡クル所ヲ知ラサリシ如キ狀況ナリシコトハ最近ニ於ケル統計(第二編第二章第
五節第四ノ其二參照)ニ依リテ見レハ首肯シ得ヘキコトナリシトス
飲料品ハ高粱酒、黃酒及茶ヲ主トス此等ハ毎月若干ヲ貯藏スルヲ習慣トシ大市街
ニハ其ノ店舗アリトス

第二節 交通ノ狀況

滿洲ニ於ケル道路ハ甚タ不良ニシテ路幅往々八米ニ至ルモノアリト雖モ路面ハ
凹凸多ク其ノ土質概ネ粘土質ニシテ或ハ沼澤地ヲ通シ或ハ一時存在スル道路モ
季節ニ依リ畠地ト變スル等大街道ノ外一定ノ道路ナク車馬行人ノ通スル所即チ
道ヲ成シ主要ノ幹線ト雖モ補修ヲ加ヘサルノ狀況ナルヲ以テ牛、馬、驢、騾馬等ニ駕
スル地方車輛ノ輪痕ハ道路上ニ二條ノ凹溝ヲ劃シ泥濘ノ爲メ車輛ノ半ヲ沒スル
ニ至ル所尠カラサルニ依リ地方ニ依リ車輛ノ積載量ニ及ホス影響ニ大差ヲ生ス
ルモノトス日露戰役中實驗シタル所ニ依レハ左表ノ如シト云フ

車輛ノ種類

道路ノ狀況	積載量(二斗入込)	車輛ニ要スル馬	速度
良	米六又ハ八(麥八)	人一、馬一	平均十分間 約八〇〇米
好	米五又ハ大麥七		
通			
普			

道路ノ積載量ニ及ホス影響

道路ノ狀況

四季の狀況

支那車輛	惡	普	良	惡	普	良	惡
	路	通	好	路	通	好	路
	米一〇又ハ大麥一四	米二〇又ハ大麥二五	米二六又ハ大麥三四	米二又ハ大麥三	米三又ハ大麥四	米四又ハ大麥五	米四又ハ大麥五
		人二馬四乃至七			三		四四
		平均十分間 約八〇〇米			平均十分間 約五〇〇米		

道路ノ狀況前陳ノ如キヲ以テ春季解氷後及夏期ニ於ケル雨季ニ在テハ車輛ノ通行困難ナルノミナラス河川ハ殆ント橋梁ヲ架スルモノ無キヲ以テ一時交通ヲ杜絶スルニ至ルコト少カラス四季ノ給養上ニ及ホス影響及日露戰役中ニ於テ實驗セシ雨季ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

春季(自三月至五月) 解氷直後ハ道路泥濘ニシテ車輛ノ通行困難ナルモ水利ヲ有スル地方ニ在リテハ秋季收穫セル農産物及冬季各地ニ蓄積セラレタル貨物等水運ニ依リテ大市場ニ輸送セラルル爲メ商況極メテ活潑ニシテ物資調辨上最モ有利ナル季節トス

夏季(自六月至八月) 商業沈靜シ殊ニ七八月ノ候ハ雨季ニシテ道路泥濘トナルノミナラス山地ニ沿フ凹道ハ忽チ變シテ河流トナリ交通ヲ杜絶スルヲ以テ必需品ノ賣買行ハルルニ過キス農作物ハ未タ收穫ニ至ラス唯麥類ノミ收穫セラレ盛ニ製粉セラルルモ未タ大ナル輸出ヲ見ス陸上運搬具モ農耕ニ使用セラレ且炎熱及降雨等ノ爲メ人畜ノ動作困難ナルヲ以テ物資調辨ニ不便トス

秋季(自九月至十一月) 天氣快晴ニシテ收穫物ハ結氷期前ニ輸出スルヲ圖ルヲ以テ春季ニ次キ物資集散ノ盛ナル季節ナリト雖モ陸上運搬具ハ收穫等ニ使用セラルルヲ以テ其ノ徵集困難ナリトス

冬季(自十二月至二月) 氣候嚴寒ニ河海結氷シテ水運ヲ利用シ得サルモ陸路交通ハ之ニ反シ河川ノ爲メ交通杜絶セル部分ヲモ通過シ得ルノミナラス農耕閑散ノ時期ナルヲ以テ陸上輸送繁劇ヲ極メ秋季ノ收穫物ハ農村ヨリ逐次ニ附近ノ市場ヲ經テ鐵道沿線若クハ解氷期ヲ待チテ一時ニ輸出スル爲メ水運ノ便アル地方ニ輸送セラルルニ因リ水利ヲ有スル地方ハ糧秣ノ集積品多大ナリトス

雨季ノ給養上ニ及ホセシ狀況

時期及期間 通常七八月ノ候ト謂フモ地方及其ノ年ノ狀況ニ依リ異ナリ其ノ最モ劇シキ降雨ノ影響ヲ受ケシハ三十七年海城附近ニ於テハ八月十四日ヨリ八月十八日ニ至ル連續五日間ニ互ル降雨トス三十八年鐵嶺附近ニ於テハ七月二十二日ヨリ二十五日ニ至ル降雨及二十八日ヨリ八月一日ニ互ル降雨即チ十一日間内ニ於ケル九日間ノ降雨トス

道路ノ狀況 極メテ泥濘ニシテ殆ト車輪ヲ没シ河水ハ漲溢シテ橋梁ヲ流失セシモノ少カラス低地ハ一面ノ沼澤トナリ山地ニ於ケル凹道ハ變シテ河流トナリ車輛ノ交通ヲ杜絶セシヲ以テ輸卒等ノ擔送ニ依リ或ハ小舟ヲ通シテ糧秣輸送ヲ實行セシ所少カラサリシ

第二軍兵站ニ於ケル多クノ兵站司令部ハ三十八年七月二十三、二十四、二十五日ノ三日間及三十一日ハ地方車輛全ク集合セスシテ輸送ヲ廢シ二十七、二十八日ハ一部ノ兵站司令部ニ於ケル輸送ヲ杜絶セリ

降雨後路盤乾燥シ輸送舊ニ復スルハ概ネ一週間以上ノ晴天ヲ要ス

積載力 概ネ地方車輛ハ平常ノ三分ノ一乃至四分ノ一ニ輻重車輛ハ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減少セリ

一乃至三分ノ一ニ減少セリ

速度 平常八時間乃至九時間ニテ往復シ得ル距離ヲ概ネ十四時間乃至十六時間ヲ費シ場所ニ依リ一里ノ行進ニ三、四時間ヲ費セシコト尠カラス

地方車輛ノ集散 道路泥濘ノ爲メ馬匹ヲ損傷スルト時恰モ農作物ノ收穫期及土人ノ最モ重スル盆ノ節日前後ニ相當スルヲ以テ百方手段ヲ盡スモ備役ニ應セス或ハ歸郷スルモノ多クシテ徵集困難ナリ

糧秣ノ被害 地方車輛ハ雨覆ヲ有セス故ニ豫メ準備シテ貸與スル等ノ處置ヲ爲セシモ河水増加ノ爲メ徒涉ニ際シ下積ノ一部ヲ濕潤セシメタルモノ尠カラス

河川ノ輸送 遼河ノ大部分ハ上リ及下リニ於ケル時間約三分ノ一ノ増減ヲ來シタルノミニシテ他ニ大ナル影響ヲ及ホササリシ

以上ノ如クニシテ地方車輛ハ春季解氷ノ季節及雨季ニ在テハ之カ交通ヲ望ミ難ク秋季快晴ノ時期ハ收穫ノ爲メ使用セラレ冬季交通至便ト爲ルニ從ヒ收穫物ヲ市場ニ輸出スル爲メニ使用セラルノ現狀ナルヲ以テ之カ徵集ハ決シテ容易ノ業ニ非ス從テ兵站ノ補給點ヲ陸路ノミニ依リ推進セシムルコトハ最モ困難ナリト

ス

滿洲ニ於ケル道路ノ不良ナルコトハ前陳ノ如シ故ニ日露戰役ニ於テ露軍ハ諸所道路ノ改築作業ヲ施行シタルコト少カラス全戰役ヲ通シテ行ヒタル概略ハ左ノ如シト云フ

遼陽附近ノ道路網 延長一千八百二露里ニシテ軍ノ遼陽退却ニ至ル迄四箇月半ニ亘リテ實行セリ

奉天附近ノ道路網 延長九百五十二露里ニシテ千九百四年九月上旬ヨリ奉天退却迄行ヒ奉天退却ニ際シテハ更ニ一日平均三十露里ノ速度ヲ以テ延長五百六十二露里ニ亘リ退却上必要ナル應急修理ヲ行ヒタリ

四平街附近道路網 三箇ノ軍ニ於テ施行シ其ノ總延長ハ二千九百露里餘ニ達セシト云フ

之ニ依リテ見レハ滿洲ニ於ケル道路ハ之ヲ改築スルニアラサレハ糧秣輸送ヲ完全ナラシムルコト能ハサルヘシ

陸路輸送ノ困難ナルコト前陳ノ如シ海路交通モ亦遼東灣ハ深ク北方ニ侵入セル爲メ一見至便ナル如キモ冬期間ハ結氷ノ爲メ之ヲ使用スルコト能ハサルノミナ

ラス海岸ハ遠淺ニシテ狭キ通路ヲ有スル營口ヲ除ケハ小船ト雖モ海岸ニ接近スルコト困難トス

戰場ニ於ケル舟行シ得ル河川ハ冬期ヲ除キ交通上多大ノ補助ヲ爲セリ此ノ河川ノ内烏蘇里江、黑龍江及松花江ハ露軍ノ輸送線トナリ一舟行期ニ於テ約一萬六千噸ノ貨物ヲ輸送シ遼河ハ兩軍ニ於テ盛ニ輸送ヲ行ヒタル水路ニシテ其ノ航行ノ速度ハ牛家屯、馬圈子間約二十四里及馬圈子、大灣間約二十七里各上リ二日半、下リ一日半ヲ要シ大灣、遠邊房間約三十五里ニ上リ三日下リ二日ヲ要セリ然レドモ流水及結氷ノ期間ハ全ク航行ヲ杜絶スルヲ免カレス現今遼河ニ於ケル其ノ期間ハ左ノ如シ

	流水初日	結氷初日	結氷終日	流水終日	流水期間	結氷期間
自大正元年	十一月廿四日	十二月九日	三月廿五日	四月五日	四十六日	九十七日
至同二年	十一月廿二日	一月十七日	二月五日	四月五日	百十六日	二十日
自大正三年	十一月廿二日	一月十七日	二月五日	四月五日	百十六日	二十日
至同四年	十一月九日	一月十二日	三月廿二日	四月六日	七十九日	七十日

交通ノ狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ哈爾濱、旅順口間ノ鐵道ハ唯一ノ兵站線トシテ重用セラレタリトス

第三節 乘船上陸ニ關スル給養

第一 一般ノ狀況

任務
日露戰役ニ於ケル第二軍ノ上陸ハ眞ノ敵前上陸ニシテ其ノ任務ハ先ツ大同江下流ニ運送船ヲ集合シ機ヲ見テ遼東半島ノ南岸登沙河ヨリ大沙河ニ亘ル海岸ニ上陸シ北ハ普蘭店ヨリ大沙河ニ亘ル線南ハ金州大連附近ヲ領有シ大連灣附近ニ確實ナル根據地ヲ形成シ第一軍ト策應シ敵ヲ求メテ之ヲ攻撃スルニ在リ然レトモ第一次輸送部隊タル第一、第三師團及第四師團ノ一部並ニ砲兵旅團ニ於ケル輜重ハ單ニ衛生隊及歩砲彈藥縱列ノ一部ヲ有スルノミナルヲ以テ軍ハ先ツ上陸ノ第一期ニハ麥家屯附近ヨリ小鄒家山附近ヲ經テ徐家屯附近ニ亘ル高地線ヲ同第二期ニハ麻盤山附近ヨリ華嚴寺附近ヲ經テ姜家樓附近ニ亘ル高地線ヲ占領スル如ク計畫セリ

糧秣ノ補給
故ニ此ノ豫定ニ基ケハ上陸部隊ノ給養ニ要スル糧秣ハ其ノ所屬大行李ノミノ輸送力ヲ以テ補給スルニ差支ナカリシ狀況トス然ルニ敵情ノ變化ハ之ヲ許サス豫想外ニモ上陸開始後僅ニ十日間ニシテ前進スルニ至リタルヲ以テ給養ニ困難ヲ

生シタルハ勿論ニシテ當時ニ於ケル狀況ハ上陸地給養ニ關スル研究上少ナカラサル裨益アルコト、信ス

第二 上陸ノ狀況

上陸ノ狀況

五月五日早朝軍ハ候兒石ニ上陸ヲ開始セシモ陸戰隊ノ前衛タル大隊ハ干潮ニ際シ端船陸岸ヲ距ル約一千米突ニ擱坐セシ狀況ニシテ午後ニ至リ棧橋六箇ヲ完成セシモ滿潮ニ非サレハ使用シ得ス故ニ馬匹材料及荷物ハ滿潮ヲ待テ人員ハ潮汐ニ關セス水中ニ入り波浪ヲ蹴テ上陸スルコトトセリ六日朝來風強ク浪高ク揚陸危險ナリシニ因リ午後ニ至リ遂ニ上陸ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至リ七日天候尙依然トシテ回復セス怒濤ノ爲メ棧橋及舢舨ノ一部ヲ破壞セラレ將校以下裸體トナリ上陸ヲ行ヒシモ馬匹材料ノ揚陸ハ頗ル困難ナル狀況ナリシヲ以テ七日以後揚陸點ヲ孫家咀子附近ニ變更セリ此ノ地ハ水深大ニシテ干潮時ト雖モ小蒸汽船ヲ近ク陸岸ニ達セシメ得ヘク且揚陸地廣濶ニシテ大ニ便ナリシモ南風ニ際シテハ却テ舊揚陸地ヨリ波浪荒キノ不利アリシトス

糧秣揚陸ノ狀況
上陸ノ狀況此ノ如クニシテ糧秣ヲ揚陸スル舢舨ハ風波ニ翻弄セラレ豫期ノ地點ニ到着スルコト能ハサリシヲ以テ揚陸地ヲ二分シ一半ハ之ヲ軍糧餉部ニ於テ他

ノ一半ハ第一師團ニ於テ擔任シ其地ニ揚陸シタルモノハ所屬師團ノ如何ヲ問ハ
ス當該野戰倉庫ニ輸送スルコトト爲セリ

第三 上陸地ノ物資

上陸地ノ物
資

上陸地ハ渺茫タル原野若クハ畑地間ニ四五戸乃至十數戸ノ寒村處々ニ散在スル
ニ過キスシテ利用シ得ヘキ物資極メテ少ナク薪炭、干草ハ高粱稈及玉蜀黍稈等ヲ
代用セシモ到底軍ノ需要ヲ充タスニ足ラス飲料水ニ關シテハ携行ノ井戸掘器具
及職工ヲ各師、旅團等ニ配屬シ日夜穿井ニ從事セシムルノ外各部隊自ラ馱載器具
等ヲ以テ單簡ナル井戸ヲ穿テ或ハ小流ヲ阻止シテ給水ヲ圖ルノ狀況ナリシ
現地物資ノ徵集ニ關シテハ根據地區内ノ調辨ハ各師團ノ擔任ト爲シ軍ニ於テハ
主トシテ土地ノ名望家等ヲ介シテ占領地外殊ニ魏子窩及長山列島方面ヨリ干草
代用品、薪材ヲ徵集スルヲ圖ラシムルト共ニ速ニ軍野戰倉庫ヲ設置セシムル爲メ
五月五日軍糧餉部長ヲ先頭部隊ト共ニ上陸セシメ軍野戰倉庫ヲ勇家屯ニ設置セ
シモ揚陸地ノ變更ニ伴ヒ九日之ヲ揚家屯ニ移シ新上陸地ノ爲ニハ新ニ張家屯ニ
倉庫ヲ設置セリ

軍野戰倉庫
ノ設置

運搬具ノ徵
集

上陸地ニ於ケル運搬具ハ軍糧餉部ニ於テ一途ニ調辨スルノ方針ヲ採リ各部隊各

積載量及貨
銀ノ規定

車輛徵集ノ
妨害

個ノ調辨ヲ禁シ必要ニ應シ軍糧餉部ヨリ供給ヲ受ケシムル如ク規定セリ而シテ
軍糧餉部ハ上陸後直ニ地方名望家及車頭等ヲシテ占領地域外ノ地方特ニ魏子窩
方面ヨリ車輛ヲ徵集スルコトヲ努メ其ノ賃銀ヲ一日三圓五拾錢ト規定セリ然ル
ニ其ノ徵集車輛ノ輓獸ハ多ク羸弱ナル牛馬ニシテ積載量米、麥八、九俵ニ過キス故
ニ之カ積載量ノ増加ニ就キテハ徹霄談判セシモ利ヲ見ルニ敏キ住民ノ到底應セ
サル所ナリシヲ以テ寧ロ多少賃銀ヲ増額スルモ一車ノ積載量ヲ増加シ且車輛賃
銀ノ高價ナルヲ聲言セシムルコトハ輸送力増加ノ目的ヨリスルモ車輛徵集ヲ容
易ナラシムル點ヨリスルモ必要ナリト認メ五月七日各車輛ノ積載量ヲ從來ノ七、
八俵ヨリ米十二俵、麥十五俵ニ増加シテ一日ノ賃銀ヲ四圓ト定メ一日間ニ數回往
復シ得ル距離ノ輸送ニ在テハ概ネ一日間ニ於ケル收得高ヲ四圓ニ達セシムル如
ク距離ノ遠近ト道路ノ狀況ニ應シ一回ノ輸送賃銀ヲ決定シ上陸第三日即チ五月
七日ニハ車輛百六十人夫二百人ヲ徵集スルコトヲ得タリ而シテ之カ輸送監視及
倉庫業務ノ爲ニハ補助輸卒隊ヲ使用セリ

上陸地ニ於ケル車輛徵集ハ前項ノ如ク將來ノ必要ヲ顧慮シ遠ク徵集ヲ努メツツ
アルニ拘ハラズ往々各部隊カ武力ヲ以テ途中ニ強備シ而カモ無代價若クハ不當

ナル寡少ノ賃銀ヲ仕拂ヒテ使役スルヲ能事ト爲スカノ如ク思惟スルモノ往々之
レアリテ車輛徵集ヲ妨ケタルコト少ナカラサリシヲ以テ之カ防止ニ關シ遂ニ軍
司令官ヨリ訓示ヲ發スルニ至レリ

第四 上陸地ノ給養

上陸地ニ於ケル給養ハ各部隊共概ネ上陸當日ハ行厨同第二日ハ携帶口糧ヲ用井
第三日ヨリ倉庫給養ニ移ル豫定ナリシモ上陸ノ狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ大
行李ノ糧秣ヲ用ユルノ已ムヲ得サルニ至リ漸ク第四日ヨリ倉庫給養ニ移リタル
モノヲ多シトス然レドモ倉庫給養ニ於テモ上陸當初ハ三日間ニ一日分ハ規定外
携帶ノ乾麵包ヲ使用セシメ辛フシテ主食ノ定量ヲ分配シ得ルニ過キサル狀況ナ
リシニ依リ副食物ハ主トシテ各部隊ノ各個調辨ニ委任シ給養セシヲ以テ最前線
部隊ハ前哨線外ニ於ケル村落ニ調辨機關ヲ派遣シ鶏、豚、大豆、野菜等ノ少量ヲ得テ
約戰時定量ノ二分ノ一ニ達セシムルヲ得タリシモ騎兵、砲兵、及豫備隊ノ如キ後方
ニ在ル部隊ハ調辨地域ニ制限ヲ受ケ概ネ倉庫ヨリノ分配品ニ甘シ定量ノ三分ノ
一以下ヲ以テ給養ヲ實行セリ
馬匹ノ給養ハ馬匹揚陸遲緩ノ爲メ上陸後直ニ倉庫給養ニ移スヲ得タリシト船内

給養ノ狀況

副食物部隊
調辨ノ狀況

干草ノ剩餘ヲ若干利用シテ比較的良好ナル給養ヲ爲シ得タリトス

第四節 南山攻撃ニ關スル給養

第一 金州ニ向フ前進ノ給養

五月十三日第一次輸送部隊ハ上陸ヲ完了セリ當時混成約一旅團ノ敵ノ主力ハ南
山ヲ守備シ一部ハ十三里臺子東西ノ高地及金州城附近ヲ占領シ遼陽及蓋平附近
ノ敵ハ東方及北方即チ我第一軍方面ニ移動シタルノ情報ニ接シ軍ハ速ニ北進シ
テ第一軍ト策應スル爲メ糧食縱列及兵站諸部隊ノ未タ上陸セサルニ拘ラス先ツ
金州附近ノ敵ヲ擊攘シ大連灣附近ニ確實ナル根據地ヲ成形スルノ必要ヲ認メ首
力ヲ以テ北方ニ對シ普蘭店、大沙河ノ線ヲ占領セシメ第一師團ヲシテ金州ヲ占領
セシメント欲シ其運動ヲ五月十五日ヲ期シ開始スルコト、爲セリ
以上ノ計畫ニ對シ給養上左ノ處置ヲ爲セリ

金州ニ向テ
前進

前進間ノ給
養

- 一、各人馬共ニ規定外ニ携帶糧秣及尋常糧秣ヲ携行セシム
- 二、軍野戰倉庫ヲ十四日牌坊ニ、十五日轉角房ニ、十六日亮甲店ニ、十七日衣家屯ニ
開設シ地方車輛ヲ以テ糧秣ヲ前送セシム

軍主力ノ變更

三、糧秣及軍需品ノ輸送ヲ悉ク軍經理部長ニ擔任セシム

四、第一師團ニ補助輸卒隊二隊ヲ附屬シ給養ノ確實ヲ期スルト共ニ爲シ得ル限リ自活スルコトヲ努メシム

五、上陸地附近ニ在テ守備ニ任スル第三師團ノ爲ニハ楊家屯軍野戰倉庫ヲ引繼キ之ニ依リテ自ラ給養セシム

六、軍ハ更ニ牌坊ニ野戰倉庫ヲ設ク其ノ目的ハ敵狀ト輸送力ノ許ス限リ成ルヘク前方ニ倉庫ヲ設ケテ將來ノ前進ヲ準備スルニアリ

五月十四日金州附近ノ敵ハ旅順方面ヨリ漸次増加セラレ約一個師團ニ上リシモノノ如キヲ以テ軍ハ北方ニ備フル兵力ヲ減少シ第一師團及第四師團ノ大部(野砲兵第十三聯隊ヲ臨時附屬ス)ヲシテ金州附近ノ敵ヲ擊攘セシムルニ決ス之カ爲メ第四師團ハ俄ニ普蘭店ヨリ金州街道ヲ金州北方高地ニ轉進スルコトハナレリ

五月十五日軍ノ前進ニ伴ヒ直ニ軍野戰倉庫ヲ轉角房ニ開設ス此前進ニ對スル給養ニ關シ各師團ハ人馬共ニ規定外ニ糧秣ヲ攜帶セシメ左ノ如ク給養ヲ豫定セリ

第一師團 規定攜帶糧秣ノ外尋常糧秣ヲ携行シ十五日攜帶糧秣、十六日携行糧秣ヲ使用シ十七、十八日ニハ地方車輛ノ輸送糧秣ニ依リ關家屯ニ倉庫ヲ設ケ

軍ノ前進

十九日ハ地方物資ノ調辨ヲ努メ乾家子(關家店ノ西北約五千米突)ニ倉庫ヲ設ケテ補給ス

第四師團 十五日及十七日ハ攜帶糧秣ニ依リ十六、十八、十九日ハ轉角房軍野戰倉庫ヨリ補給ヲ受クルモノトス

五月十五日各師團ハ豫定ノ如ク前進ヲ起シ途中小數ノ敵ヲ驅逐シ十六日第四師團ノ前衛ハ九里庄北方高地以西一帶ノ地ヲ第一師團ハ九里庄北方高地ヨリ八里庄東北高地ヲ經テ大房身ニ亘ル線ヲ占領ス

五月十七日復州街道上十三里臺子ノ敵ハ陣地ヲ棄テテ退却シ第一師團ハ第四師團ト連繫シテ金州北方及東北方ノ高地ヲ占領ス敵ハ南山ニ堅固ナル防禦工事ヲ施シ重砲ヲ備ヘ天嶮ニ人工ヲ加ヘタルヲ以テ野砲ノミヲ有スル軍ハ急遽ニ之ヲ攻略シ能ハサルニ由リ再ヒ方針ヲ變更シ一部ヲ以テ金州半島ニ於ケル敵ヲ封鎖セシメ主力ヲ以テ普蘭店、大沙河ノ線ニ於テ此ノ方面ノ敵ニ當ルコトニ決セリ

以上ノ前進間ニ於ケル給養ハ概ネ豫定ノ如ク實行スルコトヲ得タリシモ十七日ニ於ケル糧秣補給ノ爲ニハ轉角房軍野戰倉庫ヨリ地方車輛ヲ以テ第一師團ノ爲ニハ亮甲店ニ第四師團ノ爲ニハ牟家屯ニ糧秣ヲ送致スルノ已ヲ得サルニ至リ且

給養ノ實行

復州街道ニ在ル諸隊ノ大行李ハ大ニ疲勞セシヲ以テ補給ヲ容易ナラシムル爲メ翌十八日早朝轉角房ヨリ軍主力ニ對スル約一日分ノ糧秣ヲ衣家屯ニ送付シ此ノ地ニ軍野戰倉庫ヲ開設スルコトトナセリ

第二 南山攻撃ノ給養

南山ノ攻撃

五月十八日軍司令官ハ大本營ヨリ北方ヨリスル敵ノ壓迫ノ急ナラサルニ乘シ艦隊共同援助ノ有無ニ關セス速ニ前面ノ敵ヲ擊攘シ陸上ヨリ大連灣ヲ制シ搜海ノ時機ヲ得セシムベシトノ訓令ニ接シタルヲ以テ斷然金州及南山ヲ攻略シ續イテ安子山、磨盤山ノ線ニ進出セント欲シ一旦普蘭店附近ニ歸リタル第四師團ノ主力及第三師團ヲ再ヒ金州附近ニ急進セシムルコト、爲セリ然レトモ當時軍ハ尙一ノ兵站司令部及糧食縱列ヲ有セサルヲ以テ豫メ糧秣ヲ適當ノ地點ニ集積セサルヘカラサルト軍ノ兵力ヲ増加スル爲メ第二次輸送部隊ノ揚陸ヲ待ツ目的トヲ以テ若干日ノ猶豫ヲ與フル如ク作戰計畫ヲ策定セリ前項ノ目的ヲ達スル爲メ五月二十日河口ニ軍野戰倉庫ヲ設置シ亮甲店ヨリ糧秣ヲ前送シテ多量ノ糧秣ヲ集積シ軍ノ前進ニ伴ヒ逐次軍野戰倉庫ヲ金州、大毛家塋、姚家屯ニ進メ補給ヲ完全ナラシメントス

給養ノ處置

軍ノ運動

五月二十三日軍司令官ハ金州及南山ニ在ル敵ヲ攻撃スル爲メ第一、第三、第四師團及砲兵第一旅團ヲ十三里台子ヨリ大窑西北岸ノ線ニ開進セシメシト雖モ諸團隊ノ連日行動シテ疲勞セルヲ顧リ二十四日夜前線ヲ進メ南山攻撃ノ準備ヲ爲セシモ艦隊ノ策應ヲ俟ツテ二十五日ヲ經過シ二十六日拂曉ヨリ南山ヲ攻撃シ力戰苦闘ノ後黄昏ニ至リ南山ヲ占領シ此ノ地附近ニ於テ夜ヲ徹シ二十七日第一、第三、第四師團ノ各步兵一聯隊、騎兵ノ大部、砲兵一大隊、工兵一中隊ヲ派遣シ敵ヲ追撃シテ後南關嶺附近ヲ占領セシメ各師團ハ大房身、大毛家塋附近ニ宿營シ二十八日ハ前進準備未タ整ハサリシヲ以テ空シク一日滞在シ二十九日五間房、西部三道溝ノ線ニ前進セリ

以上ノ期間ニ於ケル給養ノ爲メニハ豫メ河口ニ軍野戰倉庫ヲ設ケ多量ノ糧秣ヲ集積スルヲ努メタリシト雖モ糧食縱列及兵站輜重等ハ未タ揚陸セスシテ輸送力不足ノ爲メ豫則ノ數量ヲ集積スルヲ得ス故ニ一方ニハ各部隊ニ規定外ニ糧秣ヲ携帶セシメ一方ニハ軍野戰倉庫ヲ爲シ得ル限リ前方ニ推進セシメテ補給ノ確實ヲ圖ルヲ期シ五月二十六日黄昏軍ノ南山ヲ占領スルト同時ニ軍糧餉部ハ携行糧秣ヲ金州ニ卸下シテ直ニ倉庫開設ノ準備ニ着手シ地方車輛徵集ニ努力セシモ未

タ秩序恢復セサル戰開直後トテ豫期ノ効果ヲ得サリシトス

軍野戰倉庫ヲ推進スル爲ニハ軍糧餉部ハ逐次兵站要員ノ到着スルニ從ヒ從來設置シアル倉庫及輸送業務ヲ現在使用シアル車輛ト共ニ兵站ニ交付シ同部ハ更ニ前進地帯ニ於テ地方車輛ヲ徵集シ輸送ヲ完フスルヲ圖レリト雖モ此ノ行動ノ爲メ軍ハ漸次上陸地ヲ遠サカリ現地調辨ヲ以テ給養スルコトハ素ヨリ望ムヘカラサルヲ以テ全部殆ント追送ニ依ラサルヘカラス然ルニ糧秣ノ輸送ハ殆ント全ク地方車輛ニ依ルノ外他ニ方法ナク之ニ加フルニ道路險惡ニシテ亮甲店以西ハ殊ニ高低甚シキノミナラス石礫地ニシテ車輛ノ通過頗ル困難ナルノ狀況ナリシヲ以テ假令短距離ナリト雖モ晝間日光ノ存在スル限リハ輸送ニ從事セシムル如ク糧秣ノ前送ニ努力セシ結果軍野戰倉庫ノ數ヲ増加シ上陸後此ノ方面ニ於テ軍糧餉部ノ設置シタル倉庫ハ實ニ左ノ多數ニ上レリ

- 上陸地 五月九日開設五月二十日兵站司令部ヲ開設セシモ軍糧餉部員ノ倉庫引繼ヲ了シ歸部セシハ六月六日トス
- 勇家屯 五月六日開設九日揚家屯ニ移轉
- 楊家屯 五月九日開設同十三日第三師團ニ引繼ク

牌方 五月十三日開設同十九日閉鎖
 轉角房 五月十五日開設同二十五日兵站ニ引繼ク
 亮甲店 五月十六日開設同二十六日兵站ニ引繼ク
 衣家屯 五月十八日開設同十九日糧秣ヲ第一師團ニ引繼キ閉鎖
 河口 五月二十日開設同二十七日兵站ニ引繼ク
 金州 五月二十七日開設
 大毛家堡 五月二十八日開設
 三十里堡 五月二十九日開設

然シテ此等ノ倉庫ハ兵站司令部ノ開設スルニ從ヒ逐次之ニ引繼クコトトナリタルモ之カ主任タル部員ハ引繼ノ爲メ時日ヲ要シ直ニ歸部スル能ハサリシヲ以テ一時一部員ヲシテ二個ノ倉庫ヲ管理セシメ其ノ業務ハ主トシテ計手ニ任スルノ已ムヲ得サルニ至リタルコトアリシトス此ノ如キ弊害ナカラシムル爲ニハ將來兵站ニ引繼クヘキ豫定ノ大倉庫ハ爲シ得ル限リ豫メ兵站ヨリ所要ノ職員ヲ出シテ其ノ業務ノ一部ヲ擔任セシメ以テ引繼交代ヲ迅速ニシ野戰經理部ノ活動ヲ容易ナラシムルヲ可ト信ス

アリ則チ四面閉塞セラレタル掌大ナル上陸地附近ノ車輛ハ悉皆使用シ尙ホ擔夫駄賦チモ徵集シアリタルヲ以テ貨銀チ何程高上スルモ地區ノ擴張セラレサル限リ車輛チ增加スルノ不可能ナルコト、銃砲聲チ聞キ危險界ニ入レテ恐怖シ金州ニ近クテ避ケタルコト及露軍ノ南進チ聞キ北方ヨリ來レル出稼人ノ歸リ去ラントセシコト、金州占領ト共ニ多數ノ運搬具チ得タリトノ虛報ニ誤ラレタルコト、距離ノ遠伸ニ伴ヒ車輛チ增加スルコトハ金州方面ヨリスルニ非ラサレハ不可能ナリシコト主因ナルヲ信ス單ニ貨銀ノミニ因ルト速斷セラレタルハ事實チ詳知セラレサルニ出テタルモノナラン又砲甲店ニ集積シ得ラレタルハ短距離ナルト數日間ニ涉リタルモノナリ若シ兵站ニ之等チ反問セシメタランニハ此ノ地方ノ資源地タル金州チ新ニ占領セラレタル軍ノ機關ニ於テコソヨリ以上何等ノ手段チナカリシヤチ遺憾トセシナラン(限)

第五節 遼陽會戰前ニ於ケル給養

第一 要旨

第二軍ハ三十七年五月南山占領後旅順方面ノ敵ヲ新タニ編成セラレタル第三軍ニ讓リ其兵力ヲ普蘭店、大沙河ノ線ニ集結シ鳳凰城方面ヨリ前進スル第一軍及岫巖方面ヨリスル第十師團ト策應シテ遼陽會戰ヲ期スル爲メ北進ノ準備ヲ爲セリ六月軍ハ前進ヲ起シ旅順救援ノ目的ヲ以テ漸次南下セシ敵ヲ得利寺附近ニ擊破セリ茲ニ於テ大本營ハ各軍ヲ連繫シテ七月中旬頃ニ全軍ヲ遼陽附近ニ進出セシメント欲セリ當時第一軍ハ七月五日頃ニハ草河口ヲ經テ遼陽ニ、獨立第十師團ハ

軍ノ行動

給養ノ狀況

同日頃ニハ岫巖ヲ發シ遼陽ニ前進スルコトヲ得ルノ狀況ナリシヲ以テ第二軍ヲシテ六月二十七日頃迄ニ蓋平附近ニ前進セシメント企圖セリ然ルニ時恰モ雨季ニ際シ第二軍方面ハ第一軍方面ノ如キ山地ニ比スレハ之カ影響ヲ受クルコト一層多大ニシテ泥土車輪ヲ沒シ交通ノ杜絶等幾多ノ障礙ヲ蒙リ管ニ前進準備糧秣ヲ蓄積スルコト能ハサリシノミナラス日々ノ費消費ヲモ補充スル能ハサルノ狀況トナリシニ由リ一方ニハ追送定量ヲ減シ雜穀等ヲ調辨シテ之カ不足ヲ補ヒ一方ニハ極力地方運搬具ヲ徵集スルト同時ニ鹵獲貨車ノ鐵道輸送及海路輸送ヲ企ツル等畫策最モ努メタリシト雖モ糧秣ノ補給尙十分ナラス爲ニ大本營ノ企畫セシ雨季前ニ於ケル遼陽會戰ヲ斷念スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

爾後危險ナル鹵獲貨車ノ手押運、冒險的ナル海路輸送ハ幸ニシテ奏効シ若干ノ糧秣ヲ集積シ得タリシヲ以テ七月上旬ニ至リ纔ニ前進ヲ開始シ七月九日蓋平ヲ占領シ同二十五日大石橋營口ノ線ヲ、八月四日海城、牛莊ノ線ヲ占領シ八月下旬迄此ノ位置ニ在テ遼陽會戰ヲ準備セリ

此ノ前進ニ際シ以上ノ如ク給養ニ困難ヲ生セシハ滿洲ノ雨季ニ遭遇セシト兵站糧秣輸送ノ唯一ノ材料タル地方運搬具ヲ野戰師團及他軍ノ爲メ吸收セラレタル

給養困難ノ原因

ヲ主ナル原因ト爲スモ其ノ他ニ於テモ亦原因少ナカラサルヘシト信ス

第一 得利寺戰鬪前後ニ於ケル給養

六月十日頃軍ハ彈藥及糧秣ノ準備略完成セシヲ以テ先ツ熊岳城附近ニ進出スルノ目的ヲ以テ十三日北進ノ途ニ上ラントス此ノ前進ニ對シテハ給養上左ノ處置ヲ爲セリ

- 一、輻重ニ屬スル人馬ハ規定外ニ糧秣ヲ増加携帯セシム
- 二、野砲兵第一旅團ノ所要糧秣ヲ師團ノ輻重ニ積載セシム
- 三、兵站ハ十五日瓦房店及李家店ニ倉庫ヲ設ケテ補充ス

此ノ前進ニ對スル輻重及軍直屬部隊ノ給養ハ特ニ得利寺以南ニ於テハ最寄兵站倉庫ヨリ補給ヲ受ケ兵站倉庫ノ豫定ナキ得利寺以北ニ於テハ規定外携帯糧秣ニ依リ給養スルコトニ定メラレシヲ以テ現在騎兵旅團及砲兵旅團等ノ給養ノ爲メ軍糧餉部ニ有セシ地方車輛ハ悉ク兵站ニ引繼ヲ爲シ軍糧餉部ハ主トシテ軍直屬部隊ニ於ケル給養實施上ノ業務ト地方物資特ニ地方車輛ヲ各兵站司令部ニ來集セシムル如ク勸誘シテ兵站ノ推進力ヲ助長セシムルコトニ任セリ

兵站ハ五月二十四日大本營ヨリ軍將來ノ前進ヲ顧慮シ六月十五日迄ニ魏子窩及

前進ノ給養

輻重ノ給養

兵站ノ狀況

普蘭店ニ糧秣ヲ集積スヘキノ訓令ヲ受ケ當時恰モ北方面ノ守備ニ任セシ第五師團カ魏子窩ニ物資ヲ集積スル爲メ騎兵第五聯隊ヲ派遣シ野戰倉庫ヲ掩護セシメシニ因リ二十六日一兵站司令部ヲ同地ニ派遣シ六月二日迄ニ上陸地ヨリ水路ヲ以テ糧秣ヲ轉送集積スルニ着手セリ普蘭店ニ於テモ亦同シ然ルニ敵兵漸次普蘭店北方ニ接近セシニ因リ三日軍命令ニ依リ糧秣ノ集積ヲ中止シ兩地共ニ防禦線外ニ在ルノ故ヲ以テ一切ノ設備ヲ撤ス之カ爲メ魏子窩兵站司令部ハ同地ニ集積セシ糧秣ヲ海軍ノ援助ニ依リ上陸地迄水路逆送中敵騎ノ脅威スル所ト爲リ殘餘ヲ土民ニ託シテ撤退シ十三日再ヒ同地ニ到リ殘置セシ糧秣ヲ以テ該方面ニ行動セシ騎兵第一旅團ノ補給ヲ爲シ普蘭店方面ニアリテハ其ノ蓄積糧秣ヲ杏樹口子ニ移シ其ノ未タ完了セサルニ先チ軍ハ前進ヲ起セシ狀況ナリトス又徵徭シアリシ地方車輛ハ多數ナリシモ上陸地ニ於テ第三軍方面ニ多數ヲ使用セサルヘカラサルト賃銀値下ケ其ノ他ノ原因ニ依リ糧秣ノ補給軍ノ前進ニ伴フコト困難ナルニ至レリ

普蘭店及魏子窩倉庫ノ撤退ヲ迫ラレシモ實行ハ一部ニ止マレリ則チ魏子窩ハ馬賊ニ托シ普蘭店ハ終ニ日章旗ヲ撤セサリシ之レ軍北進ノ爲メ後ニ多大ノ利便ヲ得タリ(限)

軍ノ前進ト
兵站ノ推進

普蘭店倉庫糧秣ノ撤退ハ軍ニ於テ兵力ヲ以テ強行セラレ後チ兵站ニ於テ之ヲ回復集積センカ爲メ頗ル苦心ヲ重ニ車輛外ニ擔夫駄獸マテテ使用シ全力ヲ注キタリ此處置ハ要スルニ二重ノ煩ト招キタル結果ヲ生セリ(限)
實銀値下ハ運搬具減少チ歲レ暫ク其機曾チ待チアリシニ十一日ノ糧秣前進ニ稍餘裕ヲ得タルヲ以テ好機逸メヘカラストシテ直ニ之ヲ斷行セリ然ルニ意外ニモ同盟罷工ニ日ニ亘レリ之カ爲メ前進ハ出來ス海岸ニハ揚陸荷物堆積シ故ニ頗ル苦心ヲ重ネ彼等チ說得シテ漸ク三日日ヨリ回復スルヲ得タリ之レ戰爭費節約心ノ發作ト給養ノ大責任ヨリ來ル衝突ニシテ此調和ハ經理官ノ努ムヘキ研究點味スヘキ要點ナリト確信ス(限)

六月十三日(晴)軍ハ運動ヲ起シ大平庄ヨリ馬連溝、拉子山、吳家屯ヲ經テ大田家屯附近ニ亘ル線ヲ占領ス此ノ日兵站ハ未タ糧秣前進ノ運ヒニ至ラス

満足ナル結果ヲ得サル爲メ兵站ハ晝夜殆ント寢食ヲ忘レ有ラン限リノ手段方法ヲ實行シタルモ天候及車輛ノ減少距離ノ延伸等ニ依リ戰鬪部隊ニ對シテ意ノ如クナラサリシハ爲スナキニアラス不可能ナリシ無爲ノ如ク見ユル所ニ却テ多大ナル働キアルコトノ看破ヲ要ス(限)

六月十四日(曇)軍ハ前面ノ敵ヲ驅逐シテ大、小徐家屯附近ノ高地ヨリ龍王廟ヲ經テ呂家溝附近ニ亘ル線ニ前進シ敵ト相對峙シテ日沒ニ至ル

此ノ日輻重自己ノ給養ニ關シ兵站ト見解ヲ異ニスル所アリテ其ノ補給ヲ受クルコト能ハサルニ至リシヲ以テ軍經理部長ハ兵站經理部長ニ成ルヘク速ニ南瓦房店迄兵站倉庫ヲ進メラレタキ旨ヲ電報セリ

兵站業務ノ大部ハ軍需品ノ輸送ニ在リ兵站監以下全力ヲ傾注シテ苦心スルモ亦茲ニ在リ且ツ輸送及倉庫ノ開設地ヲ經理部長

專任ノ姿ニシテハ兵器彈藥衛生材料其他ノ輸送及地方ノ警戒護衛電信電話郵便等諸般ノ設備ト一致セサルコトアリ加之經理部長以外ハ軍ニ手傳ヲ爲メノ姿トナリテ監部ノ圓滿ナル協力一致ヲ發揮シ難シ又兵站倉庫ハ兵站ノ一部ニシテ野戰倉庫トハ其趣ヲ異ニス故ニ命令ハ軍司令官ヨリ區區ハ經理部長ヨリスルチ適當ト考フ此點充分ナル研究ヲ要ス(限)
兵站經理部長ハ獨立シアラス又軍經理部長ノ代理派出ニアラス兵站監ニ隸屬シアルヲ以テ輸送ノ終始、倉庫ノ開閉ハ之ニ關聯シタル他ノ事項ト調和一致ヲ要スル爲メ當然兵站監ニ報告シ參謀長等ト協力實行スルヲ要ス果シテ然ラハ任務遂行ノ難易及命令ノ系統等ニ就キ何レチ可トスルチ充分ナル研究ヲ要ス(限)
軍前進ノ爲メニハ給養ヲ保證スル爲メ兵站ノ狀況ヲ知悉スルコト肝要ナリ否ラサレハ稍モスレハ危險ニ陥リ又不可能チ兵站ニ強フルコトナル研究ヲ要ス(限)

十五日ノ狀

軍糧倉庫
ノ開設

六月十五日(曇)午後驟雨(軍ハ拂曉ヨリ前面ノ敵ヲ攻撃シテ之ヲ潰亂セシメ午後六時各方面追撃ノ後第三師團ハ老燒燭附近、第五師團ハ山嘴北方ノ高地、混成第十九旅團ハ得利寺西方ノ高地ヲ占領シテ夜ヲ徹ス
第六師團ノ逐次到着スル部隊ハ多ク大行李ヲモ携行セサリシヲ以テ此等ニ對スル給養ハ軍糧餉部ニ於テ擔任セリ當時軍糧餉部ノ任務ハ既ニ述ヘタル如クナリシモ兵站ノ補給確實ヲ期シ難キヲ以テ自ラ車輛ヲ徵集シテ糧秣ヲ準備集積スルノ必要ト將來軍ノ行動カ復州街道ノ方面ニ重キヲ置カル、トノ願慮ニ基キ潘家屯ニ至リ此ノ地ニ軍野戰倉庫ヲ開設ス

以上前進間ニ於ケル給養ハ概ネ十三、十四日ノ兩日ハ携行糧秣ヲ用ヒ普蘭店兵站

前進間ノ給
養狀況

倉庫ニ就キ補充ヲ受ケシモ十四日ニ於テハ第三、第五師團ハ携帶糧秣ヲ使用スルノ已ムヲ得サルニ至レリ第四師團ノ糧食縦列ノ如キハ午後七時大行李ヲ補充セシトセシモ道路ノ險惡ト酷熱トノ爲メ輻重疲勞シ十五日午前四時行程十里餘ニシテ十九時間ヲ費セリニ至リ漸ク豫定地ニ到著シタルノ狀況ナリシヲ以テ糧秣補充ニ困難セリ

大行李ノ補充

大行李糧秣ノ補充ハ各師團共概ネ左ノ理由ニ依リ翌朝之ヲ行ヒシモノヲ多シトス

- 一、宿營命令ハ概ネ午後五時乃至八時ニ下達セラレシヲ以テ大行李カ各部隊ノ宿營地ニ分進シ更ニ糧秣分配所ニ至ルニハ夜間トナリシノミナラス其ノ行進スル地方ハ廣漠タル丘陵ノ起伏地ニシテ類似ノ道路及村落名ノ同一若クハ同音ノモノ多クシテ道ヲ失ヒシコト尠ナカラス
- 二、夜間ニ於テハ糧食縦列ノ運動及糧秣受授ノ確實等ヲ期スルコト最モ困難ナリシトス
- 三、大行李及糧食縦列ハ通常敵狀ニ依リ午前ハ畑地ニ集合シ或ハ道路ノ一側ニ停止セシヲ以テ此ノ際分配補充ヲ爲スノ機會多シ

第三 復州附近ニ於ケル前進準備ノ困難

軍ノ目的

六月十五日軍ハ得利寺附近ノ敵ヲ擊破セシモ諸隊ノ秩序恢復セサルト糧秣ノ準備未タ整ハサリシトニ因リ敵ヲ遠ク追撃スルコト能ハス復州街道方面ヨリ前進セント欲シ其ノ兵力ヲ復州東北方ノ平地ニ集結ス當時新タニ軍ニ編入セラレ馬連屯附近ニ集合セシ第六師團ハ其ノ輻重未タ到著セサルニ由リ潘家屯軍野戰倉庫ヨリ糧秣ノ補充ヲ受ケシモ新ニ第三、第四、第五師團ノ糧食縦列ヲ配屬シ南瓦房店兵站倉庫ヨリ補充ヲ受ケシムルコトト爲シ軍ハ十九日ヲ以テ田家屯、長嶺子ノ線ニ、二十日ヲ以テ李官村河ノ線ニ進出スルニ決セリ

敵敗ノ役方
擾亂

然ルニ十六日復州附近ニ在リシ騎兵約五六十騎ハ軍ノ急速ナル前進ノ爲メ其ノ退路ヲ遮斷セラレテ軍ノ後方地區内ヲ彷徨シ尖山子南方附近ニ於テ前項馬連屯ニ招致セラレタル第三師團ノ糧食縦列ト衝突シ又潘家屯軍野戰倉庫ヲ襲撃シ復州街道上ニ於テハ行軍中ニ在ル復州兵站司令部ヲ襲撃シ車輛徵集委員ノ業務ヲ妨害スル等軍ノ後方ヲ攪亂シ得利寺附近戰鬪ノ爲メ恐慌ヲ生セシメタルノミナラズ土民及支那馬夫ヲシテ益々恐怖セシメ爾後一時車輛ノ徵集ヲ困難ナラシメタリ、六月十七日ハ豪雨ニシテ交通杜絶シ六月十八日ハ晴天ナリシモ恰モ支那ノ

兵站輸送ノ
障礙

節句ニ當リ地方車輛ノ業ヲ休ミタル等ノ故障ニ遭遇シ地方車輛ノ散逸スルモノ多キヲ以テ兵站ハ運搬力補足ノ非常手段トシテ後方ヨリ來ル車輛及前方ヨリ後方ニ向フ空車ヲ悉ク抑留シテ前方ニ使用スル等ノ方法ヲ講セシト雖モ豫期ノ如ク糧秣ヲ前送スルコト能ハサルノ狀況ニ至レリ

兵站ノ使用中ナル車輛ヲ殺カレ又車夫ニ不安ノ念ヲ生シ使用ヲ避ケ集來セサル等兵站ニ惡影響ヲ及ホシタルカ如シ果シテ如何(畏)

軍ノ前進
然レトモ軍司令官ハ物資殊ニ運搬材料ノ徵集區域ヲ擴張スル爲メ李官河右岸ノ高地ニ向ヒ前進セント欲シ十九日(曇)午後微雨田家屯長嶺子ノ線ニ前進ス

第四 蓋平占領前後ニ於ケル給養

其一 給養困難ノ狀況

軍ノ前進
六月十九日軍司令官ハ左ノ要旨ノ大本營訓令ヲ受領セリ
敵ノ主力ハ遼陽附近ニ在ルモノノ如シ第二軍ハ草河口方面ヨリスル第一軍及岫巖方面ヨリスル獨立第十師團ト策應シテ此敵ヲ攻撃センカ爲メ先ツ二十七日頃蓋平ニ達センコトヲ努ムヘシ熊岳城ヲ占領スルニ至レハ兵站總監ヲシテ

運送定量ノ減少

水路ニ依リ糧秣ヲ熊岳河口附近ニ揚陸スルコトヲ企畫セシム

軍司令官ハ此ノ訓令ニ基キ速ニ前進センコトヲ企圖セシモ兵站ノ輸送ハ益々困難トナリ營ニ前進ヲ繼續スル能ハサルノミナラス現在地ニ停止スルモ尙給養ノ確實ヲ期シ難キ狀況ニ陥リタルニ由リ十九日軍經理部長ハ左ノ通報ヲ發セリ

一、倉庫ヨリ分配スル副食物ハ當分ノ内鹽、醬油、エキス、福神漬ニ止メ他ハ地方調辨ニ依ルコト

二、大麥ハ定量ヲ半減シ其ノ不足ハ雜穀ヲ調辨シテ之ヲ補フコト

三、馬糧トシテ各馬ニ携帶セシ大麥ヲ精米ト交換スルコト

四、南瓦房店若クハ李家店ニ於テ糧秣ヲ補充スル能ハサルトキハ普蘭店ニ至ルコト

此ノ如クシテ兵站ノ輸送量ヲ輕減シ餘力ヲ以テ米麥ヲ多量ニ前送スルヲ努メシメ一方ニハ尙各師團ノ彈藥縱列ヲシテ附近倉庫ノ糧秣運搬ニ從事セシメタリ然ルニ第四師團ハ携帶馬糧大麥ト交換スヘキ精米ヲ有セス且縱列ノ疲勞ハ極度ニ達シ復州以南ニ至ラシムルコト能ハサル旨ヲ申報シタルノ狀況ナリシ

天候ノ爲メ交通殆ント杜絶シ電話ハ切斷セラレ頗ル苦境ニ瀕セリ幸ヒ手押貨車輸送ノ補助ニ依リ此ノ窮狀ヲ救ハレタリ(畏)

軍ノ前進中

給養ノ狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ軍ハ暫ク現在地ニ停止スルニ決シ二十日各師團ヨリ各一支隊歩兵約一大隊砲兵一小隊ヲ基幹トス龍門湯大屯劉家屯李官村附近ニ派遣シテ軍ノ進出ヲ容易ニシ且敵狀ヲ搜索セシメタリ此ノ日軍糧餉部ハ潘家屯及蕪家屯ノ軍野戰倉庫ニハ必要已ヲ得サル小數ノ職員ヲ殘置シ其ノ他ハ普蘭店ニ至リ同地以北ノ輸送ヲ補助スヘキヲ命セラレテ出發ス然レトモ二十一日兵站ノ狀況良好ニ向ヒ二十二日軍前進ヲ開始セシニ依リ直ニ歸還セリ

當時兵站ハ糧ヲ給養兵額ヲ増加シ大連亦運テ得ルマテハ第三軍ノ大兵ニ對スル補充ヲ遂行シアリ又兵站ニ在テハ兵力少ク因テ輜卒一名(輜卒ハ銃ノミヲ帶テ銃ヲ持タサル故支那人之ヲ恐レズ日本苦力ト稱ヘ輕蔑シタル氣味アリシ)ニ多數ノ車輛ヲ形式的ニ監視セシムルノ已ヲ得サルニ反シ軍ニテハ銃器ヲ携ヘタル監視兵ヲ附シ中ニハ一車輛ニ一兵ヲ用キテ晝夜自由ニ強制使用シタルモノナリ(限)

前進ニ關スル軍司令官ノ訓示

六月二十一日軍司令官ハ左ノ要旨ノ訓示ヲ下シ二十二日ヲ以テ李官村河ノ線ニ前進スルニ決ス

前進軍ノ給養ニ缺乏ヲ來スハ免レ能ハサル所ナリト雖モ今回我軍ノ是ニ關スル困難ハ一層大ニシテ鐵道船舶ヲ善用シ能ハサル地方物資ヲ集積スルコト容易ナラサル其ノ兵力ノ強大ナル等一トシテ此ノ困難ヲ増大セサルハナシ然レ

二十一日ニ於ケル兵站ノ狀況
軍ノ前進

給養困難ノ狀況

第三師團

トモ軍ハ他軍トノ聯繫上其ノ行動ニハ一定ノ時日ト目的トヲ指定セラレアリテ曠ク無爲ノ情態ニ立ツハ決シテ許ササル所ナリ故ニ今ヤ如何ナル困難ヲ排除スルモ北進ヲ決行セントシ其ノ端緒ハ明二十二日ヲ以テ開始セントス各官ハ既往現在ノ情況ニ鑑ミ既ニ是ニ對スル決心是ニ對スル成案アルヲ信スト雖トモ事國軍ノ運命ニ關スルモノアリ宜シク自ラ銳意籌策スル所アルト同時ニ部下ヲ督勵シテ此ノ困難ヲ排除スルハ即チ一步ヲ勝利ニ向テ進ムルモノト覺悟セシメ以テ軍最終ノ目的ニ副ハシメンコトヲ期スヘシ云々

此ノ日兵站ノ糧秣輸送力ハ稍良好ノ狀況ヲ呈セリ
六月二十二日軍ハ豫定ノ如ク前進シ第三師團ハ三道河大道附近ニ第五師團ハ東北溝附近ニ第四師團ハ二臺子附近ニ進出シ一部ヲ以テ熊岳城ヲ占領シ第六師團ハ依然後劉家溝附近ニ停止セリ

當時兵站ノ糧秣輸送追及セサリシ爲メ各師團ノ給養及之カ糧秣受領ノ爲メ遠ク後方ニ縱列ヲ派遣シタルノ概況ヲ例示セハ左ノ如シ

第三師團 十八日田家屯二十一日關子溝ノ野戰倉庫ニ由リシ外皆携行糧秣ヲ用井其ノ補充ハ北瓦房店兵站倉庫ヨリ受ケシモ後遠ク普蘭店兵站倉庫ニ至

リテ糧秣ヲ受領シ副食物ハ概ネ現地調辨ニ依レリ
二十三日二道河ニ野戰倉庫ヲ設ケ其ノ補給ヲ得利寺兵站倉庫ニ仰キシモ同
倉庫ノ糧秣缺乏セシニ因リ熊岳城ヨリ粟ヲ調辨シ米麥ノ代用トシテ給養セ
リ

第四師團

第四師團 十七日陳家屯ニ野戰倉庫ヲ設ケ復州兵站倉庫ヨリ補給ヲ受ケシモ
軍經理部長ハ復州兵站倉庫ノ糧秣ヲ以テ第六師團及騎兵砲兵兩旅團ノ補給
ヲ爲サントセシニ因リ十九日以後復州ニ師團野戰倉庫ヲ設ケ普蘭店兵站倉
庫ヨリ補充ヲ受ケ尋テ小孫家屯及李官村ニ師團野戰倉庫ヲ設ケテ給養セリ
以上ノ如キ狀況ニシテ兵站ハ其ノ輸送力不足シ補給點ヲ前方ニ進ムルコト能ハ
サリシヲ以テ軍ノ前進スルニ從ヒ補給點ト軍隊トノ距離次第ニ遠カリ師團ノ有
スル輸送機關ノミニ依リ到底前進ヲ繼續スルコト能ハス殊ニ各團隊ノ行李及輜
重ノ馬匹ハ季節漸ク暑氣ヲ加ヘタルト勞働ノ過大ナリシトニ依リ日々病斃馬ヲ
増加シ各師團共糧食縱列ノ輸送力ハ約二分ノ一ニ減少シ就中第四師團ノ如キハ
健馬僅ニ約三分ノ一ニ過キス之カ補缺ハ皆地方車輛ニ依リシヲ以テ兵站地ニ於
ケル輸送力ハ益々減殺セララルルノ狀況トス

糧秣輸送力
減耗

補給點ノ遠
隔

雜穀ヲ主
ニ代用

糧秣輸送ノ狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ單ニ馬糧大麥ニ對シ雜穀ヲ代用セシノ
ミナラス糧食モ亦雜穀ヲ代用シテ精米ヲ蓄積シ若クハ之ニ要スル輸送力ヲ減少
スルコトヲ圖リタルノ狀況ハ左ノ如シ

第四師團 六月二十日以來主食ヲ精米四合及雜穀ト爲シ雜穀ハ出來得ル限り
粟ヲ給與シ已ムヲ得サルトキハ玉蜀黍大豆各一合ト爲シ大豆若ク、玉蜀黍
ノ一品ノミヲ給スルコトハ之ヲ避ケタリ

第三師團 六月二十三日及二十四日ノ兩日間精米定量ノ三分ノ一ヲ減シ粟ヲ
以テ之ニ代用シ此ノ節約米ヲ以テ規定外ニ携帶口糧一日分(日量四合)ヲ携帶
セシム

第五師團 六月二十一日以後同上

殊ニ遅クテ戰場ニ到着セシ第六師團ハ臨時配屬セラレタル糧食縱列ニ於ケル
輸送力ノ不足ヲ補フ爲メ馬糧ノ全部ヲ地方調辨ニ依リ給スルヲ努メタリシモ其
ノ行進路ハ既ニ多クハ他ノ師團カ徵集シ盡シタル所ナリシヲ以テ二十二日ノ如
キハ六個ノ物資調辨班ヲ派遣シ僅ニ雜穀三十石ヲ得タリシニ過キス車輛ノ徵集
モ亦同様ニシテ數臺ヲ得ルコトモ困難ナルノ狀況ナリシ

馬糧全部ニ
代用品利用

運送船回漕
ノ不履行

鹵獲貨車ノ
利用

冒險的
海路
輸送

軍前進ノ必
要

然レトモ幸ニ大本營ノ計畫ニ基ク熊岳河口ニ向フ糧秣ノ廻漕ハ聯合艦隊ニ於テ二十四日ヲ期シ運送船ヲ護衛シテ號房沖合ニ至ルコトヲ應諾セシヲ以テ軍ハ稍々意ヲ安シ二十三日現在ノ地ニ停止シ第五師團ヲ最外右翼ノ高家屯ニ移ス等山砲師團ヲ山地ニ用ユル爲メ若干ノ移動ヲ行ヒ二十四日ヲ以テ前進ヲ開始スルニ決セリ然ルニ其ノ前日旅順艦隊突如出動シ我カ聯合艦隊ハ之ニ對スル警戒上右ノ約ヲ履ム能ハサルニ至リシヲ以テ軍ノ前進企圖ハ再ヒ畫餅ニ屬シ尙現在地ニ停止シ左ノ手段ヲ取リテ前進準備ヲ爲セリ

一、第三軍ニ交渉シ陸路運搬ノ基點ヲ柳樹屯ニ移シ大連ニ在ル鹵獲貨車ヲ大規模ニ鐵道線路上ニ使用シテ手押式輸送ヲ開始シ以テ兵站倉庫ヲ速ニ北瓦房店及李官村ニ前進セシムルコト

二、非常手段トシテ敵眼ヲ冒シ支那戎克船ヲ用キテ遼東灣沿岸ニ水路輸送ヲ爲スコト

戎克船ノ輸送ハ兵站ニ部ノ開始シタル冒險的輸送ニシテ幸ニ偉功ヲ奏シ爾後軍ノ給養ニ一大安心ヲ與ヘ後ニハ兵站倉庫ヲ艦カケテ爲スノ其況ニ進メリ之レ所謂身ヲ以テ責ニ任シ敢行シタル好通例ナルヲ信ス(限)

其二 戰鬪部隊ノ糧秣輸送

給養ノ狀況前陳ノ如キニ拘ラス當時敵ハ蓋平北方ノ高地脈ヲ守備スルモノノ如ク遼陽附近ノ敵モ亦南下ノ情報アリ之ニ加フルニ連繫ヲ保持スヘキ第一軍及獨立第十師團ハ將ニ前進ヲ起スノ狀況ニアリシヲ以テ二十六日軍司令官ハ速ニ蓋平ヲ占領スルニ決スルト同時ニ鹵獲貨車輸送糧秣ノ到着ヲ待テテ前進ヲ準備スルカ如キ緩慢ナル手段ニ依ル能ハサリシヲ以テ得利寺、蕉家屯以北ハ軍自ラ運搬ヲ計畫シ已ムヲ得サレハ戰鬪部隊ヲ使用シテ糧秣ヲ運搬シ以テ北進ヲ急速ニ爲スコトヲ努メシモ天候順ナラス六月二十七日ヨリ大雨沛然トシテ來リ二十九日ニ至ルモ歇マス復州河漲溢シテ得利寺、半拉山子間車輛ノ通過ヲ許サス糧秣ノ輸送暫ク杜絶シ單ニ兵站ノ倉庫ヲ得利寺及蕉家屯以北ニ進ムル能ハサルノミナラス僅ニ手押貨車ノ輸送ト各師團ニ於ケル定量ノ減少及現地物資ニ依リ僅ニ現狀ヲ維持スルニ過キササルヲ以テ六月二十九日一時得利寺及蕉家屯以北ノ糧秣輸送ヲ軍隊ヲシテ擔任セシムルコトト爲シ北瓦房店及蕉家屯兵站司令官ヲシテ軍糧餉部及各師團ノ糧秣受領者ニ平等ニ糧秣ヲ分配セシメ七月二日以降左ノ如ク各師團等ヲシテ各其ノ運搬具ヲ以テ糧秣ヲ前送シテ集積スヘキヲ命シタリ

軍糧餉部 蕉家屯ヨリ糧秣ヲ受領シ三臺子附近ニ集積ス

第三師團 北瓦房店ヨリ南臺子附近ニ集積ス

戰鬪部隊ノ
糧秣

天候ノ不其

第四師團 燕家屯ヨリ三臺子附近ニ集積ス

第五師團 北瓦房店ヨリ趙家屯附近ニ集積ス

第六師團 北瓦房店ヨリ馬家屯附近ニ集積ス

各師團ハ此ノ命令ニ基キ糧食縱列彈藥縱列及糧餉部ノ有スル地方車輛ヲ以テ糧秣ノ輸送ヲ實行シ第五師團ハ特ニ工兵大隊及歩兵一大隊ヲシテ車輛若クハ駄馬ノ通過シ得ル如ク三條ノ道路ヲ改修セシメタリ

六月三十日軍司令官ハ第一軍及第十師團前進ノ報ニ接 速ニ蓋平ヲ占領シ友軍ト連絡ヲ確實ナラシムルノ機會愈切迫セシヲ以テ兵站監ヲ軍司令部ニ招致シ之ト擬議シタルノ結果更ニ現地調辨ヲ勵行セシムルト同時ニ貨車手押輸送、鐵道ノ改修等ニ關シ總司令官ニ電請スル所アリタリ

此ノ擬議ヲ追想スレハ感慨多シ(限)

其三 貨車ノ手押輸送

陸路ニ於ケル兵站ノ輸送方ハ既ニ述ヘタル如ク極メテ微弱ニシテ軍ノ北進ヲ望ムコト能ハサルノ狀況ニアリシヲ以テ兵站監ハ補助輸卒隊ヲ以テ敵ノ柳樹屯ニ遺棄セシ貨車ヲ普蘭店ニ搬致シ六月十七日ヨリ土民ヲ備ヒ逐次普蘭店得利寺間

貨車手押輸送ノ好況

貨車手押輸送ノ好況

ニ輸送ヲ開始シ後更ニ大連ニ遺棄セル貨車ヲ第三軍兵站部ヨリ受領シテ普蘭店瓦房店得利寺及北瓦房店間ニ運行スル貨車ヲ増加シ多數ノ兵員ト支那人トヲ以テ輸送ニ從事セシメ二十九日ニ至リ漸次其ノ效果ヲ發揮セシヲ以テ第四師團及軍糧餉部ノ糧秣補給點ヲ北瓦房店兵站倉庫ニ改メ且得利寺、北瓦房店間ノ輸送ヲ軍ノ擔任ニ移シ戰列隊ノ一部(第三、第五師團ヨリ兵卒各六百名)ヲシテ貨車ノ押送ヲ補助セシメタリシ爲メ晴雨ニ拘ラス日々五個師團分ヲ輸送シ得ルニ至レリ然ルニ此ノ輸送ハ七月一日北瓦房店ニ於テ、大衝突ヲ起シ約死者五十名傷者三百名ヲ生シ貨車十數輛ヲ粉碎セシニ因リ一時輸送ヲ中正セシモ貨車輸送ハ當時ニ於ケル軍ノ命脈ナリシヲ以テ危險ヲ顧ミルノ邊ナク再ヒ運行ヲ開始セリ

此傷害後支那人ハ危險ヲ恐レテ徵集ニ應セス之ヲ回復スル爲メ多大ノ苦心ト救恤的處置ヲ執リ數日ヲ費シテ全ク恢復セラレタリ(限)

其四 蓋平ノ占領

七月五日ニ至リ軍ハ若干ノ前進準備糧秣ヲ集積スルヲ得且天候モ亦快晴ニ復シ糧秣補給ノ望ミ確實トナリシヲ以テ軍ハ六日李官村河ノ線ヨリ運動ヲ起シ九日蓋平河左岸ニ達シ攻撃ヲ準備セシモ敵ハ大ナル抵抗ヲ爲スコト無ク大石橋方向

蓋平占領

ニ退却セシニ因リ容易ニ蓋平ヲ占領スルコトヲ得タリ
此ノ行動間ノ給養ニ就テハ追送困難ヲ豫想シテ現地調辨ニ努力セシト天候ノ恢
復トニ因リ糧秣輸送漸次好況ニ赴キシヲ以テ作戰豫想以外ニ進捗セシニ拘ラス
概ネ給養ヲ充タスヲ得タリ但シ第五師團ハ山地ニ行動セシニ因リ七日携帶糧秣
ヲ以テ給養スルノ已ヲ得サルニ至レリ

糧秣輸送ノ狀況以上ノ如ク良好ニ赴キタルノミナラス七月上旬ニ至リ曩ニ企畫
セシ海路輸送ノ冒險モ亦其ノ効ヲ奏スルニ至レリ

其五 海路冒險輸送

是ヨリ先キ兵站經理部ハ朝鮮鎮南浦ヨリ帆船數隻ニ軍經理部ノ購買シタル薪炭
ヲ積載シテ上陸地張家屯ニ來レル皇國商人ヲ利用シ熊岳河口ニ冒險的回漕ヲ試
ミントセシニ彼ハ當時旅順艦隊ノ主力港外ニ出テ、行動シ其ノ水雷艇ハ營口及
熊岳河口附近ヲ徘徊ストノ情報アリシニモ拘ラス若干隻ノ擊沈セラル、コトヲ
覺悟シ此ノ冒險的事業ヲ快諾セシヲ以テ直ニ運送船ヨリ糧秣ヲ轉載シ七月一日
張家屯ヲ出發セシメ同時ニ韓國沿岸ヨリ和船及戎船ヲ徵集シ鹽大澳ヨリ渤海沿
岸ニ水路輸送ヲ繼續セシメタリ

海路冒險輸送

又當時大連灣ノ掃海大ニ進捗シ一、二ノ糧秣船入港スルニ至リシニ因リ第三軍兵
站部ニ交渉シ該糧秣ヲ柳樹屯ヨリ陸路金州ノ西南土城子ニ送り此ノ地ニ熊岳河
口等ニ於テ糧秣揚陸用トシテ徵集セシ戎船ヲ廻漕セシメ五日同地ヨリ水路輸送
ヲ開始セリ然レトモ渤海沿岸水運ノ成果ハ一ニ繋リテ風向ノ順逆ニアルヲ以テ
素ヨリ深ク信賴スルコト能ハサルモノト爲セリ然ルニ七月五日土城子ヲ出帆セ
シ戎船ノ内四隻七日歸州沖ニ又同月一日張家屯出帆ノ和船ノ内一隻ハ九日熊岳
河口ニ到着セシニ依リ號房ニ兵站司令部ヲ開設セリ其ノ他ノ和船及戎船ハ十一
日頃ヨリ北風漸次減退シテ南風ト變更セシヲ以テ陸續到着スルニ至レリ

其六 蓋平ニ於ケル物資調辨及地方車輛使用ノ統一

七月九日軍ノ蓋平ヲ占領スルヤ曩ニ熊岳城ニ於テ各部隊カ各個ニ物資ヲ調辨シ
テ不規律ニ陥リシカ如キ弊害ヲ再現スルコト無カラシムル爲メ各師團等ノ各個
ニ行フ調辨ヲ嚴禁シ軍經理部長ヲ委員長トスル物資徵集委員ヲ設ク該委員ハ左
ノ要旨ノ細則ニ基キ其ノ購買ヲ實行セリ

一、蓋平附近物資徵集ノ爲メ同地附近ヲ四區ニ分チ各一區ヲ以テ一箇師團ニ充

物資調辨ノ統一

徵集委員

ツ

二、委員及助手ノ數左ノ如シ

- イ、軍糧餉部長 同部員 通譯及計手各一
- ロ、師團毎ニ師團經理部長ノ選定セル委員、通譯計手各一
- ハ、軍政委員

三、各師團ノ委員ハ各其ノ徵集區域内ニアル物資ヲ調査シ其ノ狀況ヲ委員軍糧餉部長ニ通報ス

四、委員軍糧餉部長ハ前項ノ通報ヲ審査シ適當ト認メタルモノハ自己ノ調査シタルモノト共ニ委員長ノ認可ヲ受ケ自ラ之ヲ購買シ若クハ各師團ヲシテ之ヲ購買セシム

五、市場ハ委員タル軍政委員主トシテ之カ設備管理ヲ爲シ各部隊ヲシテ隨時其ノ所用品ヲ購買セシム

右ノ如ク各師團ニ調辨地區ヲ配賦セシト雖モ蓋平城内外ノ物資調辨ハ軍糧餉部ニ於テ擔任シ該部ハ知縣ニ命シテ現在ノ物資ヲ他ニ發賣スルヲ禁止セシモ倉庫ニ散積シアル穀類ヲ一時ニ調辨スルコトハ梱包袋ニ不足スルノミナラス之カ調製ノ爲メ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ日々所要量ヲ調辨シテ師團等ニ交付シ分配

蓋平ノ物資
徵集

梱包袋ノ不
足

住民ノ食料
缺乏

終リタル梱包袋ヲ返納セシメテ再用スルノ處置ヲ採レリ

然ルニ七月二十日ニ至リ知縣ヨリ地方人民ノ食糧ニ缺乏スルニ至リタル旨ヲ以テ粟ノ發賣許可ヲ歎願セシニ依リ之ヲ許可セシニ一日間ノ發賣高三百七十石餘ニ昇リ爲ニ第六師團ニ對スル粟ノ要求ヲ充タスコト能ハサルニ至レリ此ノ如クシテ蓋平ノ物資ヲ利用シタル數量ハ左ノ如クナリシトス

- 一、加給品 燒酎五十石餘、葉煙草七千八百斤餘、卷煙草五萬本餘、砂糖一萬一千斤餘

- 二、支那米六十三石、大麥二十石、大豆四百四十六石、小豆三十七石、粟四十五石、高粱三百四十三石及罐詰肉等若干

蓋平ニ於ケル物資調辨ノ統一ニ伴ヒ從來各師團等ニ於テ地方車輛ノ徵集ヲ互ニ競爭セシ結果其ノ賃銀大ニ高價トナリ且各師團一定セサリシヲ以テ之ヲ低減スルノ目的ヲ以テ左ノ處置ヲ採レリ

- 一、地方車輛ハ軍糧餉部ニ於テ一途ニ調辨シ各師團ノ隨意ニ調辨使用スルコトヲ禁ス

二、前項ニ基キ各師團ハ現ニ其ノ使用シアル車輛ヲ悉ク解散シ之ヲ散逸セシメ

地方車輛ノ
統一

統一ニ依ル
地方車輛餘
裕

軍ノ目的

サルノ處置ヲ執リテ其ノ員數及將來尙師團ニ於テ使用スルヲ必要トスル員數ヲ軍糧餉部長ニ通報ス
三、軍糧餉部長ハ前項通報ニ基キ更ニ車輛ヲ雇上ケ各師團ニ配賦ス
此ノ如ク殆ント形式上ニ於ケル地方車輛ノ解除ト雇替ヘトニ依リ其ノ賃銀ヲ一定シ且大ニ之ヲ低減スルコトヲ得タリ
以上ノ如キ現地物資ノ利用及地方車輛使用統一ノ結果軍糧餉部ニ於ケル輸送力ニ餘裕ヲ生シタリシヲ以テ地方車輛ノ一部ハ兵站司令部ニ交付シ其ノ他ノ一部ヲ使用シテ軍全部ニ對スル豫備糧秣ヲ蓋平軍野戰倉庫ニ集積シテ軍ノ前進ヲ容易ナラシムルコトヲ圖レリ

第五 海城占領ニ伴フ給養

軍ハ蓋平占領後大石橋附近ニ敵ノ大兵現在スルカ如キ情報ヲ得シヲ以テ全力ヲ舉ケテ大石橋、營口ノ線ヲ占領スル爲メ暫ク蓋平附近ニ停止シテ前進ヲ準備シ一舉海城ニ向ヒ前進セントス然ルニ蓋平附近ノ物質ハ既ニ敵ニ於テ殆ント利用シ盡セシヲ以テ大麥代用品トシテ調辨シ得ヘキ雜穀ハ半定量ヲ以テ算スルモ僅ニ軍ノ九日分ニ過キサカ如シ故ニ全部ヲ徵用スルモ九日後ニハ兵站ニ於テ馬糧

兵站輸送ノ
狀況

大石橋附近
ノ戰鬪

ノ全部ヲ追送スルヲ要スルニ至ルノミナラス各師團ノ野戰倉庫ニ於ケル現在品ハ前進ニ當リ之ヲ各縱列ニ充實スルトキハ若干ノ不足ヲ生スルノ狀況ナリシヲ以テ兵站ヲシテ軍ノ滞在間ヲ利用シテ極力追送ヲ努メ一方ニハ四、五日以後ニ於テハ馬糧ノ全定量ヲ補給シ得ル如ク豫メ準備セシメタリ
兵站ノ糧秣輸送ハ此ノ間良狀況ヲ呈シ嚮キニ水路輸送ニ任セシ和船及戎船ハ概ネ七月十五日迄ニ號房ニ着シ其ノ後續船ハ更ニ西威子ニ航行シ頓ニ其ノ集積量ヲ増加セシヲ以テ十九日以後從來ニ於ケル大麥半定量ヲ増加シテ四升ト爲セリ
七月十八日軍司令官ハ總司令官ヨリ旅順營口間ノ連絡ヲ斷ツ爲メ第二軍ハ速ニ大石橋ノ敵ヲ攻撃スヘキノ命令ヲ受領シ二十二日ヲ以テ運動ヲ開始スルニ決セシモ二十日降雨ノ爲メ道路泥濘トナリ野砲ノ運動不可能トナリシヲ以テ二十三日運動ヲ開始シ下湯地附近ヨリ神樹屯五台山ヲ經テ朱家甸子附近ニ亘ル線ヲ占領シ二十四日大平嶺、青龍山、牛心山ノ敵ヲ攻撃シ戰鬪局ヲ結ハスシテ日没ニ至リ二十五日軍ハ拂曉ヨリ全力ヲ舉ケテ總攻撃ニ移ラントセシモ敵兵退却セシニ依リ直ニ之ヲ追撃シテ平二房、修家溝前後老古林子、李家屯附近ニ停止シ騎兵旅團ハ主力ヲ以テ大平山ヲ一部ヲ以テ營口ヲ占領セリ二十六日軍ハ一時現在ノ位置ニ

給養

糧秣ノ補給

在リテ停止シ一部隊ヲ以テ騎兵ト交代シテ營口ヲ守備セシメタリ
 此ノ前進ニ對スル給養ハ軍及師團ノ野戰倉庫ニ若干ノ糧秣ヲ集積シアリシト兵
 站モ亦熊岳城、號房、及西威子ニ軍ノ數日分ノ糧秣ヲ集積シ七月十九日以降西威子
 及沙崗台ヨリ兵站糧食縱列、地方車輛及貨車ヲ以テ海山寨兵站倉庫ニ、同二十日以
 降前安平及沙崗台ヨリ地方車輛ヲ以テ蓋平兵站倉庫ニ前進準備用糧秣ヲ集積セ
 シヲ以テ從來ノ糧秣補給法ト異ナリ兵站ノ推進ヲ俟タスシテ先ツ師團野戰倉庫
 ノ糧秣ヲ以テ縱列ヲ補充シ後一部ハ軍野戰倉庫、一部ハ兵站倉庫ヨリ補充セリ其
 ノ狀況及師團給養ノ概況ハ左ノ如シ

第五師團 二十三日清河漲溢シ大行李ヲ招致シ得サリシヲ以テ携帶糧秣ヲ用

井二十四日ハ携帶糧秣及携行馬糧、二十五日ハ携行糧秣(一食ハ携帶口糧)二十
 六日モ亦携帶口糧ヲ用ヒ其ノ補充ハ初メ方家屯師團野戰倉庫ニ於テ行ヒシ
 モ後チ蓋平軍野戰倉庫ヨリ受ケタリ

第三師團 二十四日携帶糧秣、二十五日以後携行糧秣ヲ用井其ノ補充ハ二十五
 日迄北門家屯師團野戰倉庫ヨリ行ヒシモ二十六日以後蓋平軍戰倉庫ヨリ受
 ケタリ

海城ニ向フ
前進

給養

營口ノ物資
利用

調辨ノ實行
法

第六師團 二十四携帶糧秣二十三日及二十五日携行糧秣ヲ用井其ノ補充ハ海
 山寨兵 站倉庫ヨリ受ケタリ

第四師團 携行糧秣ヲ用井其ノ補充ハ海山寨兵站倉庫ヨリ補給ヲ受ケタリ

八月一日軍ハ海城占領ノ目的ヲ以テ運動ヲ開始シ三日八里河ノ線ニ達シ一部隊
 ヲシテ海城及牛莊ノ線ヲ占領セシメ翌四日退却ヲ續行スル敵ヲ驅逐シテ西又臺
 堡子、大費屯ノ線ヲ占領シ此ノ地ニ在テ遼陽攻撃ヲ準備ス
 此ノ行進ハ連日晴天ニシテ給養ハ豫定ノ如ク實行スルヲ得タリ
 馬糧代用品雜穀ノ調辨ハ各隊ニ委任シタル師團ヲ多シトス之レ兵站ヨリノ追送
 補給スヘキ日量四升以外ノ不足數量ハ適宜其ノ宿營地區内ニ於テ調辨スルコト
 容易ニシテ且簡便ナルヲ認メタルニ依レリ

第六 營口ノ物資利用

七月二十六日軍ノ營口ヲ占領スルヤ此ノ地ニ於ケル物資利用ノ爲メ直ニ軍糧餉
 部長ヲ派遣シ各師團ヨリハ各二名ヲ限リ購買委員トシテ派遣スルヲ許可セリ
 軍糧餉部長ハ調辨實行ニ關シテハ左ノ處置ヲ爲セリ

一、此ノ地ノ物資ハ集散劇シク其ノ價格日々洋銀相場ノ昇降ニ從ヒ變動スルヲ

市場ノ開設

以テ大體ニ於ケル標準相場ヲ營口公議會ニ於テ調製セシム

二、雜穀等特ニ指定スルモノ、賣買ハ軍糧餉部ノ許可ヲ得テ實行セシム

三、各師團所要ノ酒保品及雜穀等ハ物資豐富ナリシヲ以テ標準價格及供給人ヲ指示シ之ニ就キ各購買委員ヲシテ調辨セシム

四、各部隊ヲシテ日用品ヲ隨意ニ購買セシムル爲メ市場ヲ西七里溝ニ開設シ營口ノ商人ヲ此地ニ出張セシメテ販賣ス其ノ價格ハ標準價格ヲ品目毎ニ決定シ之ヲ揭示シテ確實ニ履行セシム(此ノ市場ハ後ニ至リ需要者ノ來集多キ爲メ稍亂雜ヲ來シ收支計算ノ結果ハ常ニ賣却品ニ對スル現金不足ヲ生スルニ至リシヲ以テ漸次衰微セリ)

五、騎兵旅團給養ノ爲メ支那米、大麥、鹽魚、醬油等ヲ軍給養ノ爲ニハ大麥ヲ購買シ初メハ之ヲ大石橋ニ、軍海城占領後ハ之ヲ海城ニ納付セシムル如ク契約ス

當時營口ニ於ケル物價ハ公議會ニ於テ標準ヲ定メ日々變動甚シカリシモ大麥ノ價格ハ品質ニ依リ一石八圓乃至九圓ニシテ之ニ大石橋ニ納付セシムルノ運賃ヲ加ヘ十一圓三十五錢乃至十二圓二十錢、海城納付ハ十三圓五十五錢(八月十三日ニ至リ千五百石ハ十一圓六十七錢ニテ契約セリ)トス故ニ此ノ價格ヲ集中地廣島ニ

購買ノ狀況

軍票ノ不足

於ケル三月中旬ノ價格十一圓十錢若クハ四月下旬ノ廉價七圓七十錢ニ比スルモ幾多ノ困難ナル輸送ト費用トヲ費シテ追送スルニ比スレハ軍事上經濟上共ニ有利ナルコト勿論ナリトス故ニ營口ニ現在スル約二十三萬圓餘ニ相當スル大麥全部ヲ購買セントシ其ノ指示ヲ仰キタルニ悉皆購買契約ヲ爲スヘキコトヲ命セラレシモ當時軍票ノ製造意ノ如クナラスシテ軍金櫃部ノ現在高三萬圓ニ過キサリシヲ以テ此ノ金額ヲ手附トシテ交付シ全部ノ仕拂ハ約二週間後ニ於テ爲ス如ク契約スヘキノ指示ヲ受ケタリ然ルニ占領當時ニ於ケル此ノ如キコトハ將來ノ威信ニ關スルコト大ナルノミナラス此期間内ニ於ケル軍票ノ到着モ不確實ナリシヲ以テ逐次少量宛ヲ納付セシメテ仕拂ヲ完了シ一方ニハ當時營口ニ現在セシ正金銀行員ト協議シ天津ノ本店ヨリ繰替仕拂方ヲ決定シ之カ許可ヲ得タリシモ其ノ送金時機ヲ失セシニ依リ漸次契約解除ノ手段ヲ探ルノ已ヲ得サルニ至レリ故ニ當時一攫千金ヲ圖ルノ目的ヲ此ノ地ニ蟻集シ或ハ軍糧餉部ニ於ケル一途調辨ノ停止ヲ歎願シ或ハ高級司令部ニ誣告シテ軍糧餉部ノ一途調辨ヲ妨害シ以テ暴利ヲ貪ラントスル奸商ヲシテ其ノ目的ヲ達セシムルニ至レリ

有利ナル購買ノ解除

第七 騎兵旅團ノ給養

騎兵旅團ノ
前進

騎兵旅團ノ
給養

給養裝備

糧秣ノ補充
法

五月二十八日第二軍主力カ南山ノ敵ヲ攻撃スルニ際シ普蘭店、大沙河ノ線ヲ守備スルニ任セシ第五師團長ハ軍ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルト一ニハ軍將來ノ北進ニ資スル目的ヲ以テ前、後石拉子屯附近ニ在ル騎兵第一旅團ノ主力ヲ曲家店ノ要地ニ、其ノ一部ヲ復州ニ進メ北方ノ情況ヲ搜索セシメントス

二十九日騎兵旅團ハ前石拉子屯普蘭店南方約三里ヲ發シ步兵二中隊ノ支援ヲ受ケ主力ハ拉子山附近ニ一部ハ李家屯ニ宿營シテ大行李ノ糧秣ニ依リ給養シ主力ノ行李ハ分配後拉子山ニ集合宿營シ其ノ補充ハ三十日拉子山ニ於テ地方車輛ノ輸送品(旅團ノ約二日分)ヲ受領セリ

當時旅團ノ給養裝備ハ規定ノ携帶糧秣及大行李ノ外各自一日分ヲ携帶シ之カ給養ノ處置ニ任セシムル爲メ軍糧餉部員一名ヲ附屬セリ

三十日旅團ハ曲家店ニ向テ前進シ其ノ大行李ハ糧秣ノ掩護及連絡支隊タル步兵中隊(一小隊)及騎兵一小隊ト共ニ拉子山ニ停止ス午後一時四十分頃旅團ノ主力ハ龍王廟附近ニ於テ稍々有力ナル敵騎ト衝突シ拉子山ニ停止セシメタル步兵一小隊ニ急進ヲ命スルノ已ムヲ得サルカ如キ苦戰ニ陥リシモ漸ク敵ヲ擊退シテ宿營シ大行李ノ糧秣ヲ用ヒテ給養シ其ノ補充ハ拉子山ニ至リテ受領ス又旅團ノ一

地方車輛ノ
追送

臨時縱列ノ
携行

部ハ李家店ヲ發シ敵ニ遭遇スルコトナク復州ニ至リテ宿營シ給養ハ大行李ノ糧秣ニ依リ其ノ大行李ハ李家店ニ宿營シ更ニ三十一日拉子山ニ到リ補充ヲ受ケテ歸還セリ

此ノ日ヨリ六月三日ニ至ル間旅團ノ主力ハ曲家店附近ニ在リテ前面ノ敵ト相對峙シアリ糧秣ハ普蘭店倉庫ヨリ支那車輛ヲ以テ拉子山ニ追送セリ

六月四日有力ナル敵兵逐次騎兵旅團ノ前面ニ到達セシヲ以テ敵ト觸接ヲ保テツツ主力ハ拉子山ニ復州方面ノ一部ハ李家店附近ニ退却宿營シ大行李ノ糧秣ヲ使用セリ爾後軍ノ右翼ニ在テ行動スル期間ハ第三師團若クハ軍糧餉部ヨリノ輸送品等ニ依リ給養セシモ得利寺戰鬪後漸次糧秣追送ノ困難ヲ生スルニ至リ各隊各個ニ地方物資ヲ徵集シテ其ノ缺乏ヲ補フニ至レリ

六月十八日旅團ハ騎兵第四、第五、第六聯隊(各一中隊)缺ヲ合セ遠ク熊岳城方面ヲ搜索スル爲メ馬連屯附近ノ宿營地ヲ出發スルニ際シ從來ノ如ク附近ノ倉庫ヨリ給養ヲ受クルノ不便ヲ感シ規定ノ携帶糧秣及大行李ノ外地方車輛ヲ以テ臨時縱列ヲ編成シ四日分ノ糧秣ヲ携行セリ

此ノ日及十九日旅團ハ燕家屯附近ニ宿營シ臨時縱列等ヨリ補充ヲ受ケタリ

前進間ノ糧秣補充

二十日旅團ハ三縱隊トナリ大石棚、槐樹房、歸州ノ線ニ向ヒ前進シ大行李ハ三台子、李官村間ニ縱列ハ大土城子ニ宿營シ午後五時大行李ノ糧秣駄馬ヲシテ爲シ得ハ宿營地ニ至ラシメントセシモ距離ノ關係上主力ハ攜帶糧秣ヲ使用シ第五(大石棚)第六聯隊歸州ハ全部大行李ヲ使用シ二十二日臨時縱列ノ一分隊(旅團ノ一日分)ヲ進メテ之ヲ補充シ此分隊ハ二十二日復州ニ至リテ補充ヲ受ケタリ

二十一日旅團ハ前進ヲ續行シテ熊岳城ヲ占領シ主力ハ頭臺子、正黃旗及九龍地附近ニ、大行李ハ槐樹房ニ、臨時縱列(二日分)ヲ有スハ李官村ニ宿營シ給養ハ大行李到着セサルニ依リ攜帶糧秣ヲ使用セリ

二十二日旅團ハ同所附近ニ、大行李ハ九龍地ニ、臨時縱列ハ槐樹房ニ宿營シ大行李ハ夜半漸クニシテ復州ヨリ糧秣ヲ受領シテ歸來セシ臨時縱列ヲ以テ之ヲ補充セシモ當時ノ狀況ハ左ノ如シ

補充ノ困難

- 一、糧秣分配所タル李官村ニハ僅ニ精米一日分弱ヲ有シ二十三日中ニハ更ニ一日分ノ糧秣復州ヨリ到着スル豫定ナルモ遲著ヲ免カレサルヘシ蕉家屯兵站倉庫ヨリハ二十四日以後ニアラサレハ補充ヲ受クルコトヲ得ス
- 二、李官村附近ハ道路僅ニ一條ニシテ而モ軍ノ諸部隊ニ依リテ填塞セラレ地方

騎兵旅團ノ新任務

架橋縱列、代用

車輛ノ通過甚タ困難ナリシニ依リ臨時縱列ハ李官村ノ北方ヨリ河ニ沿ヒ歸州ニ行進セシモ道路不良ノ爲メ行進頗ル遲延シ此ノ日槐樹房ニ歸來セス

三、糧秣輸送ノ狀況前各項ノ如クニシテ二十日及二十一日ニ於テ費消セシ攜帶口糧ヲ補充スルトキハ臨時縱列ハ全ク空虛トナルノミナラス二十三日到着スヘキ糧秣ニシテ到着セサルトキハ旅團ハ二十三日以後大行李ノ糧秣ヲ補充スルコトヲ得スシテ攜帶口糧及代用馬糧ニ依リテ給養セサルヲ得ス

給養上ノ狀況以上ノ如クナリシト軍ノ前進中止トニ伴ヒ旅團ハ二十三日以後七月五日マテ前日ノ位置ニ停止セリ

七月六日旅團ハ軍ノ正面ニ在リテ其ノ運動ヲ掩護シ、後軍ノ左翼ニ移リ敵狀ヲ搜索スヘキノ任務ヲ受ケ軍ノ前進ニ伴ヒ熊岳城蓋平街道及海岸道ヲ前進セリ此ノ行進ニ於テハ各師團ヨリ臨時配屬セラレシ騎兵聯隊ハ各其ノ師團ニ復歸セシヲ以テ大ニ給養業務ヲ輕減セシト雖モ規律及操縱等ニ關シ單ニ臨時縱列ノミニ依賴スルコト困難ナリシニ依リ糧秣輸送ノ爲メ第三、第六師團架橋縱列ノ配屬ヲ受ケ(各縱列ハ固有騎兵旅團及附屬部隊ノ各一日分ヲ積載ス)之ト臨時縱列旅團ノ三日分ヲ積載ス)ヲ携行シ主トシテ携行糧秣ヲ以テ給養ヲ實行セリ

此ノ前進間騎兵旅團ノ輜重ハ熊岳城、蓋平街道ヲ行進セシ第四師團輜重第一梯隊ニ合シ該師團長ノ區處ヲ受クルコト、ナリシモ宿營ニ際シテハ多クハ此ノ梯隊ヲ脱シ本隊宿營地ヘノ分進及補充ヲ容易ナラシムル爲メ單獨ノ行動ヲ採リテ宿營セリ例セハ七月六日及七日第四師團輜重第一梯隊ハ密上屯、扁坡子間ニ宿營セシニ騎兵旅團ノ輜重ハ六日大鐵、大房身、熊岳城ノ西南約一里間ニ、七日薰家屯、白旗間ニ宿營シタルカ如シ

第六節 遼陽會戰ニ於ケル給養

第一 一般ノ狀況

軍ノ狀況
軍海城占領後敵ハ兵力ヲ遼陽ニ集結セントスルノ疑アリシカ其ノ後遼陽附近ノ兵力約七箇師團ヲ舉テ鞍山店附近ニ南下シタルモノ、如シトノ情報ニ接シ軍ハ八月十八日海城ヲ發シ第四軍ト協力シテ鞍山店附近ノ敵ヲ攻撃セントセシモ十三日以來連日降雨アリ河水漲溢シ陸上ノ輸送困難ヲ極メ貨車輸送スラ線路ノ破損又ハ備役セル土民ノ逃走ニ因リ中止セサルヲ得ス其ノ他橋梁ノ流失、道路ノ泥濘等甚タシキヲ以テ軍ノ前進ヲ延期スルノ已ヲ得サルニ至レリ

當時兵站ハ軍ノ後方連絡ヲ確實ナラシムル爲メ敵ノ東清鐵道ヲ改修シ根據地ヲ柳樹屯ニ移シ此ノ地ヨリ鐵道線路ニ沿ヒ一條ノ兵站主線ヲ設ケ各地ノ守備隊長ヲシテ兵站支部長ヲ兼ネシメ以テ多數ノ兵站司令部ヲ北方ニ招致シ又西威子ノ揚陸ヲ七月盡日限り停止シ其ノ帆船六隻ヲ營口ニ回航セシメ八月二日午後ヨリ揚陸ヲ初メ四日ニ至リ貨車輸送ヲ營口、大石橋間ニ、尋テ大石橋ヨリ他山鋪迄延長シ又普蘭店、蓋平間ハ貨車輸送ヲ、蓋平、大石橋間ハ貨車輸送ト地方車輛ヲ併用シテ糧秣ノ前送ニ努力セリ

八月九日營口ニ碇泊場司令部ヲ設置セリ當時内地ヨリ營口ニ來航スヘキ運送船ハ敵艦ノ顧慮ヨリ先ツ海軍根據地ニ到リ情況ヲ審ニシタル後回航セシメアリシモ八月十日ノ海戰ニ因リ同月下旬ヨリ内地營口間ヲ直航シ續々同地ニ糧秣ヲ揚陸スルニ至レリ

遼河ノ水運ハ曩ニ金州灣ヨリ營口ニ入港セシ戎船ヲ利用シテ八月八日ヨリ輸送ヲ開始シ其ノ後逐次ニ集收セル河船ヲ利用シ二十三日牛莊城及小姐廟ニ多數ノ糧秣ヲ集積セリ
以上ニ於ケル諸施設ノ外海城ニ於テモ亦多數ノ糧秣ヲ集積シ兩者相俟ツテ軍ノ

前進用糧秣全ク整ヘリ

軍ハ八月二十六日曇又ハ小雨ニ至リ運動ヲ起シ二十七日(雨後晴)拂曉湯岡子、蘇馬台ノ線ニ在ル敵ノ前進陣地ヲ攻撃シ些少ノ抵抗ヲ受ケタル後之ヲ占領セリ正午頃ヨリ鞍山店ノ敵モ亦漸次退却ノ狀況ヲ呈セシヲ以テ全力ヲ舉ケテ鞍山店、騰鰲堡ノ線ニ進出シ二十八日(晴)更ニ敵ヲ追撃シテ沙河ノ線ニ達セリ二十九日(晴)後驟雨爾後ノ前進計畫ヲ定ムル爲メ現在ノ地ニ停止シ三十日(晴)後雨第三、第六、第四師團ヲ併立シテ首山堡ノ敵ヲ攻撃シ奮闘夜ニ至ルモ効果ヲ見ル能ハス且午後ヨリ大雨時々襲來シ運動ヲ困難ナラシメタリ此ノ日後備歩兵第三旅團ノ一部沙河ニ到着シテ軍ノ令下ニ入レリ三十一日(晴)軍ハ攻撃前進ヲ續行シ日没後ノ強襲ヲ以テ九月一日(晴)午前三時首山堡南方高地ノ線ヲ占領シ第四師團及戦利十珊半加農中隊ヲシテ敵ヲ追撃セシム然ルニ敵ハ再ヒ遼陽外圍ノ設堡陣地ヲ據守セシヲ以テ二日(晴)ヨリ三日(晴)ニ亘リ之ヲ攻撃シ四日遂ニ同地ヲ占領シ敵ヲ太子河右岸ニ潰亂セシメテ太子河左岸ノ地區ニ宿營ス

第二 給養ノ狀況

此ノ戦闘ニ關スル給養ハ當時軍及各師團ノ野戰倉庫ニ若干日分ノ糧秣ヲ集積シアリシヲ以テ其ノ補充ハ概ネ第一日ハ師團野戰倉庫第二日ハ軍野戰倉庫第三日ハ兵站倉庫第四日以後ハ情況ニ應シ臨時指示スルコトト爲セリ然ルニ敵豫想ニ反シ鞍山店ノ線ニ於テ抵抗ヲ試ムルコトナク直ニ首山堡ノ線ニ退却シタルニ由リ軍ノ前進意外ニ迅速トナリシト降雨ノ爲メ糧秣輸送ヲ滯滞セシメシトニ依リ給養ニ困難セシコト少カラス今一、二ノ師團ニ就キ狀況ヲ例示セハ左ノ如シ

第三師團ノ給養

第三師團 會戰開始セラレ、ヤ携帶糧秣ヲ缺乏セシメサル爲メ戰況ノ如何ニ

拘ラス爲シ得ル限り大行李ヲ招致シテ給養スルノ方針ヲ採リシモ二十七日鞍山店ヲ占領シタルトキ大行李ヲ招致スル能ハスシテ規定外ノ携帶糧秣ヲ使用セシメ糧食ハ之ヲ補充セス唯馬糧ノミ大行李ノ積載品ヲ以テ各馬ニ三升ヲ補充シ大行李ノ補充ハ主トシテ糧餉部ニ於テ調辨シタル雜穀ニ依レリ二十八、二十九日ハ大行李ノ糧秣ニ依リシモ三十日ハ敵ト觸接シ炊爨シ得サリシヲ以テ携帶糧秣ヲ使用セリ

三十一日師團ハ終日敵ト激烈ナル戦闘ヲ交ヘ僅ニ敵陣地ノ一部ヲ略取セシノミニシテ日没ニ至リ諸隊ハ戰場ニ於テ夜ヲ徹スルノ狀況ナリシモ携帶口

携帶糧秣ノ
悉無

糧ハ僅ニ一日分ヲ餘シ而モ戰況ハ困難ニシテ決勝ノ期測リ難キヲ以テ危險ヲ冒シテ大行李ノ糧秣馱馬ヲ露營地ニ招致シ糧秣ヲ交付シタル後退却セシムルコトヲ努メタリシモ最前線ノ歩兵部隊ハ携帶口糧ヲ使用スルノ已ムヲ得サルニ至リシヲ以テ此ノ日ニ於テ既ニ携帶糧秣ヲ費消シ盡シタル部隊少ナカラサリシ

一日午前二時強襲ニ依リ遂ニ敵ノ陣地ヲ奪取シ師團ハ留リテ戰場ノ整理ニ任シタルヲ以テ此ノ日ニ於テハ大行李ノ糧秣ニ依リ給養スルコトヲ得タリシモ二日遼陽西南堡壘線ヲ據守セル敵ト相對峙シテ日没ニ至リ夜ヲ徹スルニ至リタル場合ニハ最前線ニ在ル部隊ノ爲メ後方部隊ニ於テ炊爨シテ送付セシムルノ方法ヲ探レリ

三日ニ至リ敵ノ抵抗ハ長時日ニ亘ルノ虞レアリテ第一線ニ携帶糧秣ヲ補充スルコトハ益々必要トナリシヲ以テ特ニ乾麵包ヲ積載スル糧食縱列ヲ向陽寺ニ前進セシメ大行李馱馬ヲ以テ之ヲ分配シ殘餘ノ精米ト合シテ各部隊ニ交付シ概ネ二日分ヲ携帶セシムルヲ得タリ

第四師團ノ
給養狀況

第四師團 道路泥濘ノ爲メ大行李ノ到著遲滯シ連日携帶糧秣ヲ使用スルノ已

携帶糧秣ノ
皆無

ムヲ得サルニ至リシヲ以テ三十日ハ激戰夜ニ至リ戰場ニ於テ夜ヲ徹スルノ狀況ナリシニ拘ラス大行李ヲ招致シ夕一食分ノ糲ヲ使用セシメ精米 合ヲ以テ補填スル如ク計畫セリ然ルニ道路泥濘ノ爲メ大行李ハ夜半ニ至ルモ到著セサリシヲ以テ已ムヲ得ス携帶糧秣ヲ使用セシニ因リ此ノ日ニ於テ全部ノ携帶口糧ヲ全ク費消シ盡シ其ノ補充ヲ容易ニ行フコトヲ得サルノ狀況ニ至レリ

大行李ノ遲
著

糧定外節約
米ノ給養

三十一日未タ敵ヲ擊退スルニ至ラス陣地ニ在ツテ夜ヲ徹セシヲ以テ日没ヲ待チテ大行李ノ糧秣ヲ各部隊ノ所在地ニ分進セシメタリシモ暗黒ト道路泥濘ノ爲メ行進頗ル困難ヲ來シ遲キハ九月一日午前四時過キニ到著シタルノ狀況ニシテ炊爨ノ暇ナク漸ク一食分ヲ炊爨シ他ハ未炊ノ儘携帶セリ然レトモ各兵員ハ豫メ給養ノ困難ヲ顧慮シ會戰前ヨリ日々給與ノ精米ヲ節約シテ約一食分ヲ携帶セシモノ多カリシヲ以テ大行李ノ到著前之ニ依リ辛シテ夕食分ヲ支フルコトヲ得タリ

此ノ如キ狀況ニシテ到底師團ノ給養ヲ完フスルコト能ハサルニ至リシニ由リ戰鬪間白旗堡ニ在リシ豫備被服行李並ニ炊具等ノ馱馬ノ積載品ヲ同地ニ

卸下シ該駄馬ヲシテ糧秣ヲ戰線ニ運搬セシメ一方ニハ附近ノ軍野戰倉庫ヨリ補充ヲ受ケタキコトヲ軍經理部長ニ請求セリ此ノ要求ニ對シ軍經理部長ハ目下各師團共給養ニ困難シアル場合ナルヲ以テ第四師團ヲ軍野戰倉庫ニ於テ補給セハ他ノ師團ヲモ亦補給セサルヘカラス之ニ加フルニ軍野戰倉庫ノ現在高ハ漸ク直屬部隊ノ給養ニ充ツルニ過キササルヲ以テ非常ノ場合ノ外之ニ應スルコト能ハサル旨ヲ以テシ耿庄子兵站倉庫ヨリ補充ヲ受ケシムルコトト爲セリ

九月一日漸ク常食ヲ以テ携帶口糧一日分ヲ補充シテ追擊前進ヲ實行シ此ノ日大行李ノ糧秣ヲ以テ給養シ二日ニハ精米六合、福神漬十匁、醬油「エキス」五匁、馬糧トシテハ大麥四升ノミヲ給シ三日ニハ糧食縱列カ道路泥濘ノ爲メ其ノ積載量ノ約半數ヲ途中ニ卸下シテ急進セシヲ以テ此ノ日給養ノ爲メ大行李ニ補充シタル糧秣ハ約半定量(精米三合四匁、福神漬一匁五分、大麥三升宛ニ過キス尙此ノ内大麥一升ハ携帶馬糧ニ供用セサルヲ得サルノ狀況ニ陥リ遂ニ定量ノ主食給養ヲ缺クニ至レリ
四日ニハ附近ノ物資ヲ要占老瓜窩ニ徵集シ午前九時糧食縱列ヲ招致シ本日

ニ對スル給養ノ爲メ大行李ヲ補充セシモ其ノ定量ハ左ノ如クニシテ猶ホ完全ナラザリシ
糧食 精米五合 牛肉罐詰三十匁 福神漬十匁 醬油「エキス」五匁
此ノ如ク師團ハ補給點ト遠隔シ且道路泥濘ニシテ車行困難ナリシヲ以テ全糧食縱列ハ或ハ駄馬縱列ト爲シ或ハ徵發行進シ不眠不休ニテ輸送ニ從事セシモ尙完全ナル給養ヲ實行シ能ハサルニ至レリ

軍直屬部隊 軍直屬部隊トシテハ當時騎兵旅團ノ外後備旅團二箇、野戰砲兵旅團、徒歩砲兵聯隊、徒歩砲兵獨立大隊、戰利火砲中隊等皆糧食縱列ヲ有セサル部隊多數ニ上リ特ニ後備歩兵第三旅團ハノ如キ強行軍ト道路泥濘トノ爲メ大行李ヲモ携行セスシテ到着スルモノアリ或ハ大行李ヲ携行スル部隊モ其ノ積載量ハ半定量ヲ有スルニ過キサリシモノ多キヲ以テ軍ノ前進ニ伴ヒ第一線ノ後方三里以内ニ倉庫ヲ進ムルノ必要ヲ生シ軍野戰倉庫ヲ二十六日前五道河子ニ、二十七日榮城子ニ、二十八日湯崗子ニ、二十九日四方台ニ設置シ三十日首山堡攻撃ノ際ノ如キハ砲彈落下ノ危險アルニ拘ラス軍司令部大行李ノ停止地點ヲ越ヘテ其ノ前方約一里ニアル沙河ニ野戰倉庫ヲ設ケタルカ如キ

狀況ニシテ之カ糧秣補充ハ當時軍糧餉部ニ配屬セラレタル兵站糧食縱列一
個及地方車輛約四百四十輛ヲ以テ逐次左ノ如ク輸送セリ

二十六日 輸送力ノ全部ヲ以テ海城軍野戰倉庫ヨリ前五道河子ニ輸送シ
直ニ積載品ヲ卸下シテ海城ニ歸還セシム

二十七日 同上 榮城子ニ卸下後一部ハ海城ニ歸還シ一部ハ前五道河子
ニ至リ其ノ地ノ糧秣ヲ前送セシム

逐次此ノ如クシテ前送セシモ連日ノ降雨ニ依リ輸送ヲ困難ナラシメタルヲ
以テ三十日沙河ニ倉庫ヲ設置シタルトキノ如キハ地方車輛ノ到達セシモノ
僅ニ二十輛、三十一日ハ四十輛ニ過キサリシニ依リ二三ノ部隊ヲ除クノ外ハ
糧秣ノ補充ヲ四方台野戰倉庫ヨリ受領セシムルノ已ムヲ得サルニ至リシヲ
以テ此ノ間携帶糧秣ヲ混用セシメ九月三日以後始メテ全部ノ補充ヲ爲スヲ
得ルニ至レリ

騎兵旅團ノ爲ニハ二十六日耿庄子ニ、三十日騰鰲堡ニ、九月二日劉二堡ニ軍野
戰倉庫ヲ設ケテ補充セリ

兵站ハ遼陽ノ會戰ニ伴ヒ牛莊城ヲ起點トシ耿庄子及騰鰲堡兵站司令部ヲ開設シ

小河口ニ騰鰲堡司令部支部ヲ置キ八月三十日ヨリ糧秣ヲ揚陸シ九月四日劉二堡
ニ兵站司令部ヲ設ケ其ノ支部ヲ前凌角泡ニ置キ五日此ノ地ニ水路輸送ヲ開始シ
テ補給ヲ開始セリ

第三 遼陽附近駐留間ノ給養

軍ハ遼陽占領後其ノ主力ヲ遼陽附近ニ駐留セシモ九月十七日太子河右岸ニ移リ
第四軍ニ連繫シテ大扒臺子附近ヨリ朱家庄ヲ經テ善庄子ニ亘ル線ヲ占領シテ人
馬ノ補充及糧秣ノ集積等ニ關スル前進準備ニ努力セリ

遼陽占領當時ハ糧秣輸送ノ狀況良好ナラサリシヲ以テ糧食馬糧共ニ戰利糧秣(約
支那米八百八十石、割麥百六十石、割蕎麥千百石、搗粟百石、麥粉四千七百石、大麥二千
八百石、高粱三千六百石、薪五萬六千貫餘)ヲ利用シ主食ニ支那米又ハ割麥ヲ混用シ
馬糧ニハ高粱等ノ代用品ヲ給セリ

副食物トシテ兵站ヨリ補給スルモノハ九月二十四日迄ハ半定量ニ過キス(二十五
日以後ニ至リ始メテ定量トナレリ)然ルニ現地物質ハ既ニ殆ント露軍ノ利用シ盡
セシ所ナリシヲ以テ唯第三師團カ遼陽ニ於テ僅少ノ生牛ヲ得テ時々分配セシニ
過キス殊ニ燃料ハ駐留ノ初ニ於テハ鹵獲材料ニ依リシモ太子河右岸ニ進出後ハ

糧秣ノ愛惜

缺乏ヲ生シ第三師團ハ九月下旬ヨリ遼陽兵站司令部ヨリ高粱稈ヲ受領シテ僅ニ需要ニ應スルニ至レリ

當時各師團及各兵員カ從來ニ於ケル糧秣輸送ノ困難ヲ實驗シ如何ニ各自給養品ノ貯藏集積ニ努メタルヤハ左ノ例ニ依リテ知ルヘシ

一、戰利糧秣ノ整理及利用ハ各師團ヨリ糧餉部員一計手一ヲ軍糧餉部ニ出シテ之ニ任セシメタリ然ルニ需要急ニシテ之カ整理ヲ俟テ分配スル能ハサルヲ以テ各師團ニ必要ナルモノハ受領證ト引換ヘ輸送スルコトトナシタルニ各師團ハ直ニ大麥及薪ヲ悉ク自己ノ倉庫ニ輸送シテ一物ヲモ止メサルニ至レリ

二、支那米ノ捆包ハ多ク破損シテ内容品ヲ露出セリ其ノ原因ハ附近ヲ往復スル兵卒カ之ヲ收得シテ規定外ノ携帶用ニ充テ將來ノ需要ニ備フルニ在リシ此ノ如クニシテ各師團ハ概ネ給養ヲ良好ニシ再ヒ野戰倉庫ヲ充實スルヲ得タリ

兵站ハ貨車輸送ヲ遼陽迄延長セシト雖モ當時滿州軍全體ノ爲メ速ニ多量ノ糧秣ヲ遼陽附近ニ集積スルノ必要アリシヲ以テ水路ニ由リ黃家嶺子及小北河ニ多量ノ糧秣ヲ集積スル爲メ營口遼陽間ノ船舶ヲ大小ノ二群トシ其輸送ノ分界點ヲ

兵站ノ狀況

小北河ニ置キ九月九日ヨリ小北河及黃家嶺子ノ水運ヲ開始セリ

第七節 沙河會戰ニ係ル給養

軍ノ狀況

十月八日以降敵ハ漸次活氣ヲ呈シ攻勢ニ轉シタルモノノ如キニ因リ軍ハ敵カ兵力ヲ渾河左岸ニ集結セサルニ先テ之ヲ擊破スル目的ヲ以テ運動ヲ起シ十日敵ノ小部隊ヲ擊攘シテ孟胡蘆屯ヨリ二臺子大油虫堡ヲ經テ郝家屯ニ亘ル線ヲ占領シ十一日敵ノ頑強ニ固守セシ板橋堡ヲ奪取スルコト能ハサリシヲ以テ交界勾ヨリ前浪子街ヲ經テ大平庄ニ亘ル線ヲ占領シ、十二日板橋堡ヨリ邱家柳塘溝ヲ經テ李大人屯ニ亘ル線ヲ、十三日長興甸ヨリ沙河停車場ヲ經テ大武鎮營ニ亘ル線ヲ、十四日沙河堡ヨリ林盛堡ヲ經テ萬家園子ニ亘ル線ヲ占領シ十五日以後殆ント現在地ニ在リテ持久ノ姿勢トナレリ

給養ノ狀況

以上ノ戰鬪ハ行動區狹少ナリシノミナラス軍師團ニ於ケル野戰倉庫ニハ若干ノ集積糧秣ヲ有シ黃家嶺子兵站倉庫ノ集積糧秣モ亦多量ナリシヲ以テ咄嗟ノ前進ニ對シ蹉跎ヲ生セサリシモ遭遇戰ノ特質トシテ軍ノ行動一定セサリシニ因リ倉庫ノ移轉屢々行ハレ且現地調辦品ト携帶糧秣トノ不足ヲ感シタルコトハ遼陽會戰ノ場合ト殆ント同一トス其ノ概況ヲ例示セハ左ノ如シ

第三師團 十一日乃至十四日携帶糧秣ヲ使用シ之ヲ補充シ得サリシヲ以テ携帶糧秣全ク盡キ且連日連夜ノ戰鬪ノ爲メ一般ニ炊爨スルコト能ハサリシヲ以テ生米ヲ喫スルノ已ヲ得サルニ至リシト云フ

第六師團 十一日、十三日及十四日ハ概ネ携帶糧秣ヲ使用シ十日、十二日、十五日ハ大行李ノ糧秣駄馬ノミヲ成ルヘク近ク戰線ニ招致シ日没ヲ待チテ急ニ分進セシメタリシト雖モ其ノ到着ハ概ネ夜半ニ至ルヲ常トセシニ因リ各隊ハ先ツ現定外ニ携帶セル精米ヲ以テ夕食分ノミヲ炊爨シ他ノ二食分ハ大行李ノ到着ヲ待チテ炊爨分配セリト云フ

倉庫ノ移轉

軍ノ行進路豫定ニ反シ漸次東北方ニ移動セシヲ以テ倉庫ノ移動ヲ爲セシ概況ハ左ノ如シ

軍野戰倉庫ハ十日康家臺ニ、十二日三家子ニ、十三日五里街ニ設置セリ
兵站ノ補給點ハ十二日康家臺、大黃屯、狼洞溝ニ設置セントセシモ皆不適當トナリシヲ以テ之ヲ廢シ大荒地ニ設置セリ

給養ノ狀況

此ノ期間ニ於ケル給養ハ總テ倉庫給養ニ依リ其ノ補充ハ主トシテ追送糧秣ト現

第八節 沙河駐留間ニ於ケル給養

冬營ノ準備

師團ノ調辨狀況

薪炭ノ分配

地調辨品トヲ混用シ輻重梯隊ハ追送糧秣ヲ最寄兵站倉庫ヨリ分配セリ

給養品ハ各師團共概ネ脚氣病豫防トシテ主食中ニ鹵獲支那米、割麥、小豆等(第六師團ハ粟及蕎麥ヲ使用セリ)ヲ混用シ副食物中生肉、生野菜及酒、煙草、甘味品ハ每週若干宛分配シ馬糧ハ稍減給シ干草ハ現地調辨ノ粟稈、稗稈等ヲ代用シ追送壓搾干草ハ少量ヲ給スルカ又ハ特別ノ豫備トシテ保存セシモノアリ燃料ハ現地調辨ノ薪炭及高粱稈ヲ代用シ一部ハ軍糧餉部及兵站ヨリ交付セシ薪炭ヲ使用セリ

十一月下旬軍ハ現在ノ地ニ於テ冬營セントスル形勢トナルヤ生野菜干草代用品炊爨及採煖用燃料薪炭ハ既ニ八月中旬ヨリ準備計畫スル所アリタリ等冬季間所要ノモノヲ蒐集貯藏スヘキノ計畫ヲ爲シ各師團ハ之ニ基キ調辨ニ著手セシモ其ノ調辨地區ハ戰鬪ノ爲メ荒廢セル狹少ノ地區ニシテ而モ大部隊密集シテ宿營セシ爲メ生野菜ノ如キハ已ニ費消シ盡シテ到底豫定ノ如ク調辨スルコトヲ得ス唯干草代用品(粟稈、稗稈、豆稈等)及高粱稈ハ收穫期ナリシニ由リ多量ニ徵集スルヲ得タリ

薪材ハ宿營地域内ニ在ル立木ヲ悉ク買收スルモ全部ノ需要ヲ充タスニ足ラス木炭ハ殆ント現地調辨ノ見込ナカリシヲ以テ當時採煖用木炭ハ軍糧餉部ノ調辨シ

タルモノト兵站ノ追送トニ依リ一人一日百匁トシ薪材ハ時々某數量ヲ兵站ノ追送ニ依リ分配セリ

各師團ニ於ケル現地調辦ノ狀況前陳ノ如クナリシヲ以テ比較的の地區ノ制限ヲ受ケサル軍糧部ニ於テ師團ノ不足ヲ補フ爲メ廣地域ニ亘リテ調辦ニ着手シ薪材ハ比較的の該業ニ經驗アル人夫七十名ヲ以テ立木ヲ購入シ之カ製材ニ着手セシモ樹木ノ性質伐採ニ困難ナルト寒氣酷烈トノ爲メ一日平均ノ作業力約二千貫即チ一人一日約二十六貫ヲ製造シ得ルニ過キス之ニ加フルニ住民ハ殆ント逃亡シ之カ好意的盡力ヲ望ムヘカラサリシヲ以テ左ノ處置ヲ執レリ

一、住民ニ薪材ヲ製造スルコトヲ獎勵シ之ヲ至當ノ價格ヲ以テ買收ス

二、前項ニ應セサルモノハ兵力ヲ以テ立木ヲ伐採シ其ノ賠償額ハ官ノ指定スル少額ニ依ル旨ヲ示シ人夫ヲ以テ一方ヨリ強制的ニ伐採セシム

此ノ方法ハ住民直接ニ利害關係ヲ受クルコト大ナリシニ依リ住民歸來シ競テ薪材ヲ製造シテ供出スルニ至リシヲ以テ(後需要ニ超過シ調辦ヲ停止スルニ至レリ)十二月二十日ヨリ規定數量ノ分配ヲ開始シ兵站ノ追送ヲ受クルヲ要セサルニ至レリ

生牛、生野菜ハ軍糧部及兵站ニ於テ成ルヘク多數ニ調辦セントセシモ(生野菜ノ不足ヲ補フ爲ニハ軍糧部ニ於テ豆腐ヲ製造シテ各師團等ニ分配セリ)到底若干ノ不足ヲ免カレサリシヲ以テ滿洲軍倉庫ヨリ毎月約生牛肉一萬五千貫及冬營期間内ニ於テ生野菜二十萬貫、干草五十萬貫、木炭百萬貫ノ補給ヲ受クル如ク要求シテ冬營間ノ需要ヲ充タセリ

沙河滯陣間即チ三十七年十月二十一日ヨリ三十八年二月二十日ニ至ル間ニ於ケル現地調辦ノ糧秣ハ多大ナリシト雖モ翌年二月ニ入ルヤ漸次師團等ノ現地調辦品缺乏シ輻重梯隊ニ對スル生物給養ハ兵站倉庫ヨリ分配ヲ受クルニ至レリ増食トシテハ十月下旬以降警戒及防禦工事ニ任スルモノニハ一定ノ金額ヲ定メ各部隊ノ現地調辦ニ依リ小夜食ヲ給ヒシモ物資漸次枯渴セシヲ以テ追送精米ヲ使用セシムルニ至レリ

加給品ハ概ネ毎旬二回各人清酒一合宛及追送品ノ關係ニ依リ煙草二十本若クハ甘味品三十匁宛ヲ給與シ祝祭日ニハ各師團ニ於テ生物等ヲ使用シテ給養ヲ完全ニ實施スル外特別ナル給養品及果物等ヲ加給品トシテ軍糧部ヨリ分配シ給養ノ良好ヲ圖レリ

待機陣地ノ
給養

第九節 黑溝臺附近ノ戰鬪ニ伴フ給養

一一二

軍ノ狀況

軍ハ沙河駐留中十二月二日待機陣地占領計畫ヲ定メ緊要ノ程度ニ應シ據點ニ等
差ヲ設ケ之ニ必要ノ糧秣ヲ集積シ假令包圍ヲ受クルモ給養ニ缺乏ヲ生セシメサ
ルノ準備ヲ爲セリ之ニ加フルニ一月下旬黑溝臺方面ニ於ケル敵ノ頗ル活氣ヲ呈
スルヤ軍ハ兵站ニ命シ狼洞溝兵站倉庫ニ多量ノ糧秣ヲ集積セシメタリ
一月二十五日敵情益々切迫スルヤ總司令官ハ第八師團及後備步兵第八旅團ヲシ
テ直ニ前進シ黑溝臺方面ノ敵ヲ攻撃セシメシモ敵兵頗ル優勞ニシテ攻撃容易ニ
進捗セス二十七日ニハ第五師團二十八日ニハ第三師團ノ主力狼洞溝ニ來援シ二
十九日後備步兵第十旅團モ亦大臺ニ到著シテ第五師團ニ屬シ敵ヲ攻撃シ同日遂
ニ敵ヲ渾河右岸ニ擊退セリ

給養ノ狀況

此ノ間ノ給養ハ第八師團及後備步兵第八旅團ハ一月二十六、二十七、二十八日ノ三
日間(二十六日ハ第一線部隊ノミ)概ネ携帶糧秣ヲ使用シ第五師團ハ二十七日、第二
師團ハ二十八日携帶糧秣ヲ使用セシモ其ノ他ハ概ネ狼洞溝兵站倉庫ヨリ補給シ
採煖用木炭モ亦該倉庫ヨリ分配セリ然レトモ此ノ戰鬪ハ激戰三晝夜ニ亘リ第一
線ハ始終寒威劇烈ナル風雪中ニ曝露セシ爲メ炊飯ハ忽氷結シテ食スルコト能ハ
サリシヲ以テ薄暮ニ於テ乾麵包ヲ前送シ連日之ヲ使用スルノ已ヲ得サルニ至レ
リ

第十節 奉天會戰前後ニ於ケル給養

第一 奉天會戰前ニ於ケル準備

軍ノ狀況
備軍ノ前進

黑溝臺附近ノ戰鬪後第二軍前面ノ敵ハ沙河堡ヨリ達連屯、黑林臺、北臺子ヲ經テ長
灘附近ニ亘ル線ニ於テ日夜工事ヲ繼續ス第二軍ハ之ニ對シ右翼ハ第四軍ニ連繫
シ第六、第四、第三師團ノ順序ヲ以テ後臺西麓ヨリ林盛堡、沈且堡ニ亘ル線ヲ堅固ニ
占領シテ工事ノ増築ニ勉メ成ルヘク多數ノ兵力ヲ後方ニ集結スルヲ圖レリ
二月二十日第二軍司令官ハ奉天攻撃ニ關スル滿洲軍總司令官ノ命令第二軍ハ第
四軍ノ左翼ニ連リ現在ノ陣地ニ在リテ第三軍ニ於ケル繞回運動ノ効果ヲ待テ用
弁得ヘキ最大ノ兵力ヲ以テ沈且堡附近ヨリ來勝堡方面ニ攻撃前進ニ移ル準備ニ
在ル(ヘシ)ト軍隊區分ノ變更トニ基キ先ツ第五、第八師團ヲシテ渾河沿岸ノ敵ヲ攻
撃セシメ其ノ進捗ニ伴ヒ第四師團及富岡支隊(後備步兵第八旅團ノ步兵一箇聯隊
ヲ基幹トス)ヲシテ逐次其ノ活動ヲ開始シ來勝堡、蘇湖堡ノ線ニ向ヒ攻撃スル爲メ

其ノ運動ヲ三期ニ分チテ計畫セリ其ノ第一期ニ於ケル行動野戰倉庫及補給兵站倉庫ノ概要ハ左ノ如シ

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------------------|--------|
| 第五師團 | 沈且堡、鴨子泡間ヲ前進シ李家窩棚ノ敵ヲ攻撃ス | 野戰倉庫ノ設置 | 補給兵站倉庫 |
| 第八師團 | 第五師團ノ左方地區ヲ前進シ長灘附近ノ敵ヲ攻撃ス | 大臺附近(現在孤樹子) 溝及大扒台子 | 小烟臺 |
| 第四師團 | 第五師團ノ右方地區ヲ前進シ北臺子金山屯附近ノ敵ヲ攻撃ス | 大觀音閣附近(現在前浪子街) | 小烟臺 |
| 重砲兵旅團 | 柳條口附近ノ陣地ヲ占領シ攻撃ニ伴ヒ長灘附近ニ砲彈ヲ集中ス | 狼洞溝軍倉庫トシテ置ス | 小烟台 |
| 秋山支隊 | 渾河右岸ノ地區ヲ前進シ三軍トノ連絡及左翼掩護ニ攻撃ノ援助ニ任ス | 前羅家臥子軍倉庫(現在ノ堡) | 亮子口 |

富岡支隊 現陣地ニ在リテ軍ノ攻撃ニ聲援ヲ與フ 五里街軍野戰倉庫 大荒地

軍總豫備隊 大臺、古城子ニ位置ス 所屬師團ノ野戰倉庫

滿洲軍總豫備隊(第三師團及後備步兵三箇旅團)ハ攻撃前進ニ當リ第二軍ノ左翼ニ在リテ運動スル目的ヲ以テ大東山堡及狼洞溝附近ノ地區ニ位置シ其給養ハ第二軍ノ擔任スル所ニシテ第三師團ハ大東山堡ノ師團倉庫ヨリ後備三箇旅團ハ附近ノ軍野戰倉庫ヨリ補給ス

兵站ハ軍前進準備間ヲ利用シテ軍ノ迅速ナル前進運動ニ伴ヒ補給ヲ完全ナラシムル如ク爲シ得ル限り前方ニ兵站倉庫ヲ設置シ且野戰經理部ニ於ケル活動ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ軍師團ノ煩累トナルヘキ野戰倉庫ノ殘置品ヲ速ニ引繼受ヲ爲スニ必要ナル處置ヲ爲セリ

二月二十七日ハ軍ハ會戰ヲ準備スル爲メ早朝ヨリ翌二十八日ニ亘リ緩徐ナル牽制的砲撃ヲ開始シタルノミニシテ概ネ現在ノ位置ニアリ

第二 攻撃前進ニ伴フ糧秣ノ補給

其一 三月一日ヨリ四日ニ至ル狀況

兵站ノ推進準備 二月二十七日ハ軍ノ狀況

軍ノ運動

兵站ノ推進

軍ノ狀況

三月一日軍ハ拂曉ヨリ前面ノ敵ニ對シ眞面目ノ攻撃ヲ開始シタルモ敵ノ抵抗頑強ニシテ未タ其ノ據點ヲ拔クニ至ラス夜ニ入りタルヲ以テ夜襲ニ依リ之ヲ奪取シ二日拂曉ヨリ北方ニ敗走スル敵ノ追撃ニ移リ第四師團ハ富家庄ヨリ二台子ヲ經テ古家子ニ亘ル線ヲ第五師團ハ周官屯第八師團ハ王秀台ヨリ小吼拉堡子ニ亘ル線ヲ占領シ富岡支隊ハ牽制ノ爲メ依然舊陣地ニ在リテ夜ヲ徹セリ

兵站ハ三月二日軍ノ前進ト天候二三日来暖氣トナリ渾河解氷ノ虞アリシトヲ以テ左ノ處置ヲ爲セリ

沈且堡及長灘ニ兵站倉庫ヲ設ケ狼洞溝及修二堡ノ輸送力ヲ以テ糧秣ヲ前送シ速ニ此ノ地ニ多量ノ糧秣ヲ集積セシム

之ニ依テ見レハ沈且堡ハ第四師團、長灘ハ第八師團ノ後方各第一線ヲ距ル約一里ニ過キスシテ如何ニ兵站カ將來ノ前進ヲ顧慮シテ危險ヲ顧ミス糧秣ヲ前方ニ集積スルコトヲ努メタルカヲ知ルヘシ

三日各師團ハ逐次抵抗ヲ試ムル敵ヲ迅速猛烈ニ擊攘シテ東北方ニ壓迫シ富岡支隊ハ萬家園子ニ、第四師團ハ三家子、荒地、第五師團ハ人二堡、張當堡ノ線ヲ、第八師團ハ矮金堡附近ヲ占領シテ邵家林子、來勝堡、北大台、蘇湖堡ノ線ニ在ル敵ト相對峙シ

テ宿營ス

兵站ノ處置

四日軍ハ先ツ達連屯ヨリ蘇湖堡ニ亘ル線ヲ占領シテ其主力ヲ渾河右岸ニ移シ第八師團ハ榆樹屯東北ヨリ吾良堡附近ニ亘ル線ヲ占領シ第五師團ハ第八師團ニ連繫シ舊鐵道橋ニ亘ル線ヲ占領シ第三師團ハ東南道附近ヲ占領セリ

此ノ日兵站ハ糧秣前送ニ關シ左ノ處置ヲ爲セリ

一、李大人屯ニ兵站倉庫ヲ開設シ豫メ黃家嶺子ヨリ小煙台ニ移轉セシ(三月三日) 地方車輛若干ト大東山堡ノ車輛ヲ以テ糧秣ヲ前送セシム

然レトモ此ノ地ハ彼我對陣ノ中間ニ在リテ家屋ハ砲撃ニ依リ破壊セラレ住民隻影ヲ止メス物資及車輛徵集ノ見込皆無ナルヲ以テ此ノ日更ニ左ノ處置ヲ爲セリ

- 1、黃字嶺子ノ地方車輛若干ヲ李大人屯ニ移轉セシム
 - 2、黃家嶺子ニ在ル駱駝縱列ヲ以テ李大人屯へ直輸送ヲ爲サシム
- 二、沈且堡ノ集積糧秣ヲ増加スル爲メ左ノ處置ヲ爲ス
 - 1、浪洞溝ヨリ長灘へ糧秣ヲ前送スルコトヲ停止シ專ラ沈且堡ニ前送セシム
 - 2、黃家嶺子ノ地方車輛若干ヲ沈且堡ニ移轉セシメ、白水寨へ糧秣ヲ前送セシム

軍ノ狀況

三、大荒地ニ在ル地方車輛若干ヲ大東山堡ニ移轉シ明五日ヲ以テ開設スル蘇湖堡ニ糧秣ヲ前送セシム

其二 三月五日ヨリ十日ニ至ル狀況

三月五日第三師團ハ張士屯李官堡ノ線ヲ占領シ第五第八師團ハ概ネ前日ノ線ヲ占領シテ溫盛堡大蘇家堡ノ線ヲ占領スル第四師團ニ連繫シ近ク敵ニ接シテ宿營セリ

此ノ日ヲ以テ各師團野戰倉庫ニ集積シアリシ糧秣ハ概ネ費消シ盡シタルト各師團ノ現在地ノ關係ニ依リ明日以後各師團ノ糧秣補給點ヲ左ノ如ク改正セリ

第三師團 長 灘 第五師團 李大屯

第八師團 沈且堡 軍直屬部隊 李大屯及沈且堡

兵站ハ補給點ノ改正ト軍ノ前進トニ伴ヒ益々前方ニ於ケル準備糧秣ノ増加ヲ圖ル爲メ三月五日左ノ處置ヲ爲セリ

兵站ノ狀況

一、蘇湖堡ニ兵站倉庫ヲ設ケ大東山堡及小煙台ヨリ前送セシム

二、潘建台ニ兵站倉庫ヲ設ケ沈且堡及長灘ヨリ全力ヲ盡シテ輸送セシム

三、李大屯ノ糧秣ヲ増加スル爲ニハ黃家嶺子ヨリ直輸送ヲ開始セシム

三月六日軍ハ依然攻撃ヲ實行セシモ敵ノ抵抗頑強ニシテ攻撃進捗セス七日ニ於ケル戰況モ亦殆ント同一トス八日ニ至リ第一第四軍ノ正面ニ於ケル敵ノ退却ト第三軍ノ繞回運動トニ因リ前面ノ敵動搖シタルヲ以テ直ニ追撃ニ移リシモ其ノ戰況ヲ發展セシムルニ至ラスシテ日没トナリ概ネ前日ノ線ニ停止セリ

三月七日五里街ノ兵站倉庫ヲ沙河ニ前進移轉セシム

攜帶糧秣ノ補充

三月八日兵站ハ殆ント第一線ニ接シタル蘇家屯ニ兵站倉庫ヲ設ケ且各師團ニ於ケル攜帶糧秣補充ノ急需ニ應スル爲メ前送ノ擔任ヲ臨時變更セリ

之ニ依リテ見レハ戰鬪數日ニ亘ルトキハ豫メ攜帶糧秣ヲ前送シテ何時ニテモ補充シ得ル如ク集積シ置クヲ必要トス

軍ノ狀況

三月九日朝來西南ノ暴風砂塵ヲ捲キ四顧暗黒咫尺ヲ辨セス軍隊ノ行動輻重ノ輸送共ニ困難ヲ極ム此ノ日第八師團ハ主力ヲ以テ北方ニ轉進シ紅旗台轉灣橋ノ線ヲ占領シ以テ第三軍ノ運動ニ伴ヒ奉天西北方ノ敵ヲ攻撃シ第四師團ハ渾河右岸ニ移リ大堡ニ向ヒ前進シ富岡支隊ハ蘇家屯舊鐵道橋間ヲ占領シ自餘ノ團隊ハ概ネ前日ノ位置ニ停止セリ故ニ補給點ヲ左ノ如ク改正セリ

第八師團ハ 長灘 第四師團及富岡支隊ハ 大東山堡

十日前面ノ敵ハ退却ヲ初メシニ依リ軍ハ總追撃ニ依リ主力ヲ以テ奉天西北ノ地區ニ達セシモ第三、第四軍ノ中間地區ニ敵ノ存在スルヲ移リ十一日ニ至リ大窪、道義屯ノ線ニ向ヒ敵ヲ追撃セシカ爾後軍ハ奉天南門附近ヨリ新民府街道ニ沿ヒ大石橋ニ亘ル以南ノ地區ニ於テ右ヨリ第四、第五、第三、第八師團ノ順序ヲ以テ縱長ニ配宿シ戦闘力ヲ恢復スルコト、ナリタルヲ以テ其ノ糧秣ノ補給點ヲ左ノ如ク定ム

第四師團及富岡支隊 沙河兵站倉庫

第五師團及軍直屬部隊ノ大部 李大人屯兵站倉庫

第三、第八師團 長灘兵站倉庫

但シ第八師團ハ十日ニ限リ沈且堡トシ軍直屬部隊ノ一部ハ沈且堡トス

第三 給養實施ノ狀況

兵站ニ於ケル糧秣補給ノ狀況前陳ノ如シト雖モ作戰ノ狀況季節ノ關係及現地物資ノ有無等ニ依リ給養ヲ完全ニ實施スルコト能ハサリシ一、二ヲ例セハ左ノ如シ
第四師團 會戰ノ當初ハ挽割麥ヲ混用セシモ六日以來精米ノミトシ副食物ト

給養實施ノ狀況

シテ出發前各部隊ニ生牛ヲ分配シ必要ニ應ジ之ヲ屠殺シテ給與セシメ其ノ他ノ補足品ハ各部隊ヲシテ現地調辨ニ依ラシメシモ殆ント得ル所無ク燃料ハ當初薪炭ヲ併給セシモ五日以後木炭ノミヲ前送シ薪ハ現地調辨ニ依ラシメタリ

第八師團 戦闘間生肉及生野菜ヲ前送シテ給與セシモ調理ニ多大ノ時間ヲ要セシニ因リ後概ネ罐詰肉ヲ使用シ燃料ハ現地調辨困難ナリシヲ以テ木炭ヲ前送シ炊爨及第一線部隊ノ採煖用トシテ給與セリ飲料水ハ井水ヲ得ルコト困難ニシテ屢々結氷ヲ整テ河水ヲ使用セリ

第四 奉天附近駐留間ニ於ケル給養

軍ハ奉天會戰後奉天西方及西南地區ニ駐留シ將來ニ於ケル解氷又ハ降雨等ヨリ生スル輸送ノ困難ヲ顧慮シ各師團等ニ必要ノ糧秣ヲ集積セシメテ前進ヲ準備セリ
奉天占領當初ハ現地物資殆ント皆無ナリシヲ以テ給養ハ主トシテ追送糧秣ニ依レリ其ノ二、三ノ概況ヲ示セハ左ノ如シ
第四師團 生肉生野菜ハ當初主トシテ軍糧餉部及兵站ノ追送品ニ依リシモ其

前進準備

給養ノ狀況

ノ量僅少ナリシヲ以テ各部隊ヲシテ適宜調辨補足セシメ干草ハ當初各部隊ノ調辨ニ委セシモ物資殆ント皆無ナリシニ因リ三月十五日鹵獲粟稈ヲ受領シ其ノ後蘇湖屯兵站倉庫ヨリ補給ヲ受ケタリ

第五師團 副食物ハ主トシテ追送品ヲ使用シ生肉生野菜ヲ給與セシハ稀ナリシモ地方ノ秩序回復スルニ從ヒ生肉ノ調辨及追送品ノ受領容易トナレリ但シ生野菜ハ十分ナラス四月中旬ニ至リ大ニ缺乏ヲ生セリ馬糧ハ大麥ニ鹵獲豆粕及高粱ヲ混用シ干草及薪炭ハ漸次缺乏セシヲ以テ兵站倉庫ヨリ補給ヲ受ケタリ

糧秣補給點

兵站ノ糧秣補給點ハ四月十七日第三師團ノ宿營地域ヲ西方板橋子附近ニ至ル迄擴張セシニ伴ヒ左ノ如ク變更セリ

第三師團 奉天 第五師團及軍直屬部隊 蘇湖堡

第四師團及後備步兵第一旅團 小格鎮堡 後備步兵第八旅團 高明台

第八師團及後備步兵第十四旅團 潘建台 輜重自活用 最寄兵站倉庫

以上ノ改正ニ依レハ糧秣ノ補給點ハ第三師團(張家堡ニ野戰倉庫アリ)ハ宿營地ノ東端ニ在リ第四師團(李官堡ニ野戰倉庫アリ)第五師團(喇嘛庄子及大榆樹堡ニ野戰

補給點ノ接近

倉庫アリ)ハ宿營地ノ最前線トノ距離僅ニ六七里ニ過キス其ノ野戰倉庫トノ距離ハ尙接近シアルニ依リ師團糧食縱列ヲ休養セシムルノ外餘力ヲ薪材干草等ノ運搬ニ使用シ得タルハ勿論トス從テ其ノ使用セシ地方車輛モ亦之ヲ減少スルコトヲ得タリシヲ以テ一部ハ之ヲ解散セシムルニ至レリ

第十一節 開原附近へ開進ニ伴フ給養

軍ノ開進 北進ノ給養

奉天ノ駐留ニ於テ軍ハ概ネ戰鬪力ヲ恢復シタルヲ以テ將來ニ於ケル作戰ヲ顧慮シ四月三十日四家子(開原ノ西北約三里)ヨリ十間房ニ亘ル線以南ノ地區ニ開進シ且前進支隊ヲ以テ昌圖ヲ占領セシムル爲メ其ノ先頭タル第三師團ヲ五月四日ヲ以テ出發セシムルコトト爲セリ

軍ハ前項前進ニ對スル給養ノ爲ニハ各師團等ノ野戰倉庫ニ現在スル糧秣ヲ出發前ニ費消シ盡シ行軍途中ハ三台子安心台高台子老邊及大房身大黑台子新開堡張家庄ニ兵站倉庫ヲ開設シ兵站ニ於テ總テノ給養ニ任セシムルコトト爲セリ當時兵站ニ於ケル前進準備ハ緩慢ナリシノ感アリ鐵道ハ新台子迄通セシモ未タ糧秣ヲ集積セス三台子大房身以北ノ兵站地モ開設シアラサルノ狀況ニアリ然レトモ鐵道ニ沿フテ前進スル軍隊ハ鐵道ヨリ受領スル糧秣ニ依リ其ノ給養ヲ容易

糧秣補給ノ困難

側方輸送ト
水路利用

ニ實行シ得ルト雖モ大房身ヨリ大黒台子ヲ經テ老邊ニ至ル補給線ニ在テハ到底陸路追送ノミヲ以テハ給養スルコト能ハサルヲ以テ一ハ鐵道ニ沿フ線路ヨリ側方ニ輸送シ一ハ第三軍ニテ管掌セシ遼河ノ水運ヲ利用スル爲メ當時馬蜂溝ニ第三軍ノ使用セサル船舶約二百隻一師團ニ對スル糧秣ハ十三乃至十七艘ヲ以テ輸送スルヲ得空シク繫留シアリシヲ以テ之ヲ使用シテ老邊ニ糧秣ヲ輸送セシメ僅ニ北進ニ關スル補給ヲ完フスルヲ得タリ之ニ依リテ見レハ兵站ハ何時タリト雖モ軍ノ前進ニ對スル準備ヲ完成シ置タラ努ムルニ非ラサレハ軍ノ給養ニ大ナル困難ヲ生セシムルコトアルヲ知ルヘシ

第十二節 開原附近ノ駐留及凱旋前ニ於ケ

ル糧秣ノ狀況

開原駐留間ニ於ケル軍ノ糧秣ハ陸路、水路及ヒ鐵道ニ依リテ補給シ其ノ鐵道ハ七月十日開原ニ、八月八日昌圖ニ延伸セシモ陸路輸送ハ七月中旬ニ於ケル雨季ノ際ニハ河川出水ノ爲メ軍橋ヲ流失シ古城子ト其ノ南方桑墩子間ノ如キハ沼澤ニ變シ水深一尺五寸餘トナリ一時車輛輸送ニ代ヘ小舟輸送ヲ爲セシ如キ狀況トナリ

糧秣輸送ノ
狀況
雨季ノ困難

第一線ニ兵
站倉庫ノ設
置

休戰ノ爲メ
蓄積量ノ減
少

平和克復後
糧秣處理

シノミナラス時季收穫ニ際セシヲ以テ輸送ニ一大蹉跌ヲ生シ輻重縦列ヲ駄馬編成ト爲シテ輸送ニ任セシメ或ハ前進準備用蓄積糧秣ヲ補給スル等ノ處置ニ依リ一時ノ急ヲ救ヒシモ八月中旬天候ノ恢復ト農期ノ經過トニ伴ヒ漸次地方車輛増加シ陸路輸送ヲ容易ナラシメタリ軍前進準備用糧秣集積ノ爲ニハ第一線ニ近ク馬仲和、昌圖停車場昌圖、前太平庄ニ兵站倉庫ヲ設ケ八月初旬ニ於ケル集積高ハ約軍ノ二十五日分ヲ算スルニ至レリ然ルニ九月十四日休戰トナリシニ依リ漸次集積高ヲ低減スルノ策ヲ講シ糧秣補給點ヲ前方ニ進メ且師團カ雨季ノ願慮ニ對シ野戰倉庫ニ八日分ヲ蓄積シタリシモノヲ漸次三日分ニ減少セシメ以テ地方車輛ノ常備ヲ全廢シ已ヲ得スシテ之ヲ使用スル場合ニ在リテモ其ノ賃銀ヲ低廉ナラシメタリ十月十六日平和克復ト共ニ全ク糧秣ノ前送ヲ中止シ且野戰倉庫及兵站倉庫ノ糧秣ハ戰鬪序列ノ區分ニ拘泥セス彼此共通利用シテ給養ニ充テ以テ運搬其ノ他ノ冗費ヲ節約セシメ之ヲ使用シ盡サ、ル剩餘品ハ滿洲軍倉庫所在地ハ其ノ全部ヲ同所在地外ハ主要品米、麥、精、罐詰肉等ニ限り滿洲軍倉庫ニ引繼カシメ他ハ師團及兵站ニ於テ適宜ニ處分セシム但シ主要品ト雖モ有利ニ賣却シ得ルカ又ハ其ノ數

量寡少等ノ爲メ運搬等ノ費用ニ比較シ利害得失相償ハサルモノハ適宜賣却ノ處分ヲ爲サシメタリ

第六章 日露戰役ニ於ケル露軍ノ給養(附圖第三參照)

第一節 要旨

露軍給養ノ地位

日露戰役ノ戰場タル滿洲ハ露國黑海ヨリ約一萬七千吉米東海ヨリ二萬四千吉米ノ海路ヲ有シ陸路連絡線ハ莫斯科ヨリ浦鹽斯德ニ至ル八千六百八十二吉米、旅順口ヘハ八千八百七十五吉米、奉天ヘハ八千四百吉米トス之ニ加フルニ露國ハ制海權ヲ獲得スルコト能ハサリシヲ以テ唯一ノ西比利亞單軌鐵道ニ依ラサルヘカラス而モ其ノ輸送力ハ開戰當初ニ在リテハ貝加爾湖中斷線ハ未タ完成セス軌道ノ構築モ政治及商業上ノ關係ヨリ急速ニ實施セシヲ以テ單ニ五十軸ノ列車ヲ使用シ得ルニ過キサリシノミナラス停車場ノ距離大ナルト運轉材料ノ乏シキトノ爲メ其ノ交通力ヲ制限セラレ直通セル輸送力ハ五十軸ノ二列車以上ヲ有セス貝加爾湖約四十五吉米ヲ通過スル爲ニハ二十五貨車分若クハ兵員千五百名ヲ容ルヘキ渡船實際ノ能力ハ貨車二十輛、天候不良ノトキハ唯八輛ニ過キスト云フヲ

貝加爾湖ノ輸送

鐵道輸送力ノ増加

用ヒ薄氷ノ際ハ截氷船ヲ以テ水路ヲ開キシモ戰爭開始ノ際ハ厚氷ナリシヲ以テ橈ヲ用ヒテ氷上ヲ通過シ二月十日ヨリ二十九日ニ至ル間大ナル努力ヲ以テ氷上ニ軌道ヲ敷設シ三月二十八日迄ニ此ノ氷上ヲ經テ機關車百五十輛、車輛二千輛(馬ヲ以テ引曳セシム)ヲ彼岸ニ運搬シ線路ノ中央ニ停車場ヲ設ケ橋及軍隊ヲ休憩セシメタリ
以上ノ如キ狀況ナリシヲ以テ開戰後非常ノ努力ヲ以テ鐵道ヲ改築シ五月初メヨリ日々六列車ヲ、三十八年三月頃ニハ七乃至八列車ヲ、後十六乃至二十列車ヲ運轉スルニ至リシト雖モ此ノ間兵力ヲ輸送セサルヘカラスシテ糧秣ノミニ使用スル能ハス千九百五年一月末日迄ニ輸送セシ兵力ハ約將校二萬、下士卒百二十七萬、馬匹二十三萬、砲千六百門ナリシト云フ鐵道ノ輸送力前陳ノ如クニシテ約二箇年ニ亘ル長期間如何ニシテ其ノ大兵ヲ給養シ戰鬪力ヲ維持セシヤハ緊要ナル研究事項トス

第二節 兵站業務ノ概要

第一 兵站機關

兵站線ハ遠ク歐露ヨリ單線ノ西比利亞鐵道ニ由リシヲ以テ其ノ業務ハ單純ナリシ如キモ戰地ノ四周ヨリ物資ヲ徵集スル爲メ諸種ノ設備ヲ爲シタリシヲ以テ決シテ單純ナルモノニ非サリシト云フ

兵站及交通事務ヲ管掌スル爲ニハ滿洲軍總司令官ノ下ニ交通部ヲ設ケ道路課、兵站課、郵便電信課、運輸課ノ四課ニ分チ西比利亞及極東ニ於ケル軍事鐵道輸送ヲ統轄スル爲ニハ極東鐵道輸送實施委員會(軍交通部、交通省及大藏省ノ代理者ヲ以テ編成ス)アリテ歐露ヨリ哈爾濱ニ至ル迄ノ輸送ヲ管掌セシモ、後作戰ト密接ノ關係ヲ維持セシムル爲メ新ニ交通課ヲ設ケテ左ノ如ク分擔セシメタリ

交通課 後貝加爾、滿洲鐵道、哈爾濱以東、ボグラニチナヤ迄ヲ除ク、シルカ、黑龍江、松花江ノ線

輸送實施委員會 貝加爾、廻湖線及其ノ以西西比利亞線

明治三十八年二月滿洲軍總司令部ノ事務ヲ輕減スル爲メ後貝加爾鐵道ヲ滿洲軍後方司令官ノ管轄ニ移シ(後方司令官ハ三十七年十二月總司令官ノ指揮下ニ移シ後方勤務ヲ統一セリ)交通課ハ唯東清鐵道ノミヲ管掌スルコトトナレリ

兵站課ハ兵站事務ヲ管轄シ其ノ重ナル機關ハ軍野戰兵站監、兵站管區長官及兵站司令官トス

兵站管區長官ハ一定ノ區域内ニ於ケル若干ノ兵站司令官ヲ統督スルモノニシテ各兵站司令部ハ概ネ二十乃至二十五露里(一露里ハ約九町四十間)毎ニ設置シ(陸路ノ延長大ナルトキハ集合兵站司令部ヲ設クルコトアリ)到着セル人員材料等ヲ分類シテ順序ヲ誤ラス之ヲ軍團等ニ配當スルニ任スルモ輸送機關ヲ直接指揮スルコトナク輸送ヲ要スルトキハ軍輸送隊等ニ請求スルモノトス

運輸課ハ運輸部ノ設置及其ノ勤務ニ關シ交通部長ノ命令ヲ實行スル機關ニシテ其ノ業務左ノ如シ
一、必要ニ應シ軍道上ニ輸送隊ヲ配當シ又ハ輸送隊ヲ編成スルコト
二、輸送隊ノ勤務ヲ指導シ其ノ職員ヲ統轄スルコト
三、兵站車輛廠ノ設置及其ノ事務ヲ管理ス
其ノ他日露戰役ニ際シ經理隊(各種ノ技術工、職工、工夫等ヨリ成リ主要ナル兵站地ニ在リテ諸修理及經理業務ニ服ス)及輜重廠(車輛及輜重用具ノ製造修理ニ任ス)等ヲ特設セリ

第二 兵站設置ノ大要

大兵站線ハ西比利亞鐵道ニシテ其ノ本國ト遠隔スルコト甚シキヲ以テ根據地ヲ哈爾濱ニ置キ諸物資ヲ茲ニ集收セリ軍奉天ニ敗レ鐵嶺ヲ撤退スルヤ一時此ノ根據地ヲ後貝加爾州チタニ移サントセシモ我軍ノ遠ク北進スルコトナキヲ見ルヤ遂ニ從來ノ如ク哈爾濱ヲ以テ根據地ト爲シ哈爾濱ヨリ以南モ亦鐵道ヲ以テ主ナル兵站線トシ松花江及陸路ヲ補助ニ使用セリ

鐵道線ヨリ軍隊ニ至ル迄ハ概ネ左ノ如ク設備セリ

- 一、軍隊所在地ヨリ後方約四日行程ノ停車場ヲ以テ兵站主地ト爲ス即チ大石橋及遼陽南方ニ於ケル集中時期ニ在リテハ遼陽ヲ以テ奉天附近駐留時期ニ在リテハ鐵嶺ヲ以テ奉化附近駐留時期ニ在リテハ長春ヲ以テ主地トス
- 二、兵站主地ヨリ軍隊迄ハ爲シ得ル限り鐵道ヲ使用シ尙之ニ平行スル陸路ヲ車輛ノ通スル如ク修理シ且輕便鐵道ヲ敷設シテ輸送ヲ便ニス
- 三、兵站司令部間ノ距離ハ普通二十乃至二十五露里ヲ通則ト爲スモ人員不足ノ爲メ五十乃至六十露里ニ延長シ要スレハ中間兵站司令部ヲ設ク
- 四、軍隊ニ接近シタル鐵道停車場ニ大倉庫ヲ設置シ之ヨリ鐵道又ハ輕便鐵道ト連絡ヲ有スル交通便ナル地點ニ前進倉庫ヲ置キ此ノ倉庫ヨリ輸送スル糧秣

ヲ以テ軍團倉庫ヲ開設ス

- 五、東清鐵道ノ各停車場所在地ニハ概ネ兵站司令部ヲ設ケ給養品ノ積卸及其ノ收藏ニハ國民兵、民兵又ハ支那人夫ヲ使用ス

- 六、各軍ノ兵站地境ヲ定メ徵發及前進、退却ノ際ニ於テ使用スヘキ地帯ヲ豫メ配當ス

人員ノ不足

兵站設備ヲ爲スニ當リ第一ニ業務上ノ障礙ヲ爲シタルハ勤務人員ノ準備ヲ缺キタルニアリテ開戰當初ニ於テハ野戰軍ヨリノ力要員ヲ採用セシモ其ノ兵力ヲ著シク減少セサル爲メ甚タ少數ヲ使用セシノミナラス野戰軍ヨリ得タル部隊ハ頻次交代セラレ常ニ不熟ノ者ヲ兵站勤務ニ任スルノ結果トナリ諸種ノ弊害ヲ生セシト云フ

兵站司令部ノ給養準備

兵站司令部ニ於ケル給養準備ノ概略ハ左ノ如シ

- 一、糧食 麥粉、麵粉、生肉(牛及犢ヲ主トス)高粱麥粥ノ材料トス(其他多量ノ露國產甘藍(シチュウ)汁用)ヲ鹽漬ニシ樽入トシテ貯藏ス
- 二、馬糧 大麥、高粱、豆粕ヲ準備シ干草ハ主トシテ高粱稈等ヲ代用ス
- 三、兵站司令部ヲ通過スル輸送部隊ノ給養ハ輸送指揮官ノ任命セル給養掛將校

ト共ニ各給養班長自ラ兵站司令部ニ就キ豫メ電報ヲ以テ請求セル糧秣ヲ受領シ各給養班ニ分配ス而シテ受領セル糧秣ニ對シテハ之カ現金仕拂ヲ兵站司令官ニ屬スル主計ニ爲スルモノトス

四、各兵站司令部ニ要スル糧秣ハ自ラ購買スルヲ例トシ現地調辨ヲ爲シ難キ糧秣ニ限り本國ヨリ追送スルモノトス

第三節 糧秣ノ補給法

法糧秣ノ補給

糧秣ノ補給ハ軍隊輜重、師團輜重及軍團倉庫並ニ糧食輸送隊ヲ以テ左ノ如ク實行ス(輜重ノ編制ハ戰役後若干ノ改正アリタルモ概ネ現今ノモノニ同シ第四編第三章第三節第一及同第四節第一參照)

- 一、軍隊輜重ノ内第一輜重ハ最前線ニ在リテ戰線ニ在ル軍隊ニ糧食ヲ交付シ其ノ補充ハ第二輜重(聯隊輜重)ニシテ我カ大行李ニ相當スヨリ受領ス
- 第二輜重ハ師團輜重ヨリ糧秣ヲ受領シ之ヲ第一輜重ニ分配ス
- 二、師團輜重ハ軍隊輜重ニ糧秣ヲ交付シ其ノ補充ハ軍團倉庫若クハ軍團糧食輸送隊ヨリ受領ス(西伯利軍團ノ師團輜重ハ從來其ノ編成ヲ缺キシヲ以テ戰役間各步兵聯隊及砲兵旅團ヨリ將校下士卒及二輪車ヲ出サシメ編成シタルモノニシテ六小隊ニ分テ四小隊ハ各步兵聯隊ノ糧秣、一小隊ハ砲兵旅團ノ糧秣)

一小隊ハ師團司令部及師團輜重ノ糧秣ヲ積載ス

糧重不備ノ狀況

- 三、軍團糧食輸送隊ハ軍團倉庫ノ位置遠隔スルトキ師團輜重ト此ノ倉庫トノ輸送ヲ媒介スルモノニシテ通常一日行程ヲ以テ師團輜重ニ到達シ得ヘキ地點ニ位置ス各軍團(二箇師團)ニ對シ五箇輸送隊ヨリ成ル一箇ノ輸送大隊ヲ附ス
 - 四、軍團倉庫ハ一部ハ大倉庫若クハ前進倉庫ヨリ軍輸送隊(此ノ戰役ニ當リ初メテ編成シタルモノニシテ五隊アリ一隊ハ人一萬馬千六百ニ對スル四日分ノ糧秣ヲ輸送ス)ニ依リ補充セラレ一部ハ購買ニ依リ現地物資ヲ以テ補充ス
- 軍團麵包製造所ハ通常軍團經理部ニ屬シ通常軍團倉庫ノ近傍ニ位置ス
- 糧秣補給ノ機關及補給法ノ概略ハ前陳ノ如シト雖モ狙擊兵軍團ハ師團ノ給養輜重及軍團糧食輸送隊ヲ有セス第一、第二、及第三西比利軍團ニハ糧食輸送隊ヲ缺ケ
- リ
- 第一ニ派遣セラレタル歐露第十及第十七軍團ハ規定ノ輜重ヲ以テ到着シタリシモ其ノ四輪車輛ハ重キニ過キ運動困難ナリシニ依リ之ヲ除去シ二輪車ヲ以テ補充シ續テ輸送セラレタル歐露軍團ハ技術的車輛ノ外ハ四輪車ヲ戰場ニ携行セス

編成ノ不充
分

シテ地方車輛ヲ以テ編成セシモ地方車輛ノ需要大ナル場合ニ在リテハ軍團給養
輜重ヲ缺キシコトアリシト云フ
以上ノ外輸送機關ノ大部分ハ地方車輛、駄獸若クハ已ヲ得サルトキハ擔夫ヲ以テ
編成シ唯少數ノ監督者ヲ附セシニ止マリシニ依リ八月以降ニ至リ支那人ノ馭者
逃走離散セシヲ以テ軍隊ノ兵員ヲ馭者ト爲シタル結果輜重ハ漸次軍隊の外觀ヲ
呈セシモ奉天會戰ニ當リ殆ント其ノ全部ヲ破壊セラレタルニ依リ新ニ各車輛六
百輛及駄馬四十頭ヲ有スル輜重兵十箇大隊ヲ設ケ始メテ輜重ノ編成ヲ鞏固ナラ
シメタリト云フ

兵站輜重ノ
狀況

兵站縱列ハ常ニ不良ノ狀態ニアリ軍經理部ハ初メ此ノ輜重ヲ配置スル爲メ支那
商人ニ命シ戰場ノ各地ニ現在セル露軍ニ必要ナル車輛ヲ供給セシムルコトヲ圖
リシト雖モ戰場ハ哈拉賓ヨリ遠ク族順口ニ至ルマテ延長シ其ノ實行困難ナルハ
勿論ナリシヲ以テ三月二十九日滿洲軍總司令官ノ遼陽ニ到著スルヤ必要ナル車
輛ノ購買ヲ命シ輜重ヲ編成シタリシモ軍事的組織ヲ缺キ其ノ行動確實ナラサリ
シト云フ
輜重ノ狀況以上ノ如クナリシコトハ總司令官ヲシテ滿洲軍ハ攻撃力ヲ缺ク旨ヲ

聲言セシムルノ原因ヲ爲セシト云フ

第四節 給養裝備

給養裝備

給養裝備ハ明治三十七年二月ヲ以テ改正シ戰役中新舊規定ヲ併用セリ但シ歐露
ノ軍團ハ概ネ新規定ニ依リ左ノ如ク編成セリ

(戰役後更ニ多少ノ改正ヲ爲セシモ概ネ現今ト同シ第四編第三節第一並ニ同第四
節第一參照)

携行糧食

携行糧食 歩兵、乘車砲兵及工兵ハ各自携帯三日分(乾麵包及鹽、茶、砂糖、三日分ト
外ニ罐詰肉一日分)第二輜重ニ二日分携帯品種ノ外ニ野菜罐詰二日分アリ師
團輜重ニ四日分(同上罐詰肉及野菜各二日分)軍團輜重ニ三日分(同上野菜
罐詰二日分)計十二日分罐詰肉三日分、同野菜六日分ノ糧食ヲ有ス
騎兵及騎砲兵ハ各自携帯三日分(品種歩兵ニ同シ)第二輜重ニ二日分軍團輜重
ニ三日分計八日分ノ糧食(罐詰肉二日分同野菜六日分)ヲ有ス

携帶糧食 三日内ノ内一日分ヲ常用ニ充テ二日分ハ非常用ニ充ツ

携行馬糧 騎兵及砲兵馬ニ在リテハ各馬携帶一日分、軍團輜重ニ三日分計四日
分ヲ有シ輜重馬ニ在テハ第二輜重ニ三日分軍團輜重ニ三日分計六日分ヲ有

ス

携行糧食ノ定量 一人一日量約乾麵包七百二十瓦、麵包粉百瓦、鹽四十六瓦、(内撒布用二十五瓦、煮物用二十一瓦、茶六瓦、四、砂糖十二瓦、八、肉類罐詰(舊規定ニ無シ)三百五瓦、野菜罐詰(舊規定ニ無シ)十六瓦、七、トス但シ肉及野菜ハ携行量少ナキヲ以テ軍隊ニ金錢ヲ給シテ調辨セシム
携行馬糧ノ定量 通常燕麥ニシテ一日一馬通常額約五吉瓦三、減少額(鐵道輸送ニ給ス)約四吉瓦九トス但シ馬糧ノ携行量少ナキヲ以テ軍隊ニ金錢ヲ給シテ調辨セシム干草モ亦同シ

炊器ノ地方ノ器物及飯盒ヲ以テ行フヲ本則トセシモ多クノ軍隊ハ野戰炊器車ヲ携行シ到ル處軍隊ニ跟随シテ温食及汁ヲ給セシム殊ニ奉天ノ戰鬪數日間ハ豫備隊ノ位置ニ於テ煮沸シ之ヲ戰線ニ送付セシヲ以テ敵ニ對峙スヘキ體力ヲ維持スルコトヲ得テ頗ル便益ヲ得タリシト云フ
本戰役ニ於テ使用セシ炊器車ニハ二様ノ制式アリ一ハ二頭曳前車式ニシテ步兵及砲兵中隊ニ各一輛ヲ付ス一ハ一頭曳小車ニシテ騎兵中隊ニ一輛トス然レトモ前者ハ過重ニシテ戰場ノ地形ニ適セサリシヲ以テ步兵聯隊ハ稍々輕易ナル小車

ヲ構造シ交通ノ狀況ニ依リ馬匹一頭又ハ二頭ヲ以テ率曳セリ又高級指揮官用トシテ別ニ車上ニ於テ二、三品ノ食物ヲ調理シ得ル炊器車ヲ用ヒ其ノ他本部用酒保車トシテ茶碗、皿、匙、茶、砂糖等ヲ有シ行軍中ト雖モ湯茶ヲ供給スルコトヲ得ル一頭曳車輛ヲ有セリ
麵包ノ製造ハ軍團經理部ノ移動製麵包所ニ於テ行ヒシモ軍隊一地ニ駐留セシトキハ麵包粉ヲ軍團經理部ヨリ受領シテ軍隊毎ニ製造セシコトアリ又本戰役間各個ニ製造セシムルコトヲ試ミシモ原料及燃料ノ消費大ナリシノミナラス製品モ亦良好ナラサリシヲ以テ小隊毎ニ熟練ノ炊事掛ヲ出シテ製造セシメ便利ヲ得タリ然レトモ行動間又ハ勤務繁劇ノトキハ之ヲ行フコトヲ行サリシト云フ

第五節 經理機關ノ組織

開戰後滿洲軍ノ編成セラレ、ヤ寬城子ノ線ヲ以テ滿洲ヲ南北二地帯ト爲シ南部ヲ滿洲軍野戰經理部、北部ヲ滿洲軍軍管經理部ノ管轄區域ト爲シ又沿海州方面ニ於テハ沿海州防禦軍經理部ト同軍後方經理部トニ區分セリ
戰役當時ニ於ケル野戰經理部ノ職務權限ハ千八百九十年ノ編制令ニ基キシモノニシテ概ネ現今ニ同シク(第三編第五章參照)移動輻重トシテ野戰麵包製造所(二十

二、竈ヨリ成リ各竈ハ一晝夜ニ約一箇師團分ヲ燒製シ獨立ニ區分スルコトヲ得家畜群、磨粉所、干草壓搾所ヲ軍團及兵站經理部ニ配屬シ軍ノ經理部ハ調辨權ヲ掌握シ廣ク諸般ノ情況ニ着眼シ大ニ活動ヲ爲スヲ得タリシモ之ヲ露土戰爭ニ比スレハ(第三編第二章第一節第三參照)只豫備品ノ調辨及管理ノミニ任シ車輛ヲ使用スルノ權ヲ有セサルニ至リシヲ以テ豫備品ノ輸送ニ就テハ經理部ト全然分離セル輸送機關ニ依ラサルヘカラス從テ給養品ヲ敏活ニ追送シ停滯ナカラシムルコトハ經理部ノ活動範圍外ニ屬セリ故ニ給養事務ト輻重事務トノ調和十分ナラスシテ軍ノ運動ヲ妨ケシコトハ軍經理部長カ千九百四年十月沙河ヲ超ヘテ前進スルノ給養計畫ヲ作成スルニ際シ此ノ事ヲ以テ一大障害ト爲ス旨ヲ述ヘタルニ依リテ知ルヘシ

軍管區經理部長ハ軍管區司令官ニ隸シ野戰軍經理部長ノ命ニ依リ豫備品ヲ蒐集準備シ適時ニ之ヲ野戰軍ニ送致スルト其ノ管區内ニ在ル多大ナル守備兵ノ給養ヲ満足セシムルヲ主要ナル任務トス

三十七年ノ末滿洲軍總經理部長ヲ新設セラル、ニ當リ軍管區經理部ノ職務ヲ大ニ擴張セラル、ト同時ニ滿洲軍後方經理部ト改稱セリ當時此ノ經理部ノ規模ハ

宏大ノモノニシテ其ノ編成ハ左ノ如シ

- 一、經理部ハ部長、次長ノ外、委託委員三十名、課長、書記等ノ文武官六十五名、下士卒二百十八名ヨリ成ル
- 二、隸屬機關トシテ九十二個ヨリ成ル兵站乾麵包製造所、百二十二竈ヨリ成ル麵包製造所、軍用製粉所三個、移動干草壓搾所四個、給養倉庫二十三個、其ノ他被服工場等アリテ多數ノ要員ヲ有セリ例令ハ哈爾濱乾麵包製造所ハ三部ニ分レ、四百八十一名ノ下士卒ヨリ成リ同麵包製造所ハ四部、八百四十二名ノ下士卒ヨリ成リシカ如シ
- 三、後方經理部諸機關ノ定員ハ高等文武官二百七十八名、下士卒九千三百十名ノ多キニ達セリ

軍、軍團及師團經理部長ノ職務權限ハ第三編第四章ニ於テ述ヘタルモノト概ネ同シ

軍團經理部々員ハ戰況ニ依リ經理部長ノ命令ヲ受クル能ハサル場合ニ於テハ師團及軍團ノ携行糧秣ノ不足ヲ補充スル等軍隊ノ給養ヲ安全ナラシムル爲メ規定ノ價格ヲ超過シ又ハ獨斷ニテ二萬五千留以内ノ調辨ヲ行フヲ得

滿洲軍總經理部ハ滿洲軍ヲ三軍ニ編成シタル際其ノ經理業務ヲ統轄スルノ必要ヲ認メ新設セラレタルモノニシテ其ノ任務ハ各軍ノ內部經理ニ關係スルモノニアラス唯給養ニ關スル一般ノ指導者トナリ各種ノ給養品ヲ全軍ニ配當シ各軍ト後方トノ連絡ヲ保持シ地方物資ノ徵集ヲ確實ナラシムル爲メ其ノ區域ヲ定メ本國若クハ後方ヨリ追送スル豫備品及後方經理部ノ準備セル一切ノ軍需品ヲ處理スルノ責任ヲ有スルモノニシテ之カ爲ニハ左ノ業務ニ服スルモノトス

一、各軍ノ給養計畫ヲ基礎トシテ一般ノ給養計畫ヲ立案シ後方地帯ニ於ケル本倉庫及貯藏所ニ必要ノ給養品ヲ集積ス

二、各軍經理部長ニ豫備品ヲ送付シ又ハ特別ノ事業ノ爲メ軍用輸送部ヲ使用スルコトニ關シ適時ニ之ヲ軍交通部長ニ傳達スルモノトス

三、全軍諸倉庫ニ於ケル給養品ノ現況及戰地ニ於ケル物資ノ狀況ヲ詳知シ若シ一般徵發ヲ行フノ必要アルトキハ之カ實施ニ必要ナル條件ヲ全軍ニ指示ス以上ノ業務ヲ遂行スル爲メ物品、糧秣、金錢、會計、工業等ニ關スル各專問家ヨリ成ル機關ヲ有ス

物品調達業務ノ統轄ハ總經理部次長之ニ任スルモノトス

滿洲軍總經理部及同後方經理部ヲ編成スルヤ其ノ職員中戰地ニ於テ之ヲ補充シ得ヘキモノハ僅ニ關東州經理部所屬ノ三十二名ノミニシテ其ノ他ノ軍管區ノ如キハ滿洲軍ニ對シ補充シ得ヘキ餘力ヲ有セザリシノミナラス自己經理部職員増加ノ爲ニモ臨機ノ手段ヲ採リテ補充スルノ己ムナキニ至リ職員ノ素質ノ不良ナリシコトハ第三編第一章第二節第二及第三節第二ニ述ヘタルカ如シ

第六節 開戰前ニ於ケル給養準備

第一 中央部計畫ノ不備

露國カ極東ノ戰爭ヲ豫期シ其ノ給養準備ニ著手セシハ明治三十三年北清事變ニ始マレリ然レトモ當時之ニ關スル準備ハ唯動員及集中期間ノ給養計畫ニ止マリ將來極東ニ於テ起ルヘキ豫想戰地ノ特徴ト同地方ニ行動スヘキ軍隊トノ關係並ニ物資ノ狀況等ニ關スル精密ナル觀察ヲ怠レリ

三十六年十月極東特別委員會ノ議決ニ依リ皇國ヲ威嚇スル目的ナリト唱ヘラル、鐵道輸送ノ試験ヲ歐露ヨリ極東ニ向テ行フニ決スルヤ陸軍省經理局ハ初メテ戰時ニ於ケル給養計畫ヲ立案シ陸軍大臣ニ提出セリ然レトモ該提案ニ對シ何等ノ決定的指令ヲ與ヘラレス其ノ後外交關係益々險惡トナリ十二月八日歐露ヨリ

物資調査ノ
不完全

軍隊ヲ増派スルコトニ決スルヤ經理局ハ更ニ給養計畫ヲ立案セリ該計畫ハ大削減ヲ加ヘラレタル上實行スヘキノ承認ヲ得タリシモ直ニ之ヲ實行スルニ躊躇シタリ何トナレハ當時經理局ハ鐵道ニ接近シタル地域及松花江流域沿海州及北韓方面ニ於テハ給養上ノ調査ヲ遂ケタリシモ其ノ他ノ地方ニ於ケル物資ノ狀況ヲ知得セサリシヲ以テナリ故ニ先ツ西比利亞黑龍江省及關東州ノ軍衙ニ向テ物資調査ニ關スル報告ヲ要求シ三十七年一月六日ヲ以テ之ヲ受領セリ然ルニ此等諸報告及平時ニ於ケル調査ハ實際ヨリ其ノ數量甚シク僅少ニ計上セラレアリシト云フ

極東總督ノ
給養計畫

一方ニハ極東總督ハ三十六年八月特別委員會ヲ設ケ所管軍隊ノ給養ヲ計畫セシメタリ該計畫ニ依レハ準備糧秣トシテ裸麥粉、挽割麥、馬糧特ニ蒸麥ヲ野戰軍隊ハ九箇月分、要塞部隊ハ十六箇月分ヲ集積スルコトト爲シ此ノ數量ノ内既ニ準備セシ豫備糧秣及將來現地調辨ヲ以テ集積シ得ヘキ見込糧秣ヲ控除シ其ノ他ヲ歐露ヨリ追送ヲ受ケ軍隊ノ集中ニ先チ哈爾濱ニ集積スルヲ要スト決定セリ然レトモ銳意其ノ實行ヲ期セス中央部ヘノ報告モ亦前記經理局ヨリ物資調査報告ノ要求ニ基キ一月六日ニ至リ初メテ提出シ新ニ麥粉八十五萬布度(一布度ハ約四貫六百

糧秣準備ノ
遅延

六十多精麥十六萬布度、乾野菜六萬五千布度、馬糧百萬布度ノ追送ヲ請求シ野戰軍ニ豫備師團四箇ヲ増加セラレタル場合ニハ更ニ麥粉二十七萬布度、精麥三萬布度、馬糧十八萬布度ノ追送ヲ必要トセリ
經理局ハ自己ノ立案セシ給養計畫ハ其ノ基礎薄弱ナリシヲ以テ幸ニシテ之ト大差ナキ極東總督ノ計畫ニ基キ實施スルコトニ決シタリシモ時機既ニ遅ク實施ニ先チ情況急變シ軍隊輸送ノ急ヲ告クルニ至リシヲ以テ一月八日極東總督ヨリ請求セシ糧秣ノ數量ヲ二分ノ一以下(麥粉四十六萬布度、精麥六萬布度、蒸麥三十九萬布度)ニ削減シテ追送シ其ノ殘額ハ沿黑龍軍管區經理部ニ於テ調達スヘキヲ命シ漸ク準備品ヲ集積セリ
之ニ依テ見レハ戰爭ニ要スル糧秣ノ準備集積ハ中央部並ニ極東總督府ノ不注意ト怠慢トニ因リ軍隊集中前ニ完了スルコト能ハスシテ軍隊輸送ト併セ行フノ不利益ニ至リタルモノノ如シ

第二 倉庫ノ設備

哈爾濱ヲ中心トセル松花江ノ上流平地ヲ給養根據地ト爲シ逐次ニ擴張シテ各地ニ倉庫ヲ設置セリ開戰前即チ三十七年一月ニ於ケル狀況ハ左ノ如シ

開戰前ノ倉
庫

各軍管ノ準備
營口ノ資源
倉庫ノ現在

一等倉庫 一萬「チエツウエルチ」一「チエツウエルチ」ハ一石一斗六升餘ヲ貯藏スルモノニシテ旅順(五箇)、大連(ニコリスク)、二箇)ハパロフスク(二箇)、浦鹽斯德、チタ、哈爾賓、吉林、齊々、哈爾、海拉爾等ノ二十五箇所ニ設ク

二等倉庫 五千「チエツウエルチ」以上ヲ貯藏スルモノニシテ四箇所ニ設ク

三等倉庫 千乃至五千「チエツウエルチ」ヲ貯藏スルモノニシテ三箇所ニ設ク

此等倉庫ニ貯藏スル總計ハ六萬五千人ニ對スル三箇月分トス

其ノ他關東州ハ其ノ現在兵額ノ十二箇月分、西北利亞軍管區ハ八箇月分ノ豫備糧秣ヲ集積シ、哈爾賓ニハ四箇ノ製粉所ヲ設ケ一晝夜ノ製粉額二萬五千布度ニ達セリ又南滿洲ノ富源ヲ利用スル爲ニハ營口ヲ占領セリ此ノ地ハ遼河河孟ノ産額多大ナル高粱、大豆、粟、大麥等ノ物資ヲ集合シ又他ノ地方ヨリ來ル物資ヲ滿洲ニ分配スル所ニシテ實ニ滿洲物資ヲ吐吞スル一大關門トス

二月十三日ニ於ケル遼陽、海城、鳳凰城ノ諸倉庫ニ於ケル現在高及當時ニ於ケル滿洲軍ノ兵額(約將校二千、下士卒三萬五千、馬匹一萬)ニ對スル日々ノ需要高トノ比較ハ左ノ如シ

品 種	集 積 高	日々ノ需要高	日 量
乾 麵	五,五〇〇	一,五三〇	約 四 日 分
粉	一六〇,〇〇〇	一,六五〇	十 日 分
割 麥	八,〇〇〇	二一六	約三十七日分
穀 類	二〇〇,〇〇〇	一,七五〇	約 七 日 分
干 草 及 菜	一,五〇〇	一,二二五	約 一 日 分

給養兵額ノ豫定

然ルニ給養兵額ハ三月十四日ニハ將校二千、下士卒六萬、馬匹一萬五千ニ達セリ之ニ加フルニ當時ノ豫定ニ依レハ戰爭ニ要スル兵額ハ人員三十萬乃至四十萬、馬匹九萬乃至十萬頭ト計算シ百萬以上ノ人員四十萬以上ノ馬匹カ戰場ニ集中スルトハ豫想セサリシモノ、如シ

第七節 滿洲軍ノ給養計畫

開戰當初ニ於ケル軍ノ給養計畫ハ當時ノ軍經理部長ノ自白ニ依レハ何等研究セラレタルコトナク總テ戰鬪行動ノ盛ナルニ至リ初メテ研究ニ着手セシモノナリト云フ經理部長ノ交替後即チ三十七年五月十七日ニ於テ新任軍經理部長ハ初メテ給養計畫ノ裁可ヲ得タリ此ノ計畫ノ主要ナル事項ハ左ノ如シ

一、廣ク地方ノ物資ヲ利用セシム(現地調辦ヲ擴張セシ原因ハ軍集中ヲ完了スル

給養計畫

ニ至ル迄全四箇月間ニ要スル糧秣ハ約四百萬布度ニ達スルコト判明シ之カ
追送ヲ請求セシモ其ノ現品到着迄ニハ多數ノ時日ヲ要スルニ依リシト云フ
二、軍隊ノ自治ヲ容易ナラシムル爲メ金錢給與ノ範圍ヲ擴張シ購買價格ノ標準
ヲ十分ニ昂上セシム

三、野戰經理部ノ編成ヲ擴張シ軍經理部長ノ許ニ補佐官ヲ新設シ此ノ補佐官ノ
許ニ特ニ事務所ヲ置キ豫備糧秣ノ準備ニ任セシム

四、給養根據地ヲ哈爾濱ニ設ケ黑龍江、後貝加爾、西比利亞ノ物資及浦鹽斯德、旅順
口ノ不要ニ屬スル豫備品ヲ集積セシム

中間倉庫ヲ遼陽ニ設ケ哈爾濱ヨリ此ノ地ニ至ル輸送ハ主トシテ西比利亞第
四軍團到着前ニ於ケル軍隊輸送休止間ヲ利用セシム

東部及南部兵團ノ補給ヲ確實ナラシムル爲ニハ鳳凰城、沙河子道路(百七十露
里)及海城、大孤山道路(二百露里)ノ二道路ヲ完全ニ修理セシム

五、準備糧秣ノ集積地及其ノ全軍ニ對スル數量左ノ如シ

哈爾濱	六箇月分	遼陽	二箇月分
奉天	一箇月分	寬城子及鐵嶺	十四日分

六、軍團倉庫 二週間ノ豫備糧秣ヲ準備シ其ノ費消ニ應ジ之ヲ補充セシム

七、軍團經理部長ヲシテ前項ノ外尙約一箇月分ノ糧秣ヲ準備セシム

八、粉類、割麥及燕麥等滿洲ニ産出スル物資ノ追送ヲ停止シ主トシテ此ノ地ニ産
出セサル鹽、砂糖、罐詰類ヲ追送セシム

九、給養品保護ノ爲ニハ倉庫用ノ耐水の亞鉛板類ノ金屬及空囊ヲ最モ緊要ト爲
シ特ニ追送セシム

以上計畫ノ第一、第二、第三項ノ精神ハ戰役終局迄變更セスシテ何等制限ヲ設ケサ
リシヲ以テ現地調辨ハ軍隊ト經理部ト各個ニ獨立シテ競争スルノ狀況ヲ呈スル
ニ至リノミナラス此ノ兩者ノ連繫ヲ缺キ經理部ニ於テ設置シタル倉庫ハ軍隊其
ノ所在ヲ知ラスシテ之ヲ利用セス其ノ倉庫ノ設置モ亦作戰ノ進捗ニ伴ハサリシ
コト多カリシト云フ

第八節 現地調辨ノ狀況

滿洲軍ノ給養ハ前述ノ如ク主トシテ現地物資ニ依ラシムルノ方針ヲ採リ經理部
ト軍隊トノ調辨範圍ヲ概ネ左ノ如ク規定セリ

一、麵包、乾麵包、粉類及割麥ハ軍隊ニ現品ヲ給スルヲ本則トス但シ狀況ニ依リ其

現地調辨ノ
範圍

現地調辨ノ
競争

ノ調達ヲ軍隊ニ委任スルコトヲ得
 二、肉類、野菜、脂肪、食鹽其ノ他調味品及馬糧ハ軍隊ニ於テ調辨スルヲ本則トシ唯
 危急已ヲ得サル場合ニ限り現品ヲ軍隊ニ交付ス
 右ノ如ク規定セシモ其ノ實行ニ關スル方法宜シキヲ得ナリシヲ以テ其ノ弊害簇
 生セリ

第一 軍隊ノ調辨

放任ノ弊害
 軍隊ヲシテ現地調辨ヲ勵行セシムルコトハ戰時給養ノ原則ニ適スト雖モ其ノ放
 任甚シキニ過キシ爲メ左ノ如キ弊害ヲ生セリ
 一、物資購買ノ區域ハ其ノ宿營地ヲ距ルコト遠ク百露里ニ亘リテ擴張セシモノ
 尠ナカラス各隊各個ニ蒙古及黑龍江地方ニ多數ノ購買隊ヲ派遣シ糧秣ノ調
 達ニ從事セシメ且經理部ニ比シ高價ヲ拂フヲ辭セサリシヲ以テ其ノ調辨ノ
 數量ハ常ニ經理部ヲ凌駕シ軍隊ハ宛然一ノ糧食倉庫タルノ觀ヲ呈セリ之ニ
 加フルニ軍隊ハ自ラ給養スルヲ有益ト爲シ苟クモ自己ニ於テ調辨シ得ルモ
 ノハ悉ク之ヲ調辨シ只調辨シ能ハサルモノニ限り經理部ニ要求スルニ過キ
 ナリシヲ以テ軍隊ト經理部トノ關係頗ル圓滿ヲ缺キタルノミナラス之カ爲
 メ著シク軍隊ノ戰鬪力ヲ減殺セリ

軍隊ノ遠隔
 地及高價ノ
 購買

資源ノ亂用
 均物價ノ不平

購買將校ノ
 不經濟
 各個調辨

二、各部隊ハ毫モ他隊若クハ軍全體ノ必要ヲ顧慮スルコトナク資源ヲ亂用セリ
 例セハ三十八年九月乘馬隊ハ隨意ニ渾河ト沙河ノ中間區域ニ在ル農作物ヲ
 馬糧トシテ刈取り粟及豆畑等ヲ蹂躪シテ使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタリシ
 ニ拘ラス他ノ部隊ニ於テハ馬糧ノ缺乏ニ甚シク困難ヲ感セシカ如シ
 三、購買價格ノ制限確實ナラサリシ結果左ノ如キ弊害ヲ生セリ
 1、各部隊不當ナル競争ヲ爲シ物價ヲ暴騰セシメ此ノ間破廉耻者ヲシテ不當
 ノ利得ヲ得セシメタリ例セハ九月粟穀一布度ヲ一方ニハ十乃至十二哥ニ
 テ購買スルモノアリシニモ拘ラス奉天ニ於テハ一留(一留ハ百哥)乃至一留
 半ノ高價ヲ仕拂フモノアリシト云フ
 2、生肉一布度ノ標準價格ハ六留六十哥内外ナル場合ニ於テ代金給與ヲ受ケ
 タル部隊ハ四留二十五哥乃至四留四十哥ヲ仕拂ヒシニ過キス
 四、購買事務ヲ掌ル將校ハ地方語ニ通セサルノミナラス經理上ノ能力乏シク假
 令通譯ヲ介スルモ仲買商人等ノ手數料高價トナリ經濟上頗ル不利ヲ來セリ
 要スルニ軍隊ノ調辨ニ就テハ之カ調辨區域ニ就キ何等ノ指示ヲ與ヘス其ノ標準

價格ノ指示モ亦確實ヲ缺キシノミナラス其ノ給養ヲ全ク一任セシコト少カラヤ
 リシモノ、如シ例セハ左ノ如シ

一、五月初旬賽馬集ニ在リシリウバウ井ン旅團騎兵十二中隊砲兵一中隊ハ輜重
 車輛ヲ有セスシテ唯若干ノ馱馬ヲ有スルノミニシテ後方ヨリノ輸送ハ不可
 能トナリ追送若クハ地方物資ニ依リ統一シテ給養スルノ手段ヲ講セサリシ
 ヲ以テ全滞在ノ期間左ノ如ク下級部隊ノ直接ニ行フ徵發ニ依リ給養セシト
 云フ

1、各騎兵中隊ハ毎月給養ノ爲メ六百留ヲ受領シ此ノ内一部ヲ聯隊ノ協同
 調辨ノ爲メ控除シ其殘餘ハ中隊長ニ於テ自由ニ使用シ自己ノ意見ヲ以
 テ徵發委員ヲ派遣シ徵發地區ト徵發ニ關スル何等ノ規定ヲ設ケサリシ
 ヲ以テ遠ク百露里ニ至ル迄騎行シテ高粱ヲ求メタリト云フ

2、軍隊ハ全ク麵包ノ供給ヲ受クルヲ斷念シ豆油ヲ以テ高粱ヲ調理シテ食
 用ト爲シ馬匹モ亦高粱若クハ高粱稈ノミヲ食用ト爲スニ満足セリ然レ
 トモ高粱日量ノ價格ハ十二分ノ一哥ニ過キサリシヲ以テ現金即買ニ依
 リ之ヲ得ルコト容易ナリシト云フ

給養ノ爲メ
 戰闘員ノ減

二、レンネンカンブ師團ハ六月初旬迄ニ寬甸及鳳凰城等ノ方向ニ數回ノ偵察騎
 行ヲ試ミタル際一定ノ給養裝備ヲ爲サス軍隊各個ニ行進途中ニ於ケル高粱
 及屠獸ヲ發見シテ空腹ヲ凌キシノミナラス現地物資ノ利用ニ關シ其ノ地區
 ヲ指示セサリシヲ以テ第一項1、ト同一ノ弊害ニ陥リシト云フ

以上ノ如ク軍隊ニ過度ニ給養勤務ヲ擔任セシメ軍隊ノ戰闘員ヲ經理勤務ニ轉用
 シタル結果軍隊ノ全定員ニ對スル非戰闘員ノ百分率ハ左ノ如ク過大トナリシト
 云フ

千九百四年七月一日	一二、五%	千九百四年八月一日	一四、〇%
同 九月一日	一二、二	同 十月一日	一三、七
千九百五年一月一日	一三、九	千九百五年二月一日	一四、三
同 六月一日	一五、〇	同 七月一日	一四、九
同 八月一日	一五、二	同 九月一日	一五、一

第二一 軍經理部ノ調辨

軍經理部ハ開戦ノ當初經理部員等ヲ南滿洲ニ派遣シ重要ナル地帯及市場ニ於ケ
 ル物資ノ狀況等ヲ調査セシメ奉天、鐵嶺、營口ノ如キ商業ノ中心點ニハ經理部委員

經理部ノ調
 辨

職員ノ缺乏
及不能

又ハ特設購買委員會ヲ設ケ請負法ニ依ラス直接住民ヨリ給養品ヲ購入シ唯豫備品ノ一部ニ限リ土地ノ事情ニ通曉セル東清鐵道會社ノ商業部ニ委託スルノ方針ヲ執レリ然レトモ委員ニ充當スヘキ職員ノ缺乏セシ爲メ其ノ行動意ノ如クナラス遂ニ全ク請負人ヲ使用スルニ至リシノミナラス經理部職員ノ大部ハ地方物資ノ狀況及其ノ盡スヘキ任務ヲ了解セサルモノ多ク殆ト五里霧中ニ在リテ事ヲ處理セシヲ以テ調辦事務ヲ滯滞セシメ且經費節約ノ主旨ニ反リタルモノ尠ナカラスト云フ例セハ左ノ如シ

三十七年五月營口ニ於テ糧秣ヲ購買シ遼河ニ依リ鐵嶺ニ輸送シタル際ノ如キ鐵嶺ニ於ケル價格ハ營口迄ノ輸送費ヲ加フルモ尙營口ヨリ低廉ナリシ爲メ鐵嶺ノ商人ハ爭フテ給養品ヲ營口ニ下シ同地ニテ露軍ニ賣却シ露軍ハ之ヲ再ヒ鐵嶺ニ逆送スルニ至リシ事實ヲ發見セシヲ以テ鐵嶺及大灣ニ於テ遼河ヲ航下スル支那船ヲ抑留シテ之ヲ購買スル手段ヲ執ルニ至リシト云フ之ニ加フルニ給養事務ハ主トシテ軍隊自ラ當リタルヲ以テ經理部ハ土地ノ市場ニ對スル權力ヲ失ヒ軍隊ノ糧秣調達者ニ於テ市場ノ景況ヲ左右ス從テ軍隊調辦ノ便宜ニ基キ比較的高價ナル標準價格ヲ定ムルニ至レリ

集中時期

遼陽會戰ノ
時期

經理部ノ活
動

大石橋集中時期ヨリ經理部ノ行動ハ漸次活氣ヲ帶ヒ此地ニ於テハ將來使用スヘキ北滿洲ノ物資ヲ保存スルノ主義ヲ採リ主トシテ前方及北清地方ノ物資ヲ徵集スルヲ努メタリ

遼陽會戰前ニ於テハ軍隊ヲシテ調辦セシムルノ不利ヲ覺リタルト糧秣ノ準備モ亦大ニ進捗シタルノミナラス八月ニハ歐露ヨリ二十箇ノ糧秣倉庫設置ニ必要ナル職員到着セシヲ以テ漸次調辦業務ヲ經理部ノ手中ニ回收スルコトヲ圖リ軍隊ト其ノ勞ヲ平均ニ分テ豫備糧秣ノ準備數量ヲ増加スルコトヲ企畫シ購買法ヲ改正シ徵集地區ヲ擴張スル等ノ處分ヲ爲セリ其ノ概要ハ左ノ如シ

一、千九百四年ニ於ケル滿洲ノ收穫高ヲ小麥千二百六十五萬布度、大麥千九百四十五萬布度、其ノ他ノ雜穀ヲ三千二百六十六萬布度ト爲シ其ノ一割ハ十月中ニ、又其ノ二割ハ翌年二月ニ至ル間ニ於テ利用シ得ルモノト假定シ之ヲ徵集スル爲メ左ノ處置ヲ爲セリ

1、糧秣調達委員會ヲ鐵嶺及奉天ノ二箇所ニ設ケ十月中旬ニハ更ニ之ヲ昌圖ニ設置セリ

2、後方地帯ノ地區ヲ呼蘭、松花江、伯都納、吉林、齊々哈爾、哈爾濱等ノ八區ニ分チ

沙河對陣間
ノ調辨
價格ノ

調辨價格ノ
不統一

各區ニ一名ノ主タル請負人ヲ設ケ土民ニ依ル供給ノ媒介ヲ爲サシム

二、獨、佛、露三國ノ商人ヲシテ山海關外ノ各地ニ於テ麥、豆類ヲ購買シ關外鐵道ニ依リ新民屯ヲ經テ鐵嶺及奉天等ニ輸送セシメ又生牛ヲ鄭家屯附近ニ於テ購買シ奉天ニ輸送シタルモノ、ミニテモ月々二千頭ヲ超ヘタリシヲ以テ軍經理部ニ有スル家畜ハ數萬頭ニ達セリ然レトモ軍隊ハ猶自ラ市場ニ就キ之ヲ購買シ得タリシヲ以テ之カ供給ヲ請求シタルモノ無カリシト云フ

遼陽會戰後沙河對陣間ニ於ケル糧秣ノ調辨ハ再ヒ多ク軍隊ノ手ニ歸セリ其ノ原因ハ一ニハ野戰軍ノ兵力増加シタル爲メ經理部ノミニ依リ糧秣ノ集積量ヲ多大ナラシムルコト能ハサリシト一ニハ鐵道ハ軍隊輸送ノ爲メ繁忙ヲ極メ糧秣ヲ追送スルコト能ハサリシニ由ルト云フ

三十八年ノ初メ調辨地區ヲ三軍ニ配當シ奉天ノ糧秣調達委員會ヲ廢セリ然ルニ各軍ハ比較的狹隘ナル地區ニ集中シ糧秣ノ調辨區域頗ル狹少ナリシニ拘ラス各軍各個ニ適宜ニ標準價格ヲ規定シタリシヲ以テ地方ノ物資ハ利ノ多キニ從ヒ甲區域ヨリ乙丙ノ區域ニ轉々移動シテ價格ヲ騰貴セシメ國庫ニ不利ヲ與ヘシコト大ナリシモ總經理部ニ於テ之ヲ統一セサリシ其ノ後四平街ノ陣地ヲ占領スルノ

經理部ノ活
動

外國物品ノ
輸入

時期ニ至リ始メテ三軍ニ共通ナル標準價格ヲ制定シ總經理部ヲ純然タル計畫機關ト爲シ其ノ調達業務ヲ全ク三軍ノ經理部ニ移セリ

軍四平街ノ陣地ニ退却シタル時ニ於テハ尙軍隊ノ自己調辨ヲ繼續セシメタリシト雖モ土地狹少ナル爲メ地方物資忽チ缺乏シ副食物ヲモ經理部ヨリ供給セサルヘカラサルニ至リシヲ以テ給養事務ハ漸次經理部ノ手ニ歸シタリ當時經理部ハ約一箇年間戰爭ニ依リテ修得シタル苦キ實驗ニ基キ其ノ理想トスル所ヲ實施シ軍隊ノ信任ヲ收ムルノ必要ヲ自覺シ現地調辨ヲ努ムルト同時ニ歐露ヨリノ追送ハ非常ニ不規律ニシテ確實ヲ期シ難カリシヲ以テ外國ニ於テ給養品ヲ購買スルノ手段ヲ執リ一方ニハ清國ニ駐在スル武官及領事ニ交渉依頼シ一方ニハ直接有名ナル外國商館ト契約シ其ノ商館ノ提出スル條件ハ非常ニ高價ニシテ且商館ト交渉シツツアルノ際ニ當リ露軍ノ貨物カ皇國軍ニ獲得セラレタルコトアリシヲ以テ其ノ保險料モ亦四分ノ三ヲ増加セシニ拘ラス目下ノ必要上此ノ不利益ヲ顧慮スルノ暇ナシト爲シ繼續之ヲ實行セリ然ルニ品質ニ於テ不合格品多ク或ハ適當ノ時期ニ到達セスシテ戰役終了後ニ於テ利用シ徒ニ國費ヲ膨大セシニ過キサリシト云フ

三十七年ノ秋浦鹽斯德ノ獨國商會ニ委托シ米國ニ於テ購買セシ燕麥及干草約百八十萬布度ハ海上保險ニ就キテ契約ヲ定ムルコトヲ忘レシニ其ノ後保險料ハ貨物ノ價格ノ七七%ニ騰貴シ國費ニ大損失ヲ來スヲ以テ商會ノ代表者ヲ奉天ニ招致シ既ニ準備シタル燕麥干草各二十七萬布度ニ對シテ代價ヲ仕拂ヒ之ヲ中立地タル青島ニ待タシメ自餘ノ注成品ハ價格ノ五%ヲ仕拂ヒテ契約ヲ解除セリト云フ

第三 後方經理部ノ調辨

後方經理部ハ三十七年四月中旬軍經理部ヨリ先ツ大兵站地タル哈爾濱ニ人二十八萬、馬九萬ニ對スル六箇月分ノ糧秣ヲ調達スヘキノ命ヲ受ケ其ノ後兵力ノ増加ニ伴ヒ更ニ其ノ數量ヲ増加スルノ命ヲ受ケタリ

糧秣調辨ニ際シテハ購買價格ヲ成ルヘク變更セサルノ主義ヲ採レリ何トナレハ供給者ハ價格ノ低落ヲ疑惧シ單ニ現在品ノ買上ケノミヲ希望シ市場ニ於ケル物資ヲ増加スルコトヲ努メサリシヲ以テナリ

調達品ノ數量増加及價格暴騰ヲ防止スル爲ニハ左ノ處置ヲ爲セリ

- 一、海龍城及吉林附近ヨリ糧秣ヲ輸出スルヲ禁止シ其ノ主要ナル交通路上ニ衛

後方經理部ノ調辨

購買價格ノ固定

輸出禁止

兵ヲ配置シ三十八年三月迄ニ此ノ任務ノ爲メ步兵一大隊哥薩克兵八中隊ヲ使用シタリト云フ

- 二、三十八年ノ收穫當時人百五萬、馬三十四萬ニ對スル一箇年分ノ糧秣ヲ調達スルニ際シテハ前年ノ經驗ニ基キ左ノ處置ヲ爲セリ
 - 一、全後方地域ヲ若干區ニ分チ其ノ地區ニ於テハ糧秣調達委員及請負人ノ競争ヨリ生スル物資騰貴ヲ防止スル爲メ後方經理部ノ命令書ヲ有スルモノニ限り調辨ヲ許可ス
 - 二、各地區ニ營利的買收者ノ侵入ヲ防止スル爲メ官憲トノ契約ニ依ラサル個人ノ物資購買及其ノ輸出ヲ禁止ス
 - 三、生産者ヨリ直接物資ヲ購買スルコトヲ容易ナラシムル爲ニハ購買地點ヲ成ルヘク多ク設置ス

肉類ノ供給ニ就テハ生獸凍肉(農商省ノ準備進捗シタル後ハ之ヲ中止セリ)鹽魚ヲ準備シ後生獸ニ傳染病發生シ且飼料ニ缺乏ヲ告ケシ際衰弱セル馬、牛、羊ヲ撲殺シ七萬三千布度餘ノ凍肉ヲ製造セリ

以上ノ如キ處置ヲ爲シタル結果後方經理部ニ於ケル現地調辨ノ狀況ハ良好ニシ

テ該部ヨリ各軍ニ供給シタル數量ハ糧食約二千六百萬布度馬糧約千百萬布度ニ達セリ

軍隊ノ調辨

軍隊ニ於ケル現地調辨ノ如何ニ良好ナリシヤハ三十七年五月ニ於ケル西比利亞軍管區司令官ノ報告ニ依リ其ノ真相ヲ知ルヲ得ヘシ即チ

鐵道ニ沿フテ集積シタル糧秣ノ大部分ハ暖氣ニ入りテ食用ニ堪ヘサルニ至ルノ虞レアリシニ依リ迅速ニ使用セサルヘカラス然レトモ糧秣ノ現地調辨容易ナルヲ以テ軍隊ハ倉庫ヨリ之ヲ受領セス現金購買ニ依リ良品ヲ求メント欲ス云々

狀況此ノ如キヲ以テ軍隊ノ自己調辨ヲ一時禁止シ所要ノ糧秣ハ四十八時間前ニ當該給養倉庫ニ請求スルコトニ規定セリ

第四 現地調辨ノ結果

現地調辨ノ結果

現地調辨ノ狀況以上述フル如クニシテ露軍ハ戰役ニ要セシ糧秣ノ約八十五%ヲ戰地ノ物資ニ依リ(滿洲ニ於テハ約二分ノ一ニ相當スル糧秣ヲ調辨セシト云フ)殊ニ馬糧ハ四平街以北遼河迄ノ戰區ニ於テハ約二箇月間奉天、鐵嶺間ニ在テハ既ニ沙河對陣間其ノ物資ヲ調辨シタルニ拘ラス猶四箇月間全ク現地ノ物資ニ依リ給

軍隊ト經理部トノ調辨比例

養セリ更ニ地方物資ノ利用法ヲ整備シタランニハ一層長時日ノ給養ヲ爲シ得タリシコトハ勿論ナリト云フ而シテ此ノ調辨ノ爲メ地域ヲ擴張シ鐵道輸送ノ援助ヲ受ケシモノハ軍隊ノ輸送ニ障礙ヲ與ヘシコト決シテ尠少ナラザリシハ勿論ナリシト雖モ歐露ヨリ追送ヲ仰クニ比スレハ霄壤ノ差アリ例セハ經理部ノ蒙古ニ於テ調辨シタル約半箇年間ニ要スル五萬噸ノ角獸及二十萬布度ノ乾肉並ニ二十萬人分ニ對スル乳酪ハ僅ニ二日間ニ於ケル列車ヲ以テ輸送シタルカ如キ狀況ナリシヲ以テ軍後方ノ輸送力ヲ節約シ作戰ノ妨害ト國費ノ膨大ヲ防クニ利益ヲ與ヘタルコトハ多大ナリシトス

軍隊ヲシテ直接調辨セシメタル結果ハ當局者ノ不注意ヨリ種々ノ弊害ヲ生シタリシモ軍隊調辨高ノ多數ニシラ之カ爲メ如何ニ開戰初期ニ於ケル追送業務ヲ輕減セシカハ左ノ開戰初期ニ於ケル軍隊ト經理部トノ調辨糧秣ノ比較ニ依リテ察知スヘシ

品 種	軍隊ノ調辨高	經理部ノ供給高	軍隊調辨ノ比
大 麥	四六〇、千布度	二七八、千布度	約二倍
挽 割 麥	四三、	一四、	三倍

全戰役間ノ
調辨高

高粱及豆類等	八〇、	一九、	四倍
肉	二一七、	二四、	九倍
乾野菜	七、	二、	四倍
管素麵	二、	〇〇一	二百倍
馬鈴薯	四五、	〇二	二百倍
油又ハ脂肪	一〇、	〇七	十五倍
鹽	一一、	一三、	一倍
干草及藁	九四〇、	三五九、	三倍
油	八一、	四七、	二倍
總計	一、八九六、	九二七、	二倍

即チ軍隊自ラノ調辨セシ糧秣ハ經理部ノ供給セシモノニ比シ約二倍ノ多キニ達セリ
全戰役間ヲ通シテ野戰軍ノ使用セシ糧秣中肉類ノ四七%七、麥粉、穀類、茶、砂糖以外ノ糧食品及馬糧ハ所要總額ノ約三分ノ二ハ軍隊自ラ調辨セシト云フ

第九節 給養品追送ノ狀況

給養品ノ追送

開戰前ニ於ケル給養準備ノ狀況ハ既ニ第六節ニ於テ述ヘタルカ如シ三十七年ノ始メニ至リ極東特別委員會ハ糧秣ノ不足ヲ補フ爲メ取敢ヘス約二百五十萬布度ヲ請求セリ此ノ請求ニ對シ陸軍省ハ露國內地ヨリノ追送高ヲ百萬布度ト定メ其ノ他ノ百五十萬布度ハ黑龍江軍管區經理部ニ於テ調辨スヘキヲ命シタリ然ルニ此ノ地方ハ西部西比利亞及後貝加爾地方ニ比スレハ遙ニ貧瘠ナルノミナラス輸送材料ニ缺乏セシヲ以テ其ノ結果良好ナラサリシト云フ其ノ後三月十四日更ニ四百萬布度ノ糧秣追送ヲ請求セリ

追送請求ノ過大

以上ノ如ク滿洲軍ハ常ニ唯其ノ準備糧秣ノ多大ナランコトヲ欲シ沙河戰鬪前後ニ於ケル哈爾濱ニハ約四百萬布度ノ穀類及多大ノ罐詰肉ヲ集積シブラゴウエシチエンスクニ約百萬布度ノ穀類及約八十萬布度ノ乾野菜並ニ多大ノ罐詰ヲ貯藏シ小麥、豌豆、高粱ハ極メテ富裕ニシテ滿洲軍經理部長ハ一箇年間軍隊ニ麵包ヲ支給スルニ十分ナリト誇稱シアリシニ拘ラス尙更ニ粉類等ノ追送ヲ歐露ニ仰キツツアリシト云フ
例セハ三十八年一月ニ於ケル攻撃計畫ニ伴ヒ哈爾濱ヨリ南方ニ多量ノ糧秣ヲ前送シテ此ノ地ニ於ケル集積量大ニ減少スルヤ同地附近ノ資源ハ未タ決シテ枯渴

ノ徵候ナキニ只頻次ノ敗戦ニ依リ通貨ノ信用ヲ失墜シ購買ニ著シキ困難ヲ感セシノミノ理由ヲ以テ總司令官ハ陸軍大臣ニ打電シ補充兵八萬ノ輸送ヲ一時中止シ新ニ糧秣百列車(内四十列車ハ麥粉六十列車ハ燕麥若クハ小麥)ノ追送ヲ請求セシカ如シ當時大會戰ヲ豫期シツツアリシニ拘ラス糧秣追送ノ爲メ増援隊ノ輸送ヲ遲緩シ用兵上ニ不利ノ影響ヲ及ホセシコトハ左ノ例ニ依リテモ證スルコトヲ得ヘシ

三十八年二月狙撃兵二箇旅團及ブラスツン旅團並ニ第四軍團ハ途中ニ停滯セル貨物ヲ前送セシムルノ目的ヲ以テ約一箇月間前進ヲ控制セラレ三月五日ニ至リ初メテ先頭奉天ニ到着セシヲ以テ其ノ大部分ハ戰鬪ニ參加スルヲ得サリシト云フ

經理部ニ於ケル追送請求ノ多大ニシテ且其ノ必要量ニ對スル確信ヲ有セザリシコトハ左ノ鐵道貨車請求ノ例ニ依リテ證スルコトヲ得ヘシ

- 一、三十八年二月九日ヨリ日々各軍ニ輸送セル貨車ハ第一軍ノ爲メ鐵嶺ヨリ三十二貨車、第二軍ノ爲メ奉天ヨリ三十二貨車、開原ヨリ三貨車、第三軍ノ爲メハ開原ヨリ三十貨車、公主嶺ヨリ十二貨車ニシテ合計百〇九貨車トス然ルニ總

經理部長ハ糧食輸送ノ爲メ一晝夜ニ七十六乃至九十一貨車、馬糧ノ爲メ八十貨車、乾草ノ爲メ百二十四貨車合計二百八十乃至二百九十五貨車即チ九列車ヲ用ユヘキコトヲ請求セリ之ニ對シ軍交通本部長ハ彈藥ヲ輸送セサルヘカラサル理由ヲ以テ絕對ニ應セザリシ爲メ總經理部長ハ僅ニ五、六列車ニテ満足セサルヘカラサルニ至レリ然ルニ此ノ列車ヲモ確實ニ之ヲ利用スルコト能ハスシテ剩餘ヲ生セシメツツアリシト云フ

二、奉天會戰後多數ノ糧秣ヲ失ヒ四平街ノ陣地ニ退却スルヤ新陣地ニ於ケル現地物資ノ狀況不明ナリシモ總經理部ハ三月二十日軍所要量ニ對シ麥粉ハ五〇%馬糧ハ六〇%以内ヲ現地調辨シ得ヘキモノト豫想シ其ノ他ノ糧秣及經理部貨物追送ノ爲メ日々九列車(内糧秣七列車)ヲ必要ト認メテ請求セシモ三月二十二日糧秣ヲ六列車ニ減少シ三月二十四日ニハ經理部全貨物ノ爲メ八列車半ヲ要スト爲セシニ拘ラス四月十日ニ至リ現情況ニ於テハ當分二箇月間ハ一列車半ヲ以テ足レリト爲セリ即チ僅々一箇月以内ニ於テ列車ノ要求數ハ九列車ヨリ一列車半ニ變更セシト云フ

此ノ如キ追送請求ノ過多ナリシ原因ハ準備品ノ多量ナルヲ欲セシト一ニハ追送

ノ請求ヲ滿洲軍ニ於テ統一セザリシニ基キシモノノ如シ即チ戰爭ノ初期ニ在テハ滿洲軍及後方軍兩經理部ヨリ同時ニ、又三軍編成當時ニ於テハ後方軍及三個軍ヨリ各個ノ要求ヲ爲セシヲ以テ其ノ數量ハ必要以上ニ各豫備數ヲ含有セシメタレハナリ從テ中央部ニ於テモ輸送力不足ノ關係上ヨリ屢々糧秣ノ追送ヲ躊躇セシヲ以テ益々其ノ要求ヲ過大ナラシメタリ然レトモ此ノ弊害ハ總經理部ノ新設ヲ見ルニ至リ始メテ除去スルヲ得タリト雖モ尙追送糧秣ノ請求ニ就テハ其ノ確實ヲ缺キ中央部ニ於テ給養ノ危懼ヲ抱カシメタリシコトハ八月二十日總司令官ニ對スル左ノ勅電及返電ノ要旨ニ依リテ證スルコトヲ得ヘシ

給養不安ノ勅電

朕ハ軍ノ給養情態ニ就キ不安ナキヲ得ス六月ニ於ケル卿ノ電報ニ依レハ軍ノ貯藏量ハ九月下旬迄支フルニ過キササルヲ以テ八、九兩月中ハ經理部用直通六列車餘ヲ必要トセシニ拘ラス七月中旬ニ於テハ右兩月間ハ三列車ヲ以テ足ルコトヲ報告セリ目下輸送ノ途中ニアル貨物ヲ除キ軍ニ三箇月分ノ貯藏ナクンハ其ノ給養ヲ安全ニスルコト能ハサルヘシ若シ軍力少クモ十二月上旬迄貯藏糧秣ニテ給養ヲ安全ナラシムル能ハサルニ於テハ第二十一軍團ノ輸送ヲ延期シテ經理部用列車ヲ増發セン云々

之ニ對シ總司令官ハ左ノ要旨ノ返電ヲ爲セリ

八月十四日以降經理部用六列車以上ヲ必要トスル旨報告セリ然レトモ之レ總經理部長カ北滿洲ニ於テ所要ノ糧秣ヲ徵集シ能ハサルコトヲ虞レタル周到ナル注意ニ基キシモノニシテ其ノ後幸ニ多量ノ糧秣ヲ現地ニ於テ發見シ之ヲ購買シタリシヲ以テ三箇月間ノ給養ヲ確實ニシ貯藏品ニ依リ十一月下旬迄全軍ノ給養ヲ支ヘ得ヘシ之ニ目下輸送ノ途中ニ在リテ九月中ニ送致セラル、モノヲ加フレハ一月二十三日迄給養ヲ安全ニシ得ルノミナラス尙北滿洲ニ於テハ若干ノ糧秣購買ヲ繼續シツ、アリ第二十一軍團ヲ派遣スル陸下ノ命令ハ依然變更セラレサランコトヲ望ム云々

追送ノ品種
數量

追送品ノ主要ナルモノハ麥粉、乾麵包、罐詰肉、凍肉、乾野菜、燕麥、火酒、砂糖等ニシテ其ノ全部ヲ合スルモ現地調辦額ノ約九分ノ一ニ過キスト雖モ而モ戰役中ニ於ケル追送品ノ總計ハ約九百九十四萬布度ノ多額ニ達シ其ノ列車數ハ千二百五十列車ノ多キニ上レリ之ニ糧秣以外ノ經理部貨物ヲ合スルトキハ一晝夜六乃至八列車ヲ要スルノ計算トナレリ然レトモ西比利亞鐵道ノ輸送力ハ既ニ本章第一節ニ述ヘタル如ク微弱ナリシヲ以テ經理部貨物輸送ノ爲ニハ平均一列車半乃至三列車

ヲ發送シ得ルニ過キサリシヲ以テ其ノ荷物ノ集團ハ歐露出發當時ノ組織ヲ以テ
哈爾濱ニ到着シタルモノナク大部ハ二箇月乃至二箇月半ヲ途中ニ費シ而シテ一
部ノ荷物ハ全然遺失シテ行衛不明トナリシト云フ

奉天會戰當時西比利亞鐵道ニ停滯セル經理部荷物ハ貨車四千五百輛搭載量三
百萬布度ニ達セシト云フ其ノ他ノ鐵道輸送溢滯ノ狀況ハ第七編第三章第六節
第三ヲ參照スヘシ

第十節 糧秣準備ト給與量トノ關係

露軍カ戰役間現地調辨及追送ニ依リ給養ノ確實ヲ圖ル爲メ多量ニ糧秣ヲ集積ス
ルコトニ努力セシ狀況ハ前陳ノ如シ今左ニ其ノ結果ト實際ニ於ケル給與量トノ
關係ヲ示セハ概ネ左ノ如シ單位萬布度

糧秣ノ準備所	準備數量	野戰軍ニ 給與高	殘	高	準備數量ニ對 スル百分比
滿洲軍 經理部	九二九	一〇七〇	八〇	一四三	一四三
三箇軍ノ 經理部	二二一	一〇〇		三四	三四
開戰當時ノ 諸倉庫	一〇〇			一五	一五
後方 經理部	四、二二二	三、〇二〇		二、三七一	六四、三三

糧秣準備ト
給與量トノ
關係

沿海州ヨリ追送

八五

一三

歐露ヨリ追送

九九四

一五二

計

六、五四一

四、〇九〇

二、四五一

一〇〇

追送要求ノ
過度

以上給與高ノ内ニハ損敗ニ歸シタルモノ約五十萬布度、退却ニ際シ喪失シタルモ
ノ約八百五十萬布度七百八十萬布度ハ經理部ニ於テ七十五萬布度ハ軍隊ニ於テ
喪失スヲ含有スルヲ以テ實際ノ給與ニ必要ナリシ高ハ三千八百八十五萬布度トス
故ニ全準備量ニ比スレハ二分ノ一以內ニ過キス此等ノ損失ヲ控除セス前表給與
量ヲ必要缺クヘカラサルモノト爲スモ之ヲ準備數量ニ比スレハ其ノ三分ノ一ハ
過剩數ニシテ此ノ數ハ三十八年八月前後ニ於ケル滿洲軍ノ給養兵額ニ對シ約九
箇月分ノ需要高ニ相當スト云フ

以上ノ如クシテ平和克復後ノ後送期間ニ於テモ地方物資ニ缺乏セサル狀況ナリ
シニ拘ラス經理部ハ常ニ給養品缺乏ノ妄想ヨリ不安ヲ抱キ戰爭ノ終結ニ至ル迄
本國ヨリノ追送ヲ益々増加センコトヲ主張セシ失態ヲ爲セリト云フ

第十一節 作戰間ニ於ケル給養ノ狀況

第一 各種給養品ノ狀況

給養品ノ狀況

開戰當時滿洲軍ニ於ケル準備糧秣ハ過少ニシテ軍ハ主トシテ現地調辨ニ依リ給養スルノ方針ヲ採リシコトハ既ニ述ヘタルカ如シ作戰間各期ニ於ケル給養ノ狀況ハ後文ニ述フルコト、シ茲ニ全戰役間ヲ通シ主要ナル各種給養品供給ノ狀況ヲ概説セントス

其一 麵包

麵包ノ供給

麵包ノ給養ハ軍經理部ニ屬スル野戰麵包製造所十一個ノ鐵竈ヲ有シ一日ニ一萬六千口分ヲ燒製ス及臨時設置ノ同製造所ニ於テ製造セシモ開戰當時ニ於ケル經理部ハ其ノ職員及器具不足ノ爲メ悉ク之ヲ供給スルコト能ハス軍隊自ラ製造ノ業務ニ服シタルヲ多シトス後三十七年四月下旬遼陽ニ於ケル地方麵包製造所ト契約ヲ結フニ至リ漸ク軍隊ノ要求ニ應スルヲ得ルニ至レリ

麵包製造ノ縮少

遼陽會戰ノ期近クヤ野戰麵包製造所ハ漸次其ノ業務ヲ縮小シ好時機ヲ以テ漸次太子河ノ北方ニ移スニ決シタルヲ以テ作戰間ハ主トシテ乾麵包ヲ以テ給養セリ遼陽ノ敗戰ニ際シテハ野戰麵包製造所ニ輻重ノ配屬ヲ缺キンヲ以テ移動ニ多大ノ困難ヲ感シ一部ハ之ヲ棄却スルノ已ムヲ得サルニ至リタルノミナラス其ノ退却セシモノモ亦軍隊ニ近キ新地點ニ於テ直ニ製造ヲ開始スルコト能ハサリシヲ

麵包ノ缺乏

以テ九月十日ニ至ル迄約二週間麵包ノ供給ヲ全ク缺キ僅ニ乾麵包若干ハ豚脂ヲ以テ製造シタル支那風ノ餅ヲ以テ饑飢ヲ凌キ九月中旬ニ至リ僅ニ半口糧ハ乾麵包ヲ半口糧分ハ麥粉ヲ支給シ軍隊ヲシテ自ラ麵包ヲ製造セシメテ供給ヲ充タスニ至レリ

力カ麵包ノ製造

其ノ後麵包製造所ヲ整備シ三十八年一月一日ニハ左ノ如ク一日ニ於ケル製造高約六十一萬五千口糧ニ達セリ

第一、第二、第三軍 野戰麵包製造部 二四箇 一日ノ燒製高 五〇四、〇〇〇口糧 煉瓦製麵包燒爐 一九五

奉天麵包製造部 同 八七、二〇〇

雙朝子乾麵包製造部 同 二四、〇〇〇

以上ノ業務ハ總經理部ニ於テ三月十日ノ奉天退却ニ至ル迄銳意繼續シテ給養ノ確實ヲ圖リシヲ以テ退却ノ際固定麵包燒爐ノ全部ヲ失ヒタルノミナラス野戰麵包製造所モ亦輻重ノ配屬ヲ缺キシヲ以テ殆ント全部ヲ失ヒ退却シ得タリシモノハ僅ニ五箇ニ過キサリシト云フ

露國マクシエフ氏ハ此ノ處置ヲ評シテ左ノ如ク論セリ

給養機關損失ノ批語

第十一編 第六章 日露戰役ニ於ケル露軍ノ給養

野戰麵包製造所ハ最後マテ活動シテ携帶口糧ヲ使用スルノ時日ヲ僅少ナラシメタリト稱賛スルモノアルモ斯ノ如キ利用法ハ其ノ當ヲ得タルモノナルヤ疑問ナリ麵包製造所ハ火炮ニ非ス從テ長ク其ノ位置ニ留マルモ何等敵ニ害ヲ加フルコト能ハサルノミナラス敵ニ捕獲セラレハ至レハ徒ニ敵ヲ利シ我損害ヲ益々大ナラシムルニ過キス故ニ敵手ニ陥ル虞アレハ適時ニ之ヲ後方ニ撤退セシメサルヘカラス携帶口糧ヲ長ク保存スル爲ニハ軍隊ノ後方ニ於テ適時ニ麵包ヲ燒製シ退却軍ニ交付セハ可ナラン給養事業ノ當否及巧拙ハ即チ茲ニ存スト

四平街ノ麵包製造

野戰麵包製造所ノ損失前陳ノ如クナリシヲ以テ四平街退却後ノ初期ニ於テハ僅ニ退却スルヲ得タリシ五箇ト哈爾濱ヨリ新ニ送致セシ二箇トヲ以テ麵包製造ヲ再興シ一日ニ二十四萬六千二百口糧ヲ燒製セシト雖モ當時軍隊ノ兵額ハ四十四萬人ノ多キニ達シ僅ニ其ノ半數ヲ充タスニ過キサリシヲ以テ其ノ不足ハ軍隊ヲシテ自ラ燒製セシムルノ已ムナキニ至リ給養ニ困難セシモ四月此ノ業務ヲ各軍經理部ノ手ニ委スルニ至リ辛フシテ之ヲ完フスルコトヲ得タリ

重燒麵包ハ主トシテ哈爾濱ニ於ケル固有及民間製造所ニ於テ之ヲ製造シ其ノ製

造力ハ三十七年ノ冬期ニ於テ九百布度ニ達セシト云フ

其二 肉類

肉類ノ供給

滿洲ノ畜類ハ主トシテ運搬若クハ耕作等ニ使用スルモノニシテ屠殺用ノモノ少ナキモ蒙古地方ハ之ニ反シ多大ノ屠殺用畜類ヲ産シ其ノ大群ハ青草ヲ逐フテ遊牧シアルヲ以テ開戰當初ヨリ軍隊經理部及請負人ニ依リ之カ徵集ニ從事セシメタリシモ軍兵額ノ増大スルニ伴ヒ軍隊經理部請負人ノ三箇互ニ競争シ徵集ヲ妨碍スルニ至レリ然レトモ支那商人ノ蒙古ニ於ケル牛群ヲ驅テ滿洲市場ニ來リ軍隊ニ直接販賣セシモノモ亦尠ナカラサリシヲ以テ遼陽會戰期迄ハ肉類ノ供給ニ困難セサリシ但シ其ノ一布度ノ價格ハ約五留ヨリ八留四十留ニ暴騰セシト云フ

三十七年十月沙河會戰ノ爲ニハ一箇月分ニ對スル家畜群ヲ準備シ軍隊ニハ八日分ノ屠獸ヲ携行セシメタリシモ之カ水飼ノ爲ニハ大ナル困難ヲ感セシト云フ

軍奉天ニ退却スルヤ調辨地區ノ縮少セラレタルニ反シ給養兵額益々増加シ其ノ需要多大トナリシ結果價格豫想外ニ暴騰シ軍隊經濟ニ大打撃ヲ與ヘタリシヲ以テ軍隊ハ肉類供給ヲ經理部ニ請求スルニ至レリ然ルニ經理部ハ此ノ要求ヲ満足セシムルコト能ハサリシヲ以テ軍隊ハ再ヒ自活ノ道ヲ講シ更ニ特別生獸購買者

肉類ノ暴

強制調弊ノ害

將校及下士卒、普通傭人ヲ以テ編成スヲ遠隔セル滿洲及蒙古ノ内地ニ派遣セリ然レトモ此ノ購買者カ職權ヲ亂用シ地方住民ヲ強迫セシニ依リ更ニ惡影響ヲ及ホシ住民ノ生獸ヲ賣却スルモノヲ減少シ肉價ハ益々暴騰シテ一布度ノ價格十五留ニ達セリ

肉類騰貴ノ一因

日露戰役當時ニ於ケル肉類暴騰ノ原因ヲ説明シテ非難セシ者曰ク「命令ヲ以テ定メラレタル購買價格ノ制限高價ニ過キタルニ因ル」ト之ニ對スル辯明ニ曰ク「假令制限價格高シトスルモ購買當ヲ得ハ價格ノ變動ハ概シテ漸次ニ來ルモノニシテ斯ク突然ナル不法ノ暴騰之レ無キモノトス又命令ヲ以テ軍隊ニ制限價格ヲ公布スルモ各部隊長ハ其ノ範圍内ニ於テ之ヲ變更シ其ノ價格ヲ當事者ニ報告スヘキモノナルニ依リ制限價格ノ罪ニアラス」ト云フ然レトモ軍經理部カ適當ナル價格ヲ指示セザリシノ失當ナリシコトハ免カレサルカ如シ

肉類運送ノ要求

以上ノ如キ狀況トナリシヲ以テ經理部ハ中央部ニ罐詰肉二千五百萬口糧ヲ請求スルノ外黑龍江ノ鮭四十萬布度(約九十萬人ニ對スル十一日分)ヲ注文シ別ニ日々三列車ヲ以テ牡牛三百頭若クハ羊一千頭ヲ軍ニ輸送シ一週間ニ五日間ハ半定量ノ肉ヲ供給シ二日間ハ鮭ヲ供給スル如ク計畫セリ

凍肉ノ狀況

然ルニ露國罐詰製造場ハ此ノ如キ購買ニ應スル製造力ヲ有セザリシニ依リ總司令官ノ同意ヲ得テモルガン式鹽肉及凍肉ヲ給養スルコトヲ圖リ凍肉ニ就テハ三十七年十月末ニ軍事參議會ハ野戰軍用トシテ六十萬布度ヲ準備スヘキコトヲ農務省ニ交渉シ西部西比利亞及オレンブルグ地方ニ於テ購買シ腐敗ヲ生セシメサル爲メ十一月月中旬ヨリ一月中旬ニ至ル寒冷ノ期間三箇月間ノミニ受領スヘキ豫定ナリシモ西比利亞鐵道ノ交通不良ノ爲メ之ヲ四十萬布度ニ減少セリ然ルニ猶其ノ輸送遲延シ五月ニ至リタルモノアリシヲ以テ速ニ軍隊ニ給與スルノ方法ヲ講シ一部ハ鹽藏ニ着手セシモ腐敗ノ爲メ約八萬布度ハ之ヲ燼滅スルノ已ムヲ得サルニ至リシト云フ

鹽漬豚

鹽漬豚モ亦農務省ニ八十萬布度ノ準備ヲ交渉セシモ實際哈爾濱ニ輸送セシハ約二十八萬布度ナリト云フ

四平街ノ肉給養

三十八年三月滿洲軍四平街附近ノ陣地ニ到着シタル後モ依然生肉ノ供給良好ナラス殊ニ夏期ニ至リテハ蒙古人ハ其ノ家畜群ヲ新牧場ニ放飼スル爲メ深ク内地ニ入りシヲ以テ其ノ徵集益々困難ニシテ生肉ノ缺乏殊ニ甚タシカリシニ依リ一人一日ノ給與量ヲ四分ノ三「フロント」ニ節減シ遂ニ二分ノ一「フロント」ニ迄減量スルニ

購買隊ノ壓迫

至レリ是ニ於テ各軍隊ハ更ニ步兵中隊若クハ哥薩克騎兵中隊ヲ蒙古ニ特派シテ食牛ノ購買ニ從事セシメタリ然ルニ蒙古人ハ此等購買隊ノ壓迫ニ堪ヘスシテ益々内地ニ遁逃シ同地附近ニ於ケル食牛ノ調辨ハ到底十分ナルコト能ハサルニ至リシヲ以テ三十八年六月軍隊ノ購買者ヲ蒙古ニ派遣スルコトヲ絶對ニ禁止シ家畜ノ購買ハ只經理部ノミニ於テ實行スルコトヲ爲シ總經理部ハ鐵道ヲ利用シテ之ヲ齊々哈爾及海拉爾地方ヨリ招致シテ給養スルヲ圖レリ要スルニ肉ノ供給ハ全戰役ニ亘リ常ニ困難ニシテ開戰第一年ノ終以降ハ最モ難決ノ問題トナリシト云フ

牛酪脂肪

牛酪ハ主トシテ西北利亞ニ於テ豚脂肪ヲ歐露ニ於テ準備シテ追送セリ

其三 野菜其ノ他

野菜

野菜ハ主トシテ軍隊ノ調辨ニ委任セシモ尙供給ヲ確實ナラシムル爲メ乾野菜ヲ歐露ヨリ追送シ又殊ニ歐露ヨリ専門ノ博士ヲ哈爾濱ニ派遣シ政府自ラ菜園ヲ作リテ軍ニ供給セリ其ノ數量ハ三十七年ノ秋ニ至ル間ニ於テ既ニ約十三萬布度ノ多額ニ上リ全戰役間ニ於テ軍隊ノ自ラ準備セシ野菜ハ七%五ニ過キサリシト云フ

加味品

胡椒ハ軍隊及經理部ニ於テ準備シ軍隊ノ自ラ調辨セシ數量ハ四十七%七ニ達セシト云フ

茶及砂糖ハ一切經理部ニ於テ準備セシト雖モ食鹽ニ關スル顧慮周到ナラザリシヲ以テ之カ供給ニ困難セシ狀況ハ第二編第二章第三節第五ニ述ヘタルカ如シ

其四 馬糧

馬糧ノ軍隊自己調辨

滿洲地方ハ馬糧ニ充用スヘキ物資豐富ナルヲ以テ其ノ大部ハ總テ各部隊各個ニ調辨スルコト、爲シ經理部ハ只其ノ少量ノミヲ準備集積スルニ止メ之カ供給ヲ爲サ、リシニ依リ給養ニ困難セシコト少ナカラス

飼料ノ代用

馬糧ノ種類ハ露國本土慣用ノモノト異ナリタルヲ以テ漸次ニ大麥、高粱、豆穀等ヲ用フルノ習慣ヲ附セリ該代用飼料給與ノ當初ニ於テハ軍隊間ニ多少ノ批難アリシモ孰レモ針小棒大ニシテ軍隊カ指示セラレタルコトヲ實行セザリシト單ニ習慣上之カ給與ヲ望マサリシトニ原因シタルモノ、如ク日ナラスシテ之カ習慣ヲ得タリシト云フ

東部兵團ノ馬糧缺乏

戰役ノ初期ニ於テ遼陽東南方ノ山地ニ策動シタル東部兵團ハ現地物資ノ寡少ナリシト輸送材料ノ缺乏トニ依リ初メヨリ馬糧ノ給養ニ困難ヲ感シタリシモ其ノ

他ノ部隊ニ在リテハ概ネ需要ヲ満足セシムルヲ得タリ

五月ニ至リ營口ニ於ケル馬糧ハ漸次減少シ購買困難トナリシノミナラス軍隊ハ遠ク調辨地區ヲ擴張スルコト能ハス農産物モ未タ利用シ得ルノ時期ニ達セサリシヲ以テ干草及藁ニ殊ニ困難ヲ感シ開戦當初ニ於テ準備セシ壓搾干草ヲ沿海州及哈爾濱ヨリ追送セシメテ給養スルコトヲ圖リシト雖モ鐵道輸送ニ於ケル制限ノ爲メ所要量ヲ得ルノ見込ナカリシヲ以テ鐵嶺ニ準備集積シアル大豆百萬布度ヲ水路營口ノ製油所ニ送り豆粕ト爲サシメ之ヲ代用スルコトト爲セリ

豆粕ノ干草
代用

沙河對陣間
ノ馬糧缺乏

遼陽會戰後軍カ北方ニ退却シタル當時ハ從來未タ馬糧ヲ調達セサリシ地方ニ位置シ地方物資豊富ナリシニ依リ給養ノ狀況良好ナリシモ永ク繼續セス寒冷ノ氣節到來ト共ニ青草ハ其ノ跡ヲ絶テ新收穫物モ未タ市場ニ現出セス一方ニハ軍馬ノ數益々増加シタリシヲ以テ再ヒ困難ヲ感シ各隊ハ購買委員及請負人ノ盡力ヲ以テ諸種ノ飼料ヲ利用セシモ定量ノ給與ヲ確實ナラシムルコト困難ニ至レリ殊ニ軍隊宿營地附近ニ於ケル地方車輛ノ減少セシト糧秣購買者カ互ニ競争シテ輸送業務ヲ阻碍シ或ハ住民ヲ威嚇シ或ハ徵發的ニ蒐集セシノ處置ハ之カ供給ヲ益々窮境ニ陥ラシメ三十七年末ヨリ翌年一月ニ亘リテ殆ント其ノ缺乏ヲ告クルニ

馬糧ノ強制
調達

鐵道輸送力
ノ不足

四平街陣地
ノ狀況

地現調辨ノ
結果

至リタルヲ以テ各隊ノ購買委員ハ大ニ之カ徵集ニ奔走シ馬糧ヲ發見シ之ヲ購買セントスル場合ニ標準價格ヲ以テ買收ニ應セサルモノアレハ之ヲ強奪シ或ハ之ヲ押收スル等臨機ノ手段ヲ取り以テ一時ノ急ニ應セシメタリ
狀況此ノ如キニ至リシヲ以テ經理部ハ後方哈爾濱方面ヨリ馬糧ヲ追送セントセシモ鐵道ノ輸送力不足ニシテ所要ヲ充タスコト能ハサリシト云フ
四平街附近ノ陣地ニ在リテモ經理部ハ從前ニ異ナル所無ク馬糧ノ供給ヲ爲ササリシヲ以テ此ノ問題ハ依然トシテ軍隊ノ難事ニ屬セリ爲レトモ戰役ノ終期ニ至リ初メテ馬糧供給ヲ全然經理部ノ責任ト爲シ該部ハ廣ク高粱、豆粕、大麥等ヲ徵集シテ之ヲ代用シタルト野戰軍トハ距離短縮シ鐵道ノ効力増加シ後方ヨリ追送ヲ受クルニ至リシトニ依リ漸次支給額ヲ増加スルニ至レリ
要スル馬糧ハ殆ント全部軍隊ヲシテ自ラ現地ノ物資ニ依リ供給セシムルノ主義ヲ採リシヲ以テ全戰役間ニ於テ軍隊自ラ準備セシ數量ハ穀類五六%干草及藁九〇%ニ達セシト雖モ之カ追送ト經理部ノ努力トヲ缺キシヲ以テ困難ヲ生セシコトハ當然ノコトトス

其五 燃料

給養品煮沸用ノ燃料ハ軍隊ノ自己調辨ト爲セリ然ルニ滿洲ノ地ハ森林ニ乏シキ爲メ薪材ニ代フルニ高粱稈ヲ以テシ又ハ時トシテ支那人ヨリ僅少ナル薪材ヲ得タリシコトアリシモ到底之ヲ以テ軍隊ノ需要ヲ充タスニ足ラサリシニ因リ其ノ調辨ノ困難ハ名狀スヘカラス百計盡キテ遂ニ支那家屋ヲ破壊スルニ至レリト云フ

奉天附近駐留間ニ在リテハ工兵部ニ於テ薪材ノ調辨ニ任シ偵察者ヲ撫順方面及鐵嶺雙店子ノ線以東ノ森林ニ派遣シ且住民ニ揭示シテ之カ供給ヲ促セリト雖モ其ノ效果十分ナラサリシヲ以テ奉天及鐵嶺ニ燃料購買委員會ヲ設ケタリ當時高粱稈ハ既ニ馬糧トシテ軍隊及經理部ニ於テ買收シ盡シ薪材ノ供給ハ極メテ寡少ナリシニ因リ土密探用トシテ若干ノ薪材ヲ各部隊ニ供給セシニ過キス後漸次調達ノ良好ニ赴キシト軍隊ハ自ラ調辨シテ委員會ノ調達品ヲ使用セシコト少ナカリシトニ依リ多量ニ集積スルコトヲ得ルニ至リシト云フ然レトモ一般ニ對スル燃料問題ハ戰爭ノ終結ニ至ル迄十分ニ良好ナル解決ヲ見サリシカ如シ

第二 開戰ヨリ遼陽會戰迄ノ狀況

開戰當時ニ於ケル露軍ノ目的ハ東亞ニ分離セル兵力ヲ集中シ且必要ナル援兵ノ

歐露ヨリ到着スル迄交戰ヲ避クルニアリ之カ爲メ二月十七日兵力ヲ關東軍(旅順ヲ安全ナラシムルノ目的ヲ有ス)烏蘇里軍左翼海岸ヨリスル作戰線ヲ安全ナラシムルノ目的ヲ有ス)滿洲軍ニ區分ス

滿洲軍ハ先進部隊ヲ鴨綠江及大石橋附近ニ出シテ遼陽附近ニ集中シ黒木軍ニ對シ攻勢ヲ取ルノ目的ヲ以テ倉庫設備及糧秣ノ輸送ヲ計畫セリ其ノ要旨ハ左ノ如シ

- 一、攻撃ハ五縱隊ヲ以テ左ノ如ク施行シ其ノ一般作戰目標ヲ鳳凰城トス(總員十三萬七千八百人、馬匹三萬九千六百頭)
- 1、第一縱隊ハ遼陽ヨリ賽馬集方面ニ第二、第三縱隊ハ遼陽ヨリ連山關、鳳凰城道路及浪子山、王家堡子道ヲ經テ鳳凰城方面ニ
- 2、第四縱隊ハ海城ヨリ析木城ヲ經テ岫巖方面ニ
- 3、第五縱隊ハ蓋平ヨリ七盤嶺ヲ經テ岫巖方面ニ
- 二、輸送隊ヲシテ左ノ位置ニ前進倉庫ヲ設置セシメ全縱隊ノ爲メ十日分ノ糧秣ヲ集積ス

アムブラー(遼陽、賽馬集道上)、威家堡子(遼陽、連山關道上)、

東萬流河(大慶嶺鳳凰城道上)王家堡子(浪子山、岫巖道)、
潘家堡子(析木城東方)大房身(析木城、岫巖道上)、

蓄積糧秣ハ約大房身三萬八千布度、王家堡子一萬七千布度其ノ他ハ約一
萬三千四百布度トス

第五縱隊ノ爲ニハ大石橋倉庫ヨリ毎日一日分ノ糧秣ヲ輸送ス

三、各倉庫ノ設備完成スルニ隨ヒ輸送隊ヲシテ各縱隊ニ對シ日々糧秣一日分ヲ
輸送セシム

四、本倉庫ハ之ヲ遼陽ニ設ケ主トシテ現地物資ヲ以テ充實スルコトヲ努メ廣ク
遼河流域ノ物資ヲ徵集シ且支那、シヤンクヲ以テ北清ノ物資ヲ營口ヲ經テ海
城ニ輸送セシム

此ノ期間南部兵團ハ鐵道ニ沿ヒ後方連絡ノ至便ナル位置ニ在リシヲ以テ糧秣補
給ニ困難ヲ感セサリシモ東部兵團ハ之ニ反シ道路不良ニ輸送機關不備ナリシノ
ミナラス軍隊ノ調辨モ亦土地確切ニシテ物資乏シカリシニ依リ大ニ給養ニ困難
ヲ生セリ當時東軍ノ經理部ハ其ノ編成遲キニ失シ而モ東軍第三及第六旅團ニ於
ケル經理官ハ何等經理上ノ經驗ヲ有セサリシ兵科將校ニシテ給養品徵集ニ赴ク

各兵團ノ給
養

經理官ノ無
能

豫備糧秣ノ
彷徨

輸送部隊ノ
增加及配置

ヤ支那人ハ始メハ貯蓄品ヲ隱匿シテ之ニ應セス後チニハ互ニ同盟シテ價格ヲ騰
貴セシムルニ至リシカ如キ或ハ追送糧秣カ長ク軍隊ニ到著セサリシニ依リ旅團
經理官ノ援助トシテ將校ヲ附屬シ細密ニ地方糧秣ノ偵察ヲ行ハシメタル結果始
メテ沙河子ニ多量ノ糧秣ヲ貯藏セルヲ發見セシカ如キ狀況ナリシヲ以テ若シ東
軍ノ經理官ニシテ經驗ニ富ミシモノナリセハ軍隊ハ斯ノ如キ糧秣ノ缺乏ヲ感セ
サリシナラント云フ然レトモ鳳凰城ノ凹地ニハ豆製粉所ヲ有シ且大麥及高粱ヲ
多量ニ貯藏セシヲ以テ倉庫ノ設置ヲ容易ナラシメ鴨綠江河口ニ於テモ多少ノ給
養品ヲ徵集スルヲ得タルニ依リ漸ク給養ヲ支フルヲ得タリト云フ

四月下旬軍ノ北方ニ退却スル際ニハ糧秣ヲ集積スルノ危險ナルコトヲ顧慮シ哈
爾賓ヨリ南方ニ糧秣ヲ輸送スルコトヲ中止セシノミナラス軍團倉庫ノ豫備糧秣
ヲ哈爾賓ニ還送シ且遼陽倉庫ニ現在スル約四十萬布度ノ糧秣ヲ後送スルコトニ
決シタリ此ノ決定ハ遼陽北方ニ設置セル中間倉庫ニ於ケル豫備糧秣ニモ變動ヲ
與ヘタリ然レトモ皇國軍ノ前進スルコトナキト露軍ノ兵力漸次増大セシトノ爲
メ五月二十三日再ヒ豫備糧秣ヲ南方ニ輸送スルコトヲ開始セリ

輸送業務ヲ統一的ニ實施スル爲メ四月二十八日滿洲軍司令部内ニ運輸課ヲ新設

シ六月上旬輸送部隊ヲ五箇ノ獨立集團ニ分チ左ノ如ク配置セリ(二輪車輸送隊一隊ハ車輛約三百六十輛、支那車輛輸送隊一隊ハ車輛約百三十輛ヲ有シ各五隊ヲ以テ大隊ヲ編成セリ)

一、第一集團(二輪車輸送隊四隊、官設支那車輛輸送隊五隊、雇驛馬ヨリ成ル駄馬三百頭)ハ蓋平及大石橋附近ニ在リテ西比利亞第一第四軍團及ミシチエンコ支隊等ノ補給ニ任ス

二、第二集團(二輪車輸送隊一隊、官設支那車輛輸送隊十隊)ハ海城附近ニ在リテ西比利亞第二軍團、步兵第三十一師團ノ一旅團及海城東方ノ各陣地ニ現在ヒル部隊ノ補給ニ任ス

三、第三集團(官設支那車輛輸送隊二十隊、駄馬輸送隊一隊)ハ遼陽ニ在リテ連山關方面ニ於ケル東部兵團、賽馬集方面ニ於ケル第十軍團及遼陽ヨリ派遣セラレタル諸部隊ノ補給ニ任ス

四、第四集團(雇驛馬ヨリ成ル駄馬六百三十頭)ハ東部兵團ノ爲メ山地ニ於ケル補給ニ任ス

五、第五集團(官設支那車輛輸送隊五隊、雇驛馬ヨリ成ル駄馬三百七十頭)ハ遼陽ノ

給養裝備

東方太子河ノ渡渉點、本溪湖及其ノ東方地區ニ於ケル部隊ノ補給ニ任ス
當時軍隊ノ給養裝備ハ一定ノ規定ナク概シテ大運動ハ鐵道ヲ有スル大兵站線ニ沿ヒシヲ以テ軍隊ハ四日間ノ豫備品ヲ有スルヲ以テ程度ト爲シタルモノノ如シ然レトモ山地ニ運動スル輻重ノ爲ニハ最モ其ノ使用ニ注意ヲ拂ヘリ例セハ六月一日東部支隊ノ賽馬集ニ派遣セラレ、際ニ規定シタル給養裝備ノ概要ハ左ノ如シ

一、賽馬集ニ行軍スル軍隊ハ四日間ノ糧秣ト同期間ノ生獸ヲ携行シ糧秣運搬ノ爲メ各步兵中隊ハ二輪車二輛ヲ、又各砲兵中隊ハ以上ノ外尙駄馬四頭ヲ携行シ給養ノ爲ニハ先ツ車輛ノ糧秣ヲ卸下シテ使用シ後其ノ車輛ヲ傷病兵ノ運搬ニ使用スヘシ

二、二輪車ハ總テ馬二頭ヲ繫駕シ車輛ハ最モ堅牢ニ、馬匹ハ強壯ニシテ善ク裝蹄セルモノヲ選定スヘシ

六月初旬總司令官ハ雨季ニ於ケル給養ヲ確實ナラシムル爲メ十六日分ニ對スル豫備糧秣ヲ諸軍團倉庫ニ集積シ且全軍ニ對スル一箇月分ノ糧秣ヲ遼陽ニ集積スヘキコトヲ命セシモ戰鬪開始ノ爲メ僅ニ十三萬六千布度ノ糧秣ヲ諸軍團倉庫ニ

雨季ニ於ケル準備

雨季ノ影響

輸送シタルノミニシテ其ノ他ハ之ヲ遼陽ニ留置セリ
六月二十九日以來強雨霖ヲ成シ七月初旬ニハ道路破損シ輻重車輛ノ行進頗ル困難トナリ二輪一頭曳車ニアリテハ積載量ヲ六布度ニ減スルカ或ハ馬匹二頭ヲ駕スルヲ要シ地方ニ依リテハ空車ヲモ通スルコトヲ得ス之ニ加フルニ多數ノ地方ハ谿流増水シテ徒涉スヘカラサルニ至リシヲ以テ行進中ノ軍隊ハ其ノ減水ヲ待ツカ爲メ一晝夜以上滞在スルモノアリ殊ニ當時西比利亞第四軍團ノ所在地タル湯池附近ハ強キ驟雨ノ爲メ多數ノ軍需品ヲ流失シ人馬ヲ犠牲ニ供セシモノアリテ糧秣輸送ニ著シク困難ヲ感シタリト云フ

駄馬縱列ノ利益

馬車鐵道ノ必要

此ノ如キ狀況ニ際シ駄馬縱列ハ極メテ有利ナルヲ認メシヲ以テ更ニ多數ヲ編成スルニ決シタルト同時ニ將來鴨綠江方面ノ山地ニ前進スル軍隊ニ軍需品ヲ輸送スル爲メハ馬車鐵道ヲ敷設スルヲ必要ト爲シ輕便鐵道ヲ遼陽ヨリ浪子山ニ尙諸峠中ノ一二向ヒ之ヲ敷設スルコトヲ計畫シ(實際ハ布設ニ至ラス僅ニ土工ヲ爲セシノミトス)又海城ヨリ分水嶺ニ向ヒ廣軌鐵道ヲ敷設スルノ必要ヲ認メ(實際ハ地盤工事ヲ殆ント竣工シタルノミトス)當時軍司令官ハ此ノ分水嶺ニ至ル鐵道線路ノ開築ニ全力ヲ盡スニ非サレハ斷乎タル攻勢ニ轉スルコト能ハスト爲シタリ

第十軍團退却ノ結果

八月十二日第十軍團ハ微弱ナル守備隊ヲ寒坡嶺及次溝附近ニ殘シ自餘ノ全砲兵及歩兵ヲ姑嫂城ニ退却セシメ此ノ地ニ於テ湯河ニ橋梁ヲ架シ西比利亞第三軍團ノ退却及大安平ニ於ケル倉庫ノ撤退ニ伴ヒ退却シ得ル如ク諸準備ヲ整エタリ而シテ大安平倉庫ノ糧秣ハ日々五百車輛ニ積載シテ小屯子ニ送還シ此ノ附近ニ於テ太子河ニモ亦架橋シ十四日倉庫ノ全部ヲ撤去シ終リシ後降雨始マリ殆ント四日間連續シ姑嫂城附近ノ軍橋ヲ流失セシヲ以テ湯河ノ會合點ヨリ上流ニ於ケル太子河ニ架橋セント試ミシモ奏効セサリシニ依リ太安平倉庫ヲ撤去セシニ拘ラズ豫想外ニ永ク此ノ陣地ニ止マリシ爲メ再ヒ糧秣ヲ小屯子ヨリ搬致セサルヘカラサルニ至レリ然ルニ河流ハ小舟ヲモ渡過スルコト能ハス石阻子附近ノ道路モ亦急流ヲ以テ充タサレシニ因リ運搬頗ル困難ナリシモ新任軍團經理官カ駄獸縱列ヲ編成シ糧秣ヲ小屯子ヨリ石阻子西方ノ山背ヲ經テ耿家屯附近ニ運搬セシメ之ヨリ鐵舟ヲ以テ東岸ニ移シタル敏捷ナル處置ニ依リ僅ニ飢餓ヲ免カレ十八日降雨止ミ諸河漸ク減水シタルヲ以テ耿家屯附近ニ軍橋ヲ架設スルヲ得テ漸ク愁眉ヲ開クヲ得タリ

降雨ノ爲メ倉庫ト隔離

西比利亞第三軍團ノ給養

西比利亞第三軍團ニ於テモ雨季中後方遼陽トノ交通遮斷セムコトヲ虞レ八月六

日井爾屯倉庫ニ少ナクモ十六日分ノ豫備糧秣ヲ集積スヘク命令シ次テ八日此ノ豫備糧秣ヲ二箇所ニ分割スル爲メ新ニ望報臺ニ倉庫ヲ設ケ後更ニ鴉房ニ倉庫ヲ設置シ八月十一日退却準備トシテ二萬三千布度ノ糧秣ヲ井爾屯ヨリ望報臺ニ輸送セリ然ルニ十四日夜以來ノ強雨ニ依リ井爾屯ト望報臺トノ交通遮斷シ麵包製造所ハ其ノ業務ヲ廢シ乾麵包ハ倉庫ニ貯藏品ナクシテ給養ニ困難セシモ辛フシテ小舟ヲ以テ湯河ヲ渡過セシメ一晝夜ニ二百布度ノ麥粉ヲ井爾屯ニ送ルコトヲ得テ纔ニ飢餓ヲ凌ケリ十九日ニ至リ交通開ケタルニ依リ東狙兵第三師團經理部長ハ同師團及第六師團ノ輜重車二百輛ヲ以テ望報臺ヨリ糧食ヲ前途シタル爲メ二十三日ヨリ軍隊ハ始メテ定規ノ糧食ヲ受クルコトヲ得タリ

當時西比利亞第三軍團ノ某將校ハ支那人ヨリ牛數頭ヲ奪ヒ代金ヲ支拂ハスシテ支那人ヲ銃殺セントセシ爲メ處刑セラレタリト云フ

第十七軍團ノ部隊ハ西比利亞第三軍團ノ後方ニ集合シ約二週間其ノ經理部及倉庫並ニ野戰麵包製造所ヲ有セサリシヲ以テ糧秣ニ缺乏シ大ニ困難セント云フ

遼陽會戰迄ノ給養ハ前陳ノ如クニシテ南部兵團ハ概ネ良好ナリシモ東部兵團ハ之ニ反シ困難セシコト少ナカラサリシ

軍遼陽附近ニ集中後ハ倉庫ヲ後方ニ擴張シ遼陽ニハ二週間分、煙台、煙台炭坑及沙河堡停車場ニハ全軍ノ爲メ三週間分ニ對スル糧秣ヲ貯藏スル倉庫ヲ設置セリ

第三 遼陽會戰ヨリ奉天會戰迄ノ狀況

遼陽會戰ノ期近クヤ野戰麵包製造所ノ業務ヲ縮少シタルヲ以テ之カ給養ニ困難セシコトハ既ニ述ヘタルカ如シ而シテ遼陽敗戰ノ結果ハ滿洲軍ニ對スル約八日分ノ糧秣ヲ委棄セシヲ以テ準備糧秣ノ數量ヲ大ニ減少セシノミナラス奉天ニ於ケル軍倉庫ノ糧秣ハ附近ニ集中セル多數ノ軍隊ヨリ不規律ニ請求セラレ忽チニシテ費消セラレシヲ以テ軍隊ハ僅ニ乾麵包又ハ支那製餅ヲ以テ饑餓ヲ凌クニ至レリ

奉天倉庫ニ於テハ前衛部隊ノ如キハ日々ニ必要ナル給養品及携行豫備糧秣ノ補充品ヲモ受領セシニ拘ラス後衛部隊ハ必要缺クヘカラサル日量ヲモ受クル能ハサリシヲ以テ倉庫長ノ無能ヲ非難スルニ至レリト云フ

九月中旬軍ハ奉天ニ主力ヲ集中シタル後二縱隊ニ分レ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントスルヤ豫備糧秣ノ配當ヲ左ノ如ク變更セリ

一「鐵道ヨリ遠ク離レテ前進スヘキ東軍ノ爲ニハ多數ノ前進集積所ヲ設ケテ直

接ニ師團輜重ヲ補充シ軍力漸次南方ニ遠カルニ從ヒ更ニ輸送隊ヲシテ追送セシメ集積所ノ補充ハ專ラ輸送隊ノ備役車輛ニ依リ支倉庫ヨリ行フ

二、主力タル西軍ノ糧秣ハ奉天倉庫ヨリ補充ス

然ルニ軍沙河ノ線ニ於テ支阻セラレルヤ糧秣ノ補充ハ僅ニ聯隊輜重ト師團輜重トノ一部ヲ使用シテ實行シ得ルニ至リシヲ以テ前記補充法ノ實施ヲ廢止セリ

沙河對陣間ノ倉庫

輸送隊ノ配置

沙河對陣間滿洲軍ヲ三軍ニ編成スルト共ニ一般共通倉庫ヲ設置スルコト能ハサルシヲ以テ第一軍ノ爲ニハ鐵嶺第二軍ノ爲ニハ奉天第三軍ノ爲ニハ開原ニ倉庫ヲ設ケ該三倉庫ノ補充ハ總經理部ヲシテ任セシメタリ此ノ倉庫ノ配當ハ鐵道ノ關係ト軍隊配置ノ狀況トニ基キシモノニシテ第三軍ハ最モ鐵道ニ近キヲ以テ最モ遠隔シタル開原ヨリ糧秣ヲ受領シ第二軍ハ未タ鐵道トノ連絡ヲ有セス軍及軍團輸送隊ニ依リ糧秣ヲ受領スルヲ要セシヲ以テ最モ近キ奉天ト爲セリ而シテ奉天以北ニ於テ鐵道ニ沿ヒ設置シタル全倉庫ハ直接總經理部次長ニ隸屬セシメタリ右ノ如ク倉庫ノ配當ヲ變更セシト共ニ輸送隊ヲ左ノ如ク配置シテ糧秣ヲ輸送セシメタリ

一、大嶺ノ北方三龍峪及同嶺ノ南方清河城ニハ駄馬第一大隊(輸送隊五隊)及雇驛

馬隊ヲ配置シ清河城或ハ高力營子方面ニ輸送ス

二、馬群鄂附近ニハ南部烏蘇里輜重大隊(二輪車輸送隊五隊)ヲ配置シ三龍峪ニ輸送ス

三、石灰廠ニ第一、第四輜重大隊(合計支那車輛輸送隊十隊)ヲ配置シ上海浪樂高臺嶺及馬群鄂ノ三條ノ道路ノ輸送ニ任ス

四、營盤ニハ駄馬第一大隊所屬ノ輸送隊一隊アリテ同地ニ在ル獨立西比利亞旅團ノ補給ニ任ス

五、撫順支線停車場ナル大瓦勾及小深井子附近ニハ第五、第六、第八、第九支那車輛大隊(合計輸送隊二十隊)ヲ配置シ主トシテ第一軍ノ輸送ニ任ス

六、撫順支線上孤家子停車場ニハ第二、第三及第七支那車輛大隊(合計輸送隊十五隊)アリテ大蘇家堡、大羊爾屯及荒山子ニ至ル三條ノ道路上ニ於テ第二軍ノ一部及第三軍ノ爲メ輸送ニ從事ス

七、奉天ニハ支那車輛第十大隊(輸送隊五隊)及駄馬第二大隊アリ支那車輛第十大隊ノ一輸送隊ハ撫順ニ派遣セラレ撫順營盤間ノ輸送ニ任シ其ノ他ノ大部ハ第二軍ノ區域ニ於ケル倭家堡及下河灣屯方面ノ輸送ニ任ス

三十七年ノ末總司令官ハ冬季間攻勢ヲ執ル計畫ヲ爲シ軍ニ配當シタル三個ノ大倉庫ニ二週間分ノ糧秣ヲ貯藏シ軍後方ヨリ松花江ニ至ル兵站地域内ニ於テモ亦二週間分ノ糧秣ヲ貯藏スル倉庫ヲ設ケシメ軍團等ニ對シテハ十日間ノ期限ヲ以テ左ノ如ク糧秣ヲ準備スヘキコトヲ命セリ

一、現在ノ携行糧秣ヲ十日半間兵卒ニ二日半分、第二輜重及師團輜重ニ八日分支ヘ得ル迄増加スルコト

二、軍團司令部所在地ニ八日分ノ糧秣ヲ集積スル倉庫ヲ設置スルコト

三、支倉庫ニハ現在有スル八日分ノ外更ニ八日分ノ特別豫備糧食ヲ準備スルコト

此ノ命令ヲ實施スルニハ糧秣貨車千五百輛ヲ要シ之ヲ十日間ニ完了スルニハ日々四列車半ヲ運轉セサルヘカラス然ルニ當時經理部ニ配當セラレタル列車數ハ日々三列車分ニ過キスシテ其ノ實施頗ル困難ナリシヲ以テ總司令官ハ經理部ニ命スルニ一部雇役ノ輸送部輜重ヲ利用シ先ツ軍團所在地ニ八日分支倉庫ニ五日分ノ豫備糧秣ヲ運搬スヘキコトヲ以テセリ然レトモ其ノ實行ハ屢々部隊ニ移動アリシ等ノ爲メ確實ナラスシテ概ネ一月七日ニ之ヲ終レリト云フ

冬期間ニ於ケル給養ハ總司令官ノ注意ニ因リ肉及麵包ノ定量ノ外毎日二回肉汁ヲ支給シ時トシテ粟又ハ米ノ粥ヲ與ヘタルノミナラス各聯隊ハ任意ニ其ノ經費ヲ以テ茶、砂糖及煙草ヲ給與セリ故ニ兵卒ノ食料ハ露國農民ノ常食ニ比シ十倍モ良好ナリシト云フ

然レトモ當時歐露ヨリ追送セル給養品ノ粗惡ナリシコトハ極東ニ發送スヘキ軍需品検査ノ爲メ勅命ヲ帶ヒ莫斯科ニ來リタルメーウエス大將カ第一回検査ノ結果集積シアル軍需品ノ大部分ハ殆ント用ヲ爲サス其ノ殘部ノモノモ特ニ良質ト云ヘカラサルヲ以テ自ラ此ノ地ニ止マリテ整理スルノ必要ヲ認ムル旨ノ報告ヲ提出セシニ依リ證スルヲ得ヘシト云フ

奉天ノ開戦ニ際シ諸支隊ノ編成屢々異動シ且一翼ヨリ他翼ニ移動スルコトノ多カリシコトハ著シク經理部業務ノ正確ヲ阻碍セリ之レ諸支隊ノ戰鬥部隊ハ容易ニ移動シ得ヘキヲ以テ迅速ニ一翼ヨリ他翼ニ轉シタリシト雖モ輜重及豫備糧秣ノ移動ハ此ノ如クスルコト能ハスシテ多數ノ時間ヲ要スルト倉庫ヨリ糧秣ヲ補給スルノ系統ヲ亂ルニ至レハナリ就中三月五日總司令官カ全輜重ヲ北方ニ避退セシムルニ至ルヤ軍隊ト倉庫トノ確實ナル連絡ヲ維持スヘカラサルニ至リ三月

退却前ノ奉天倉庫

退却線上ノ倉庫

輻重ノ退却

十日ノ大敗ニ際シ移動糧秣ノ大部分ヲ喪失セリ
 敵ノ漸次近接スルニ伴ヒ各軍ノ前進倉庫ハ悉ク燒棄シタリシヲ以テ奉天ニ於ケル倉庫ハ三箇軍ニ對スル補給糧秣ノ唯一ノ發送點トナリ一方ニハ退却ノ場合ヲ顧慮シテ必要ナル貨物ノ後送ヲ計畫スル爲メ其ノ業務極メテ紛亂ヲ醸セリ
 三月九日奉天ヲ撤去スヘキ命令ト共ニ退却途上ニ臨時倉庫ヲ設置スヘキヲ命ジタリシモ總司令部運輸課ニ直屬セル輸送隊ハ戦闘間總テ各隊ニ配屬シ奉天ニ現在セシモノハ新設輸送隊(支那車輛八十輛)及雇支那馬車二百輛ノミナリシヲ以テ九日夕僅ニ少數ノ乾麵包及罐詰ヲ後送シテ奉天、鐵嶺間ニ於ケル兵站司令部及退却部隊ニ交付セシニ過キサリシト云フ
 輻重ノ退却ニ關シテハ總司令官ハ三月五日總テノ輻重ヲ胡土臺停車場ヨリ蒲河ニ至ル線以北ニ退却スヘキヲ命ジ更ニ三月六日總參謀長ハ鐵嶺以北ニ退却スヘキコトヲ指示シタリシニ拘ラス九日軍ノ退却命令ヲ下シタリシトキハ師團輻重及第二輻重ノ大部ハ猶軍隊ノ許ニ在リシ爲メ非常ナル混雜ヲ生シ軍隊ノ行進ヲ遲滯セシメテ多大ノ損害ヲ受ケタリ殊ニ第二、第三軍ハ軍輸送隊ニ豫メ退却ニ際スル必要ノ指示ヲ與ヘサリシヲ以テ一部ハ遺棄セラレ一部ハ任意ニ奉天ニ來リ

輻重委案ノ原因

奉天會戰ノ損失

奉天倉庫長ノ無能

テ總司令部運輸課長ノ指示ヲ受クルニ至レリ
 以上ノ如クニ至リシ原因ハ各指揮官ノ不注意怠慢ニ因リシハ勿論ナリシモ一ニハ經理部倉庫ト各軍團間ニ於ケル糧秣ノ受授圓滑ニ行ハレス從テ最後ニ至ル迄輻重ヲ有セサレハ軍隊ノ給養ヲ支持スルコト困難ナリシニ基因セシコトモ亦大ナリシト云フ

第四 奉天會戰ヨリ戰爭終末期迄ノ狀況

奉天ノ會戰ハ輻重ノ努力足ラサリシト豫備糧秣ヲ過多ニ軍隊ノ所在地ニ集積シタリシ結果軍退却ニ當リテ糧秣ヲ撤退スルコト能ハサリシハ勿論ニシテ鐵道貨車三千六百輛分ノ穀物及乾麵包其ノ他多量ノ藁秣石炭ヲ燒棄若クハ敵手ニ歸スルノ已ムヲ得サルニ至レリ之ニ加フルニ奉天ノ倉庫長ハ此ノ如キ場合ニ關スル處置ニ就テ爲ス所ヲ知ラス此ノ地ヲ通過スル軍隊ニ對シテハ其ノ補給系統ノ如何ヲ論セス臨機請求ニ應ジ迅速ニ其ノ糧秣ヲ交付スルヲ至當トセシニ拘ハラズ單ニ倉庫ノ規律ヲ維持スルニ應心シ火急ノ退却ヲ爲ス軍隊ニ糧秣ヲ交付スルニ當リテモ其ノ數量ヲ點檢シ受領證ヲ請求セリ故ニ糧秣ノ燒燼シツアルヲ目撃セル受領者ハ此ノ如キ虛式ニ拘泥スルヲ喜ハスシテ糧秣ノ請求受領ヲ爲ササル